2025 年度文学研究科履修要項

目 次

学					年					,	曆	•••••	2
年	度	Ē	始	め	:	行	事		日	5	程		3
教	育研究	是上0	り目的	内とラ	゛イフ	プロー	マポリ	ノシ	一、				
					力	リキ	ュラ	ム・	ポ	リシ	/—	•••••	4
成	蹊	J	¢	学	大	学	i B	記	学	إ	則		12
成	蹊丿	て学	大	学队	完 文	:学	研	究	科	規	則		23
成	蹊	5	大	学		学	位		規	J	則		38
研	究指	導計	·画	· 学	立審	查基	支準 4	等に	:つ	ر بر	T	•••••	45
修:	七論文	τ.	「特別	它課題	到研究	芒の月	戊果」	及	び				
	博	士論	文(課程	博士	• 論	文博	士)	提	出要	更領	•••••	51
単	位	互	換	に	関	す	る	協	定	<u> </u>	書		76
注			意	ţ			事				項		85
履	修	Ş	登	録	,	Ŀ	の		注	-	意		87
授											業		92
履			修	Ę			中			-	止		94
成										j	績		95
学										;	籍		97
9	月	修	了	•	修	了	延	期	伟	IJ.	度		99
納					付					:	金		101
開		謙		科		目		_				•••••	103

※シラバスについては、ポータルサイトで確認してください。

SEIKEI PORTAL URL: https://portal.seikei.ac.jp/

<u> </u>		美栗四	<u>数を表し</u>			1				ı				I m. a.
	日		月		火		水		木		金			備考
	3/16		3/17		3/18				3/20		3/21			オリエンテーション期間:3/21(金)~4/10(木)、新入生プレースメントテスト(オンライン):3/22(土)~3/29(土)
2024	3/23		3/24	MA 11 . 2-r	3/25		3/26		3/27		3/28		3/29	
	3/30		3/31	学生証	4/1			入学式	4/3		4/4			学生証交付:4/1(火)、入学式:4/3(木)、健康診断:4/1(火)~4/7(月)
-	4/6		4/7		4/8		4/9		4/10		4/11			前期授業開始:4/11(金)
-	4/13		4/14		4/15		4/16		4/17	_	4/18		4/19	
	4/20		4/21	3	4/22 4/29		4/23		4/24		4/25	憲法	4/26	
	4/27	(3)	4/28 5/5		4/29 5/6		4/30 5/7		5/1 5/8	4	5/2		5/10	
	5/4 5/11		5/12		5/13		5/14	_	5/15		5/16		5/10	
		(4)	5/12	_	5/20	_	5/14	_	5/22	_	5/23		5/1/	
	5/18		5/19		5/20				5/22		5/30		-	学内競漕大会:5/28(水)
-	5/25 6/1	7	6/2		6/3	1	6/4		6/5		6/6		6/7	
-	6/8	-	6/9	(8)	6/10		6/11		6/12		6/13		6/14	
-	6/15	-	6/16)	6/17	9	6/18		6/19		6/20			 補講日:6/21(土)-7/5(土)-7/12(土)
-	6/22	10	6/23	(10)	6/24		6/25		6/26		6/27		-	学内運動競技大会:6/27(金)~6/29(日)
-	6/29		6/30)	7/1		7/2		7/3			才 運 補講	7/5	
	7/6		7/7	12	7/1		7/9		7/10	_	7/11			 6限補講:7/10(木)~7/23(水)の6限目
	7/13	-	7/14		7/15		7/16		7/10		7/11			では
		_	7/14	(14)	7/13		7/10		7/24	_	7/16			大学 19 (エ) 19
	7/20									武物央		武物央		
	7/27	武駛	7/28	武鞅	7/29		7/30		7/31		8/1			試験予備日:7/31(木)、夏期休業期間:8/1(金)~9/18(木)
	8/3	e la	8/4		8/5		8/6		8/7		8/8		8/9	
	8/10	Щ	8/11		8/12		8/13		8/14		8/15		8/16	
	8/17		8/18		8/19						8/22			追試験期間:8/20(水)~8/22(金)
	8/24		8/25		8/26	1	8/27		8/28		8/29		8/30	
	8/31	集中 講義1	9/1	集中 講義1 集中	9/2	017-9.0	9/3	D17-476 A	9/4	D17-476 A	9/5			夏期集中講義期間第1週:9/1(月)~9/5(金)
	9/7	講義2	9/8	講義2	9/9	講義2	9/10		9/11	集中 講義2	9/12			夏期集中講義期間第2週:9/8(月)~9/12(金)
	9/14		9/15	~! · ·	9/16		9/17	_	9/18	-	9/19			後期授業開始:9/19(金)
	9/21	(1)	9/22		9/23	1)	9/24		9/25	_	9/26			学位授与式:9/27(土)
2025	9/28		9/29		9/30	-	10/1		10/2		10/3		10/4	
	10/5		10/6		10/7	-	10/8		10/9	_	10/10		10/11	
	10/12	_	10/13	3	10/14		10/15		10/16	-	10/17			祝日授業日:10/13(月)スポーツの日、四大学運動競技大会(成城):10/17(金)~10/19(日)
	10/19		10/20		10/21	-	10/22		10/23		10/24		10/25	
	10/26		10/27	5	10/28		10/29		10/30		10/31		11/1	
	11/2		11/3	6	11/4		11/5		11/6		11/7			祝日授業日:11/3(月)文化の日
	11/9		11/10		11/11		11/12		11/13		11/14		11/15	
	11/16		11/17		11/18		11/19		11/20					棒祭期間:11/21(金)~11/24(月)
	11/23		11/24	9	11/25		11/26		11/27		11/28		11/29	
	11/30	10	12/1	10	12/2		12/3		12/4		12/5			補講日:12/6(土)・12/13(土)・12/20(土)
	12/7	_	12/8		12/9		12/10		12/11		12/12			
	12/14	12	12/15	_	12/16		12/17		12/18		12/19			6限補講期間:12/17(水)~12/23(火)の6限目
	12/21	13	12/22	13	12/23		12/24		12/25		12/26		12/27	冬期休業期間:12/24(水)~1/8(木)
	12/28		12/29		12/30		12/31		1/1		1/2		1/3	
	1/4		1/5		1/6		1/7		1/8		1/9	予備日	1/10	授業予備日:1/10(土)
	1/11	成人	1/12	_	1/13		1/14		1/15	14)	1/16		1/17	6限補講期間:1/13(火)~1/19(月)の6限目
	1/18	14)	1/19	試験	1/20	試験	1/21	試験	1/22	試験	1/23	試験	1/24	後期授業終了:1/19(月)、学期末試験期間:1/20(火)~1/27(火)
	1/25	試験	1/26	試験	1/27	試験予備	1/28		1/29		1/30		1/31	試験予備日:1/28(水)、春期休業期間:1/29(木)~3/20(金)
	2/1		2/2		2/3		2/4		2/5		2/6		2/7	
	2/8		2/9		2/10	建国	2/11		2/12		2/13		2/14	
	2/15	追試	2/16	追試	2/17	追試	2/18		2/19		2/20		2/21	追試験期間:2/16(月)~2/18(水)
	2/22	天皇	2/23		2/24		2/25		2/26		2/27		2/28	
	3/1		3/2		3/3		3/4		3/5		3/6		3/7	
	3/8		3/9		3/10		3/11		3/12		3/13		3/14	
	3/15		3/16		3/17		3/18	授与式	3/19	春分	3/20		3/21	学位授与式:3/19(木)
	3/22		3/23		3/24		3/25		3/26		3/27		3/28	
H	3/29		3/30		3/31		4/1		4/2		4/3		4/4	

*このほか、避難訓練を年1回以上実施します。※詳細は決定次第お知らせします。

2025年度 年度始め行事日程【文学研究科】

日付	対象者	行事・ガイダンス名	時間	実施場所 ・方法	注意事項
4月1日(火)	新入生	学生証交付および書類配布 大学院(全研究科)	13:40~14:00	4-101	必ず左記の時間に参加してください。
4月1日(火)	新入生	英米文学専攻ガイダンス(文学研究科)	14:15~14:45	2-308	
4月1日(火)	全学生	日本文学専攻ガイダンス(文学研究科)	14:15~15:15	2-310	
4月1日(火)	全学生	社会文化論専攻ガイダンス(文学研究科)	14:15~15:15	2-307	
4月1日(火)~ 4月7日(月)	全学生	定期健康診断 ※原則、指定された日時に受診してください。 ※詳細は大学保健室ホームページ・ボータルサイトを 確認してください。	9:00~11:30 13:00~16:00	3号館	大学保健室ホームページ
4月3日(木)	新入生	入学式	大学HP参照	大学HP参照	
4月3日(木)	新入生	学生生活オリエンテーション	11:00~11:35	大学体育館	大学保健室、学生サポートセンターについては オンデマンドで実施します。
4月3日(木)	新入生	留学&国際交流オリエンテーション	11:35~11:40	大学体育館	
4月3日(木)	新入生	図書館オリエンテーション	11:40~11:55	大学体育館	
4月3日(木)	新入生	大学院新入生歓迎パーティ	15:30~16:30	10号館 12階ホール	
4月4日(金)	新入生	教職課程新入生ガイダンス (希望者のみ)	10:00~12:00	6-301	
4月3日 (木) ~ 4月17日 (木)	全学生	履修登録			
4月11日(金)	全学生	授業開始			

2025年度 オンデマンドで実施する行事・ガイダンス一覧

※各種資料・動画配信用のURL等については、SEIKEI PORTALよりご確認ください。

公開期間は以下の通りです(但し、予備登録などの<u>手続き期限前の視聴・閲覧が必要なものもあります</u>ので注意してください。)

在学生:3月21日(金) $9:00\sim4$ 月30日(水)17:00 ※3月27日 $18:00\sim3$ 月28日 10:00はシステムメンテナンスのためポータルサイト・CoursePowerが利用できません。

新入生:4月 1日 (火) 9:00~4月30日 (水) 17:00

対象者	行事・ガイダンス名	注意事項
新入生	8つの初期設定 (SEIKEI PORTAL、Microsoft365 等) ※合格者専用ページ内「SEIKEI PORTALについて」の項目にて案内済み	<u>4月2日</u> までに視聴してください。
新入生	教職課程科目履修説明 (希望者のみ)	<u>4月4日</u> までに視聴してください。
在学生	奨学金新規応募方法・必要書類関係 (日本学生支援機構奨学金・大学独自奨学金) (希望者のみ)	申請締切日等については掲載書類をよく確認してください。
新入生	奨学金新規応募方法・必要書類関係 (日本学生支援機構奨学金・大学独自奨学金) (希望者のみ)	申請締切日等については掲載書類をよく確認してください。
新入生	学生生活オリエンテーション (大学保健室、学生サポートセンター)	

【注意事項】

- ・行事・ガイダンス日程に変更がある場合、掲示で連絡しますので、各自注意してください。
- ・各種願出の受付は、それぞれ期間・場所・方法が異なりますので、注意してください。

成蹊大学大学院文学研究科

1 教育研究上の目的

成蹊大学大学院文学研究科(以下「本研究科」という。)における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、以下のとおりとする。

本研究科の基本理念は、言語、文学、歴史、思想等に関わる伝統文化を継承しながら、新たな知見を生み出して社会に寄与することである。

この理念を実現するため、人間と社会に対する広範な理解および探究心と、高度な専門知識と能力を 持った専門職業人や、広く深い専門的素養を身につけた人材、ならびに問題を発見し追究する能力に富 み、学問的創造性を発揮しうる優れた学術研究者を育成することを人材養成の目的とする。

各課程・各専攻における教育研究上の目的は、次のとおりとする(文学研究科規則第1条の2および3による)。

(1) 博士前期課程

<英米文学専攻 研究コース>

イギリス文学、アメリカ文学、英語学又は英語教育のいずれかの分野において、創造性豊かな優れた研究活動を行っていくために必要とする専門的知識の修得及び研究能力の涵養を目的とする。

<英米文学専攻 総合コース>

イギリス文学、アメリカ文学、英語学又は英語教育のいずれかの分野において広い専門的知識及び豊かな英語能力を兼ね備えた高度な専門職業人並びに広い知的素養を備えた人材の養成を目的とする。

<英米文学専攻 英語教育コース>

英語教育に関する高度な理論及び方法並びに授業実践に結びつく専門的知識を有する優れた英語教員の養成を目的とする。

<日本文学専攻 研究コース>

日本語学又は日本文学のいずれかの分野において、創造性豊かな優れた研究活動を行っていくために必要とする基礎的な知識の修得、研究能力の養成及び分野を横断した幅広い視野の涵養を目的とする。

<日本文学専攻 総合コース>

日本語学及び日本文学における、広い専門的知識を備えた高度な専門職業人及び広く高度な知的素養を備えた人材の養成を目的とする。

<社会文化論専攻 研究コース>

歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等の研究領域のうち選択する分野において、創造性豊かな優れた研究活動を行っていくために必要とする専門的な知識の修得、研究能力の養成及び分野を横断した幅広い視野の涵養を目的とする。

<社会文化論専攻 総合コース>

歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等の研究領域に関し、専門的知識を備え、それを実践的活動へ導く能力を有する高度な専門職業人及び広い知的素養を備えた人材の養成を目的とする。

(2) 博士後期課程

<英米文学専攻>

イギリス文学、アメリカ文学、英語学又は英語教育のいずれかの分野において、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等を養成することを目的とする。

<日本文学専攻>

日本語学又は日本文学のいずれかの分野において、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者 等を養成することを目的とする。

<社会文化論専攻>

歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等の研究領域のうち選択する分野において、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等を養成することを目的とする。

2 学位授与の方針 (Diploma Policy: DP)

博士前期課程において以下に掲げる要件をすべて満たし、所定の単位を修得した上で修士論文(研究コース)又は特定課題研究の成果(総合コース、英語教育コース)を提出して最終試験に合格した者に対し、「修士(文学)」(英米文学専攻、日本文学専攻)又は「修士(学術)」(社会文化論専攻)の学位を授与する。

また、博士後期課程において以下に掲げる要件をすべて満たし、所定の単位を修得した上で博士学位 論文を提出して最終試験に合格した者に対し、「博士(文学)」(英米文学専攻、日本文学専攻)又は「博士(学術)」(社会文化論専攻)の学位を授与する。

(1) 博士前期課程

<英米文学専攻 研究コース>

【専門分野の知識・理解】

- (DP1) イギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学、英語教育の分野のいずれかにおいて十分な専門知識を修得している。
- (DP2) DP1に加えて、コア・カリキュラムの履修により、より幅広い視野から専門分野の研究が行える基礎的知識を修得している。

【研究能力及び発信力】

- (DP3) イギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学、英語教育の分野のいずれかにおいての研究者 として、自立可能な研究能力及び研究成果を適切に表現する論文作成能力を修得している。
- (DP4) 修了時には英語で修士論文を執筆できる

<英米文学専攻 総合コース>

【専門分野の知識・理解】

(DP5) イギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学、英語教育の十分な基礎的知識を修得してい

る。

(DP6) DP5に加えて、コア・カリキュラムの履修により、より幅広い視野から専門分野の研究が行える基礎的知識を修得している。

【研究能力及び発信力】

(DP7) 専門分野について英語で論文を書くことができる。

<英米文学専攻 英語教育コース>

【専門分野の知識・理解】

- (DP8) 英語教育研究の最新の動向に触れ、理論と教育方法の十分な基礎的知識を修得している。
- (DP9) コア・カリキュラムの履修により、英語教育の場にいかせるイギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学の基礎知識を修得している。
- (DP10) 英語教員に必要な英語運用能力を修得している。

【研究能力及び発信力】

(DP11) 修了時には、英語で課題レポートを執筆できる。

<日本文学専攻 研究コース>

【専門分野の知識・理解】

(DP1) 日本語学又は日本文学の分野に関する高度な専門知識と、関連分野に関する深い知識を修得している。

【研究能力】

(DP2) 日本語学又は日本文学の分野に関して、独自の研究課題を発見し、それを探究することのできる高度な研究能力を身に付けている。

【コミュニケーション能力】

(DP3) 日本語学又は日本文学の分野の研究者として、自らの主張や見解を根拠に基づいて論理的に 伝えるとともに、他者の意見や論理を深く理解することのできるコミュニケーション能力を 有している。

<日本文学専攻 総合コース>

【専門分野の知識・理解】

(DP4) 日本語学及び日本文学の分野に関する専門知識と、関連分野に関する基本的な知識を幅広く 修得している。

【研究能力】

(DP5) 日本語学又は日本文学の分野に関して、自分の研究課題を設定し、それを調査・分析する能力を身に付けている。

【コミュニケーション能力】

(DP6) 日本語学及び日本文学の分野に関する知識や自らの主張・見解を根拠に基づいて積極的に発信するとともに、他者の意見を的確に理解する能力を有している。

<社会文化論専攻 研究コース>

【専門分野の知識・理解】

- (DP1) 歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等の研究領域のうち選択する分野において、創造性豊かで優れた研究者として活動を行っていくために必要とされる高度な専門知識を修得している。
- (DP2) 歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等の研究領域のうち選択する分野以外においても、分野を横断した幅広い視野を身につけている。

【研究能力及び発信力】

(DP3) 歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等の研究領域のうち選択する分野の研究者として、自らの研究課題を発見し、オリジナリティの

ある研究成果を適切に表現する論文作成能力を修得している。

(DP4) 専門家にふさわしい責任感と倫理性をもって研究活動する意識を身につけている。

<社会文化論専攻 総合コース>

【専門分野の知識・理解】

- (DP5) 歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等の研究領域のうち選択する分野において、優れた研究活動を行っていくために必要とされる専門的知識を修得している。
- (DP6) 歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等の研究領域のうち選択する分野以外においても、幅広い視野を身につけている。
- (DP7) 専門的な知識をもとに、それを実践的活動へ導く能力を修得している。

【研究能力及び発信力】

- (DP8) 歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等の研究領域のうち選択する分野において、自らの研究課題を発見し、研究成果を適切に表現する能力を修得している。
- (DP9) 責任感と倫理性をもって研究活動する意識を身につけている。

なお、修士論文及び特定課題研究の成果について、全専攻共通の評価基準として次を定める。

[修士論文評価の基準]

- 1 研究テーマの学問的意義および独創性
- 2 問題探究意識の高さ
- 3 先行研究への目配りおよび取扱いの適切性
- 4 論旨の明快さと整合性、主張するところの明瞭性
- 5 資料の収集および調査方法の適切性
- 6 表現および表記法の適切さ

[特定課題研究の成果評価の基準]

- 1 特定課題に対する取り組み方の適切性
- 2 先行研究への目配りおよび取扱いの適切性
- 3 論旨の明快さと整合性、主張するところの明瞭性
- 4 資料の収集および調査方法の適切性
- 5 表現および表記法の適切さ

(2)博士後期課程

<英米文学専攻>

【専門分野の知識・理解】

(DP1) 研究者として自立して活動するために必要とされる、各自の専門分野における高度な専門的 知識や理論(文学批評理論、文化批評理論、言語学理論、第二言語修得理論等)を修得してい る。

【研究能力及び発信力】

(DP2) 英米文学文化研究、英語学研究、あるいは英語教育の学術的発展に貢献できる創造性豊かな 研究能力及び研究成果を適切に表現する論文作成能力を修得している。

<日本文学専攻>

【専門分野の知識・理解】

(DP1) 日本語学又は日本文学の分野に関して、研究者として自立して活動するために必要な高度な 専門知識を修得している。

【研究能力】

(DP2) 日本語学又は日本文学の分野に関して、独自の研究課題を発見し、独創的な研究を展開する 能力を修得している。

【コミュニケーション能力】

(DP3) 日本語学又は日本文学の分野の研究成果を学会や専門雑誌などで発表するとともに、他の研究者と議論したり、共同研究に参加したりする能力を身に付けている。

<社会文化論専攻>

【専門分野の知識・理解】

(DP1) 歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等の研究領域のうち選択する分野において、研究者として自立して活動するために必要な高度な専門的知識を修得している。

【研究能力及び発信力】

- (DP2) 歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等の研究領域のうち選択する分野において、その分野の学術的発展に貢献することのできる創造性豊かな研究能力及び研究成果を適切に表現する論文作成能力を修得している。
- (DP3) 専門家として未解決の諸問題に主体的に取り組みつつも、責任感と倫理性をもって活動する 意識を身につけている。

なお、博士論文について、全専攻共通の評価の基準として、上記の修士論文評価の基準に加え、学界に対する学術的寄与の度合いを含める。

3 教育課程編成・実施の方針 (Curriculum Policy: CP)

本研究科は、「学位授与の方針」を踏まえ、次のような方針で教育課程を編成・実施する。

(1) 博士前期課程

<英米文学専攻 研究コース>

- (CP1) イギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学、英語教育の分野のいずれかにおいて十分な専門知識を修得(DP1) できるよう、それぞれの分野での専門科目を提供し、指導教授を中心に研究指導をする。
- (CP2) 専門分野の知識だけでなく、より幅広い分野の知識と研究手法に触れる(DP2)ために、イギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学、英語教育の基礎的専門科目を履修する制度(コア・カリキュラム制度)を設置し、組織的な指導体制のもとで研究指導をする。
- (CP3) 学会発表や論文執筆の能力(DP3、DP4)を養成するために、日本語のみでなく英語での 論文執筆指導も提供する。
- (CP4) 学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、 文学研究科の定める基準により評価する。

<英米文学専攻 総合コース>

- (CP5) イギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学、英語教育の十分な基礎的知識を修得(DP5)できるよう、それぞれの分野での専門科目を提供し、指導教授を中心に研究指導をする。
- (CP6) 専門分野の知識だけでなく、より幅広い分野の知識と研究手法に触れる(DP6) ために、イギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学、英語教育の基礎的専門科目を履修する制度(コア・カリキュラム制度) を設置し、組織的な指導体制のもとで研究指導をする。
- (CP7) 論文執筆の能力(DP7、DP8)を養成するために、日本語のみでなく英語での論文執筆指導も提供する。
- (CP8) 学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、 文学研究科の定める基準により評価する。

<英米文学専攻 英語教育コース>

- (CP9) 英語教育研究の基礎的知識と最新の動向に触れ、理論と実践方法の十分な基礎知識 (DP9) を身につけられる専門科目を提供し、指導教授を中心に研究指導をする。
- (CP10) 英語教育の場にいかせるイギリス文学文化、アメリカ文学文化、英語学の基礎知識 (DP10) を身につけられるよう、コア・カリキュラム制度を設置し、組織的な指導体制のもとで研究指導をする。
- (CP11) 英語で論文執筆ができる(DP11、DP12)ように、英語での論文執筆指導科目を提供する。
- (CP12) 学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、文学研究科の定める基準により評価する。

<日本文学専攻 研究コース>

- (CP1) 日本語学又は日本文学の分野の専門知識と関連分野の知識を幅広く修得できる(DP1)ように、共通講義科目を設置する。
- (CP2) 日本語学又は日本文学の分野の知見を深め、研究能力を身に付けることができる(DP1、 DP2)ように、個別研究科目を設置する。
- (CP3) 修士論文の作成に向けて先行研究をふまえたうえで学術的な論文を執筆できる(DP2、DP3) ように、論文演習科目を設置する。
- (CP4) 日本語学又は日本文学の分野における十分な研究能力を獲得できる(DP2)ように、指導教授を中心とした組織的な研究指導体制のもとで研究指導を行う。
- (CP5) 学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、 文学研究科の定める基準により評価する。

<日本文学専攻 総合コース>

- (CP6) 日本語学及び日本文学の分野の専門知識と関連分野の知識を幅広く修得できる(DP4)ように、共通講義科目を設置する。
- (CP7) 日本語学又は日本文学の分野の知見を深め、研究手法を修得できる(DP4、DP5)ように、個別研究科目を設置する。
- (CP8) 特定課題研究の成果の作成に向けて、たしかな根拠に基づいて論文が執筆できる(DP5、 DP6)ように、課題研究科目を設置する。
- (CP9) 日本語学又は日本文学の分野における研究能力を養う(DP5) ために、指導教授を中心と した組織的な研究指導体制のもとで研究指導を行う。
- (CP10) 学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、文学研究科の定める基準により評価する。

<社会文化論専攻 研究コース>

- (CP1) 創造性豊かで優れた研究活動を行っていくために必要とする専門知識・研究能力(DP1) を修得できるよう、研究科目と演習科目の重層的な教育課程を編成する。
- (CP2) 分野を横断した幅広い視野 (DP2) を身につけられるよう、各自の専攻分野に加えて隣接 学問分野の授業を選択できる多様な授業科目を設置する。
- (CP3)自らの研究課題を発見し、オリジナリティのある研究成果を適切に表現する論文作成能力(DP3)を修得できるよう、研究指導計画に基づいた研究指導を提供する。
- (CP4) 専門家にふさわしい責任感と倫理性をもって研究活動する意識(DP4) を身につけられるよう、指導教員と密接にコミュニケーションが行えるような体制を維持する。
- (CP5) 学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、 文学研究科の定める基準により評価する。

<社会文化論専攻 総合コース>

- (CP6)優れた研究活動を行っていくために必要とする専門知識・研究能力(DP5)を修得できるよう、研究科目と演習科目の重層的な教育課程を編成する。
- (CP7) 幅広い視野(DP6) を身につけられるよう、各自の専攻分野に加えて隣接学問分野の授業 を選択できる多様な授業科目を設置する。
- (CP8) 専門的な知識をもとに、それを実践的活動へ導く能力(DP7)を修得できるよう、指導教員と密接にコミュニケーションが行えるような体制を維持する。
- (CP9) 自らの研究課題を発見し、研究成果を適切に表現する論文作成能力(DP8) を修得できるよう、研究指導計画に基づいた研究指導を提供する。
- (CP10) 責任感と倫理性をもって研究活動する意識(DP9) を身につけられるよう、指導教員と 密接にコミュニケーションが行えるような体制を維持する。
- (CP11) 学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、文学研究科の定める基準により評価する。

(2)博士後期課程

<英米文学専攻>

- (CP1) 研究者として自立して活動するために必要とされる、専門分野における高度な専門的知識や理論(文学批評理論、文化批評理論、言語学理論、第二言語修得理論等)を修得(DP13)できるよう、各自の専攻分野に加え、隣接学問分野の授業を選択できるように、多様な授業科目を提供し、指導教授を中心とした組織的な研究指導体制のもとで研究指導をする。
- (CP2) 英米文学文化研究、英語学研究、あるいは英語教育の学術的発展に貢献できる創造性豊かな 研究能力及び研究成果を適切に表現する論文作成能力を修得(DP14)できるよう、日本 語のみでなく英語での論文執筆指導も提供する。
- (CP3)学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、 文学研究科の定める基準により評価する。

<日本文学専攻>

- (CP1) 日本語学又は日本文学の分野に関する高度な専門知識を修得できる(DP1)ように、特殊 講義科目を設置する。
- (CP2) 日本語学又は日本文学の分野の研究能力を高めることができる(DP2)ように、特殊研究 科目を設置する。
- (CP3) 博士論文の作成に向けて学会や専門雑誌で研究成果を発表できる (DP2,DP3) ように

論文演習科目を設置する。

- (CP4) 日本語学又は日本文学の分野における卓越した又は独創的な研究を展開できる能力を養う (DP2) ために、指導教授を中心とした組織的な研究指導体制のもとで研究指導を行う。
- (CP5)学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、 文学研究科の定める基準により評価する。

<社会文化論専攻>

- (CP1)研究者として自立して活動するために必要な高度な専門的知識(DP1)を修得できるよう、 多様な授業科目を設置する。
- (CP2) 学術的発展に貢献することのできる創造性豊かな研究能力及び研究成果を適切に表現する論 文作成能力(DP2) を修得できるよう、研究指導計画に基づいた研究指導を提供する。
- (CP3) 高度な専門家にふさわしい責任感と倫理性をもって研究活動する意識(DP3) を身につけられるよう、指導教員と密接にコミュニケーションが行えるような体制を維持する。
- (CP4) 学修成果の評価に関しては、シラバスに定める方法により行い、学位審査の実施に際しては、 文学研究科の定める基準により評価する。

成蹊大学大学院学則

制 定 昭和41年3月18日 文部大臣認可 最新改正 2025年3月4日 学園理事会

第1章 総則

(目的)

- 第1条 成蹊大学大学院(以下「本大学院」という。)は、成蹊学園建学の精神に基づき、学術の理論 及び応用を教授研究し、その深奥を究めて文化の進展に寄与すること及び高度の専門性が求められる 職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とする。
- 2 本大学院は、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的について研究科ごとに定める。 (自己点検及び評価等)
- 第2条 本大学院は、教育研究水準の向上を図り、大学院設置の目的及び社会的使命を達成するため、 教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するとともに、教育研究活 動等の改善及び充実に努めるものとする。
- 2 前項の点検及び評価を行うに当たっての項目の設定、実施体制等については、別に定める。
- 3 本大学院は、第1項の点検及び評価の結果について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関による認証評価を受けるものとする。

(情報の公表)

- 第2条の2 本大学院は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を公表するものとする。 (課程、修業年限等)
- 第3条 本大学院に修士課程及び博士課程を置く。
- 2 修士課程の標準修業年限は、2年とする。
- 3 博士課程の標準修業年限は5年とし、これを前期2年(以下「博士前期課程」という。)及び後期3年(以下「博士後期課程」という。)に区分し、博士前期課程は、修士課程として取り扱うものとする。
- 4 博士前期課程において、主として実務の経験を有する者に対して教育を行う場合で、教育研究上の 必要があるときは、標準修業年限を1年とすることができる。

第4条 削除

(在学期間)

- 第5条 修士課程及び博士前期課程の在学期間は、4年を超えることができない。ただし、第3条第4 項に定める博士前期課程の在学期間は、2年を超えることができない。
- 2 博士後期課程の在学期間は、6年を超えることができない。
- 3 再入学した者の在学期間は、再入学前の在学年数を通算して、前2項の年数を超えることができない。
- 4 第1項及び第2項の規定にかかわらず、第7条の3に定める長期履修学生の在学期間については、 各研究科規則において別段の定めをすることができる。

(研究科及び専攻)

第6条 本大学院に次の研究科及び専攻を置き、修士課程、博士課程の別は、課程の欄に掲げるとおりとする。

研 究 科	専 攻	課程
理工学研究科	理工学専攻	博士課程
経済経営研究科	経済学専攻	博士課程
性阴性音切九件	経営学専攻	日 工 味 住
法学政治学研究科	法 律 学 専 攻	博士課程
伍子以伯子切九件	政治学専攻	日子 二 味 住
	英米文学専攻	
文 学 研 究 科	日本文学専攻	博 士 課 程
	社会文化論専攻	

- 2 博士前期課程において、第3条第4項に定める教育を行う場合で、通例の時間又は時期と併せて第 9条の2に定める教育方法により教育上支障を生じないときは、各研究科規則の定めるところにより、 標準修業年限を1年とする履修上のコース(以下「1年制コース」という。)を置くことができる。 (収容定員)
- 第7条 各研究科の収容定員は、次の表のとおりとする。

[博士課程]

THE OTE THE	± 4	前期	課程	後期	課程	合計
研 究 科	専 攻	入学	収容	入学	収容	収容 定員
		定員	定員	定員	定員	ľ.
理工学研究科	理工学専攻	70	140	10	30	170
	経済学専攻	6	12	3	9	21
経済経営研究科	経営学専攻	10	20	3	9	29
	計	16	32	6	18	50
	法 律 学 専 攻	8	16	4	12	28
法学政治学研究科	政治学専攻	4	8	2	6	14
	計	12	24	6	18	42
	英米文学専攻	8	16	4	12	28
文学研究科	日本文学専攻	8	16	4	12	28
	社会文化論専攻	8	16	4	12	28
	計	24	48	12	36	84
合	計	122	244	34	102	346

(教職課程)

- 第7条の2 この大学院に、教育職員免許法による教職課程を置く。
- 2 教職課程に関する規則は、別に定める教職課程規則による。 (長期にわたる教育課程の履修)
- **第7条の3** 職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、修了することを入学時に希望する者があるときは、各研究科規則の定めるところにより、許可することができる。
- 2 前項の許可を得た学生を長期履修学生と称する。
- 3 長期履修学生に関する事項は、この学則及び各研究科規則で定めるもののほか、別に定める規則による。

第7条の4 削除

第2章 教育課程等

(教育課程の編成方針)

- 第8条 各研究科は、その教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設するとともに、学位論 文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)の計画を策定し、体系的に教育課程を編成す るものとする。
- 2 教育課程の編成に当たっては、各研究科は、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう努めるものとする。 (教育内容等の改善のための組織的な研修等)
- 第8条の2 本大学院は、授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究 を実施するものとする。

(研究指導、授業科目及び履修方法)

- 第9条 各研究科における研究指導並びに授業科目、単位数及び履修方法は、各研究科規則の定めると ころによる。
- 2 各研究科は、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに1年間の授業及び研究指導の 計画をあらかじめ明示するものとする。

(教育方法の特例)

第9条の2 各研究科において教育上特別の必要があると認めるときは、各研究科規則の定めるところにより、通例と異なる特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

(単位の計算方法)

- 第10条 各授業科目の単位の計算については、成蹊大学学則第36条の規定を準用する。 (授業の方法)
- 第10条の2 授業の方法については、成蹊大学学則第36条の2の規定を準用する。 (単位修得の認定)
- 第11条 単位修得の認定は、試験又は研究報告等により行う。 (成績評価等)
- 第11条の2 授業科目の成績評価は、上位よりS (100~90点)、A (89~80点)、B (79~70点)、C (69~60点)、F (59点以下)の5段階をもって表示し、F を不合格、その他を合格とする。なお、単位認定科目はT、履修中止はWと表示する。
- 2 前項の成績評価による学業結果のうち、修了に必要な単位として算入することのできる授業科目(Tの成績評価を受けた授業科目を除く。以下この条において同じ。)の学業成績を総合的に判断する指標として、評定平均値(Grade Point Average。以下「GPA」という。)を用いる。
- 3 GPAは、修了に必要な単位として算入することのできる授業科目の成績評価のうち、Sに4.0、Aに3.0、Bに2.0、Cに1.0、Fに0をそれぞれ評価点として与え、各授業科目の評価点にその単位数を乗じて得た積の合計を、修了に必要な単位として算入することのできる授業科目の総履修登録単位数で除して算出する。
- 4 学位論文又は特定の課題についての研究(以下「特定課題研究」という。)の成果の審査及び最終 試験の判定は、合格、不合格の2種類とする。
- 5 各研究科は、第1項及び前項に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保 するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行う ものとする。

(他大学院又は外国の大学の大学院における履修等)

- 第12条 各研究科において教育研究上有益であると認めるときは、学生が他大学の大学院又は外国の大学の大学院(制度上これに相当するものを含む。以下「外国の大学院」という。)の授業科目を履修することを認めることができる。
- 2 前項の規定により履修した授業科目の修得単位は、第13条又は第14条に規定する単位として10単位 を超えない範囲で、各研究科規則の定めるところにより、本大学院において修得した単位とみなすこ とができる。
- 3 各研究科において教育研究上有益であると認めるときは、他大学の大学院又は研究所等(外国の大学院又は研究所等を含む。以下「他大学の大学院等」という。)と協議の上、学生が当該他大学の大学院等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。ただし、修士課程及び博士前期

課程の学生については当該研究指導を受ける期間は、1年を超えることができない。 (入学前の既修得単位等の認定)

- 第12条の2 各研究科において教育研究上有益であると認めるときは、学生が本大学院に入学する前に大学院(外国の大学院を含む。)において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本大学院に入学した後の本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 2 前項により修得したものとみなす単位数は、転入学及び再入学の場合を除き、本大学院において修得した単位以外のものについては、10単位を超えない範囲で、各研究科規則の定めるところにより、第13条又は第14条に規定する単位として算入することができる。

第3章 課程の修了及び学位の授与

(修士課程、博士前期課程の修了要件)

- 第13条 修士課程及び博士前期課程の修了要件は、大学院に2年(1年制コースにあっては、1年) 以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士 論文又は特定課題研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関して は、特に優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。
- 2 前項の規定にかかわらず、各研究科は、当該課程の目的に応じ、修了要件のうち修得すべき単位を、30を超える数の単位とすることができる。

(博士課程の修了要件)

- 第14条 博士課程の修了要件は、大学院に5年(修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学し、各研究科規則に定める所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、特に優れた研究業績を上げた者については、大学院に3年(修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあっては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学すれば足りるものとする。
- 2 1年制コースを修了した者及び前条第1項ただし書の規定による在学期間をもって修士課程又は博士前期課程を修了した者の博士課程の修了の要件は、大学院に修士課程又は博士前期課程における在学期間に3年を加えた期間以上在学し、各研究科規則に定める所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、特に優れた研究業績を上げた者については、大学院に3年(修士課程又は博士前期課程における在学期間を含む。)以上在学すれば足りるものとする。
- 3 第1項及び前項の規定にかかわらず、学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第70条の2の規定により、大学院への入学資格に関し修士の学位若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者又は専門職学位課程を修了した者が、博士課程の後期3年の課程に入学した場合の博士課程の修了の要件は、大学院(専門職大学院を除く。以下この項において同じ。)に3年(法科大学院の課程を修了した者にあっては、2年)以上在学し、各研究科規則に定める所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、特に優れた研究業績を上げた者については、大学院に1年(標準修業年限が1年以上2年未満の専門職学位課程を修了した者にあっては、3年から当該1年以上2年未満の期限を減じた期間)以上在学すれば足りるものとする。

(修了の認定)

- 第14条の2 前2条に規定する修了要件を満たした者については、成蹊大学学位規則の定めるところにより、当該研究科教授会の議を経て、学長が課程の修了を認定する。 (修了の時期)
- 第14条の3 修了の時期は、学年の終了日とする。ただし、前期の終了日までに第13条又は第14条に 規定する修了要件を満たした場合は、これを前期の終了日とすることができる。 (学位の授与)
- 第15条 修士課程及び博士前期課程を修了した者には、学長は、修士の学位を授与する。博士課程を 修了した者には、学長は、博士の学位を授与する。
- 2 前項に定めるもののほか、博士の学位は、博士課程を修了しない者についても、学位論文を提出してその審査及び試験に合格し、かつ、その関係専攻分野に関し本大学院の博士課程を修了した者と同

等以上の学力学識を有すると確認した場合には、授与することができる。

(学位論文等の審査、最終試験等)

第16条 学位論文又は特定課題研究の成果の審査、最終試験その他学位に関し必要な事項は、成蹊大学学位規則の定めるところによる。

第4章 学年、学期及び休業日

(学年、学期及び休業日)

- 第17条 学年、学期及び休業日は、成蹊大学学則の定めるところによる。
- 2 教育上特別の必要がある場合には、前項の休業日に授業又は研究指導を行うことができる。 第5章 入学、休学、復学、留学、研究科・専攻の変更、転学、退学、再入学及び除籍 (入学時期)
- 第18条 入学の時期は、学年の始めとする。

(修士課程及び博士前期課程の入学資格)

- 第19条 修士課程及び博士前期課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
 - (1)修業年限4年以上の大学を卒業した者
 - (2) 独立行政法人大学評価・学位授与機構により学士の学位を授与された者
 - (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
 - (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
 - (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
 - (6) 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府 又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣 が別に指定するものに限る。)において、修業年限が3年以上である課程を修了すること(当該外 国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了す ること及び当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって前号の指定を受けた ものにおいて課程を修了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者
 - (7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
 - (8) 文部科学大臣が指定した者
 - (9) 各研究科の定めるところにより、大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、当該研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
 - (10) 各研究科の定めるところにより、当該研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業 した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達したもの

(博士後期課程の入学資格)

- **第20条** 博士後期課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
- (1)修士の学位又は専門職学位を有する者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位 又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 文部科学大臣が指定した者
- (6) 各研究科の定めるところにより、当該研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位 又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達したもの
- (入学志願の手続)
- 第21条 入学を志願する者は、所定の書類に入学検定料を添えて、定められた期日までに提出しなけ

ればならない。

(入学の許可)

- 第22条 入学を志願した者に対しては、選考の上、入学を許可する。考査及び選考の方法は、別に定める。
- 2 前項の規定による入学の許可は、当該研究科教授会の議を経て、学長が決定する。 (入学手続)
- 第23条 入学を許可された者のとるべき手続については、成蹊大学学則第26条の規定を準用する。 (休学)
- 第24条 病気その他の理由により、3カ月以上就学することができない場合は、所定の願書を提出し、 当該研究科教授会の議を経て、学長の許可により休学することができる。
- 2 休学中の者が復学を希望する場合は、所定の願書を提出し、当該研究科教授会の議を経て、学長の 許可により復学することができる。
- 3 休学期間は、通算して2年を超えることができない。
- 4 休学期間は、在学期間に算入しない。 (復学)
- 第24条の2 休学中の者が復学を希望する場合は、所定の願書を提出し、当該研究科教授会の議を経て、学長の許可により復学することができる。

(留学)

- 第25条 第12条第1項及び第3項の規定に基づき、外国の大学院又は研究所等で授業又は研究指導を 受けることを希望する者は、留学することができる。
- 2 前項の規定による留学の許可は、当該研究科教授会の議を経て、学長が決定する。
- 3 前項による留学期間は、次のとおりとする。
- (1) 博士前期課程(修士課程を含む。)及び博士後期課程において、それぞれ1年を超えることができない。ただし、博士後期課程において、特別の事情がある場合には、さらに1年以内の延長を認めることできる。
- (2) 第5条、第13条及び第14条に定める在学期間に算入する。
- 4 その他留学に関し必要な事項は、別に定める。

(研究科又は専攻の変更)

- 第25条の2 研究科の変更を願い出た者については、関係研究科の研究科長の了承を得て、選考の上、 許可することがある。
- 2 前項の規定による研究科の変更の許可は、転入する研究科の教授会の議を経て、学長が決定する。
- 3 研究科内にあって専攻の変更を願い出た者については、当該研究科教授会の議を経て、学長が専攻 の変更を許可することがある。

(転学)

(除籍)

- **第26条** 他大学の大学院から転入学を志願する者については、欠員のある場合に限り、選考の上、入学を許可することがある。
- 2 本大学院の学生で、他大学の大学院に転学しようとする者は、保証人連署の上願い出て、許可を得なければならない。
- 3 前2項の規定による許可は、当該研究科教授会の議を経て、学長が決定する。 (退学)
- 第27条 病気その他の理由により、退学しようとする者は、所定の願書を提出し、当該研究科教授会の議を経て、学長の許可により退学することができる。 (再入学)
- 第28条 本大学院を中途退学した者又は次条第2号の規定により除籍された者が、同一研究科に再入学を志願するときは、選考の上、再入学を許可することがある。
- 2 前項の規定による再入学の許可は、当該研究科教授会の議を経て、学長が決定する。
- 3 再入学の時期は、許可された年度の翌年度始めとする。ただし、教育上特別の必要があると認める場合には、再入学の時期を許可された年度の後期の始めとすることができる。
- 第29条 次の各号のいずれかに該当する場合は、当該研究科教授会の議を経て、学長が除籍する。

- (1) 在学期間が所定の年数を超える者
- (2) 授業料等の納付金又は在籍料を滞納し、催告してもこれに応じない者

第6章 入学検定料、入学金及び授業料等の納付金

(納付金)

- 第30条 入学検定料、入学金及び授業料等の納付金の額は、別表第1に定めるとおりとする。
- 2 休学中は、授業料等の納付金を納入しなければならない。ただし、休学期間が学期の全期間にわたる場合には、その学期について納入すべき授業料等の納付金の納入を要せず、別表第2に定める在籍料を納入するものとする。
- 3 留学中は、留学期間が学期の全期間にわたる場合には、その学期について納入すべき授業料等の納付金を減額する。
- 4 退学する場合には、退学の日の属する学期について納入すべき授業料等の納付金又は在籍料を納入 しなければならない。
- 5 授業料等の納付金及び在籍料の納入に関して必要な事項は、別に定める規則による。
- 6 納入した授業料等の納付金及び在籍料は、原則として返還しない。
- 7 在学中に納入すべき授業料等の納付金その他の納付金が改定された場合は、改定後の額を納入しなければならない。

第7章 賞罰

第31条 賞罰については、成蹊大学学則第13章の規定を準用する。

第8章 教員組織及び運営組織

(授業及び研究指導担当)

- 第32条 本大学院における授業(研究指導補助を含む。)及び研究指導は、次項の各号に掲げる大学院担当資格を有する専任教員が担当する。ただし、各研究科が教育上必要と認めるときは、専任以外の教員を授業担当に充てることができる。
- 2 専任教員の大学院担当資格は、次の各号に定める教員のうちから、各研究科の定める基準により発 令するものとする。
- (1)修士課程及び博士前期課程

ア 授業担当は、教授、准教授、講師及び助教とする。

- イ 研究指導担当は、教授及び准教授とし、講師及び助教については、特に優れた業績を有する等 特段の事情がある場合を除き、発令しない。
- (2) 博士後期課程

ア 授業担当は、教授及び准教授とする。

イ 研究指導担当は、教授とする。ただし、特に優れた業績等を有する場合には、准教授を含める ことができる。

(教員の役割分担及び連携体制の確保)

第32条の2 各研究科は、教員の適切な役割分担及び連携体制を確保し、組織的な教育が行われるよう特に留意するものとする。

(研究科長)

- 第33条 研究科に、研究科長を置く。
- 2 研究科長は、学長を補佐し、当該研究科に関する校務をつかさどる。
- 3 研究科長の選任等に関し必要な事項は、別に定める。

(研究科教授会)

- 第34条 研究科に、研究科教授会を置く。
- 2 研究科教授会は、当該研究科の大学院担当資格を有する専任の教授、准教授及び講師をもって構成 する。
- 3 研究科教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
- (1) 学生の入学及び課程の修了に関する事項
- (2) 学位の授与に関する事項
- (3)前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、研究科教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が別に定めるもの
- 4 研究科教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び研究科長がつかさどる教育研究に関する事

項について審議し、並びに学長及び研究科長の求めに応じ、意見を述べることができる。

- 5 研究科教授会に関する規則は、別に定める。
- 第35条 削除

第9章 研究指導施設

- 第36条 本大学院に学生研究室、演習室及び実験実習室を置く。
- 2 本大学の施設は必要に応じ、学生の研究及び指導のために使用することができる。

第10章 厚生保健施設

- 第37条 本大学院の学生は、成蹊大学学則に掲げる厚生保健施設を使用することができる。
 - 第11章 研究生、聴講生、委託生、科目等履修生、特別聴講学生及び外国人留学生

(研究生、聴講生、委託生及び科目等履修生)

第38条 研究生、聴講生、委託生及び科目等履修生に関しては、特に定める場合のほか、成蹊大学学 則第9章の規定を準用する。

(特別聴講学生)

第39条 本大学院と他大学の大学院との協定に基づき、当該他大学の大学院の学生が本大学院において特定の授業科目を履修し、単位を修得しようとするときは、各研究科において、特別聴講学生として履修を許可することができる。

(外国人留学生等)

- 第40条 外国人で、大学院において教育を受ける目的をもって入国し、本大学院に入学(研究生、委託生及び科目等履修生として入学する場合を除く。)を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。
- 2 前項の規定にかかわらず、本大学と外国の大学院との協定(大学間の協定において、大学院への入学を認める場合を含む。)に基づき本大学院に入学を志願する者があるときは、当該協定に基づき、 外国人協定留学生として入学を許可するものとする。

(研修料等の納付金)

- 第41条 研究生、聴講生、委託生及び科目等履修生の研修料等の納付金の額は、別表第3に定めると おりとする。
- 2 前項に規定する納付金及び外国人留学生の授業料等の納付金の納入に関し必要な事項は、別に定める規則による。
- 3 特別聴講学生の聴講料は、第39条に規定する協定による。
- 4 納入した第1項及び第2項に規定する納付金は、原則として返還しない。 (学則の改廃)
- 第42条 この学則の改廃は、理事会の議を経なければならない。

(略)

附 則 (2017年2月24日一部改正)

- 1 この学則は、2017年4月1日から施行する。
- 2 法科大学院の課程の2017年度から2018年度までの間の収容定員は、改正後の第7条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

[法科大学院の課程]

研 究 科	専 攻	2017年度	2018年度
法務研究科	法 務 専 攻	60	30

3 法務研究科法務専攻は、改正後の第7条の規定にかかわらず、2017年3月31日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則 (2017年12月21日一部改正)

この学則は、2018年4月1日から施行する。

附 則 (2021年3月26日一部改正)

この学則は、2021年4月1日から施行する。

附 則 (2025年3月4日一部改正)

- 1 この学則は、2025年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1の規定は、2025年度以降の入学者から適用し、2024年度以前の入学者については、なお従前の例による。

別表第1 (第30条関係)

[修士課程・博士前期課程]

項	1		研究科	経済経営・法学政治学・ 文学各研究科	理工学研究科
入	学検	定 料		35,000円	35,000円
入	学	金		200,000円	200,000円
授	業	料	(年額)	550,000円	770,000円
施	設	費	(年額)	115,000円	300,000円
設	備	費	(年額)	30,000円	115,000円

(注)長期履修学生の授業料(年額)、施設費(年額)及び設備費(年額)は、それぞれ上記の額に所定の標準修業年限を乗じ、入学時に許可された修業年限(標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に本大学院の課程を履修し、修了するための期間をいう。以下同じ。)で除した額とする。

〔博士後期課程〕

項	目		_	_	研究科	経済経営・法学政治学・ 文学各研究科	理 工 学 研 究 科
入	学	検	定	料		35,000円	35,000円
入		学		金		200,000円	200,000円
授		業		料	(年額)	470,000円	630,000円
施		設		費	(年額)	115,000円	300,000円
設		備		費	(年額)	30,000円	115,000円

(注)長期履修学生の授業料(年額)、施設費(年額)及び設備費(年額)は、それ ぞれ上記の額に所定の標準修業年限を乗じ、入学時に許可された修業年限で除し た額とする。

別表第2 (第30条関係)

項目			研究科	経済経営・法学政治学・ 文学各研究科	理	工	学	研	究	科
在	籍	料	(年額)	150,000円			150,	000	円	

(注) 在籍料は、休学期間が半年の場合は、半額とする。

別表第3 (第41条関係)

研 宪 生

項		_	_		研究科	経済経営・法学政治学・ 文学各研究科	理	I	学	研	究	科
入	学	検	定	料		35,000円			35, (700円]	
登		録		料		50,000円			50, 0	700円]	
研		修		料	(年額)	400,000円		(600,	000円	7	

(注)研修料は、研修期間が半年の場合は、半額とする。

聴 講 生

項目		研究科	経済経営・法学政治学・ 文学各研究科	理	エ	学	研	究	科
聴	講 (1科目年額)	料	40,000円			40,0	00円		

(注) 1科目とは、週2時間通年の講義をいう。週2時間半年の講義の場合は、半額 とする。

委 託 生

HG	-									
項目			研究科	経済経営・法学政治学・ 文学各研究科	理	エ	学	研	究	科
登	録	料		50,000円			50,0	700円]	
研	修	料	(年額)	400,000円		(500,	000円]	

(注) 研修料は、研修期間が半年の場合は半額とする。

科目等履修生

日 寸/図/シエ			
項目	研究科	・経済経営・法学政治学・ 文学各研究科	理工学研究科
入 学	検 定 料	10,000円	10,000円
登	録料	30,000円	30,000円
履修料	講義・演習科目	15,000円	15,000円
(1単位につき)	実験・実習科目	20,000円	20,000円

成蹊大学大学院文学研究科規則

制 定 昭和45年11月24日 学 園 理 事 会 最新改正 2024年11月8日 常 務 理 事 会

(趣旨)

第1条 この規則は、成蹊大学大学院学則(以下「学則」という。)に基づき、文学研究科(以下「本研究科」という。)における学則実施上の必要な事項を定める。

(本研究科における教育研究上の目的)

- 第1条の2 本研究科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。
 - (1) 博士前期課程 次条において定める。
 - (2) 博士後期課程 それぞれの専攻に関連する分野に応じ、創造性豊かな優れた研究・開発能力を 持つ研究者等を養成することを目的とする。

(博士前期課程におけるコースの設置及び各コースの目的)

- 第1条の3 本研究科の博士前期課程の各専攻にコースを置く。
- 2 各専攻におけるコースの種類及びその目的は、次のとおりとする。
- (1) 英米文学専攻

ア 研究コース

イギリス文学、アメリカ文学、英語学又は英語教育のいずれかの分野において、創造性豊かな優れた研究活動を行っていくために必要とする専門的知識の修得及び研究能力の涵養を目的とする。

イ 総合コース

イギリス文学、アメリカ文学、英語学又は英語教育のいずれかの分野において広い専門的知識 及び豊かな英語能力を兼ね備えた高度な専門職業人並びに広い知的素養を備えた人材の養成を 目的とする。

ウ 英語教育コース

英語教育に関する高度な理論及び方法並びに授業実践に結びつく専門的知識を有する優れた英語教員の養成を目的とする。

(2) 日本文学専攻

ア 研究コース

日本語学又は日本文学のいずれかの分野において、創造性豊かな優れた研究活動を行っていく ために必要とする基礎的な知識の修得、研究能力の養成及び分野を横断した幅広い視野の涵養を 目的とする。

イ 総合コース

日本語学及び日本文学における、広い専門的知識を備えた高度な専門職業人及び広く高度な知的素養を備えた人材の養成を目的とする。

(3) 社会文化論専攻

ア 研究コース

歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等の研究領域のうち選択する分野において、創造性豊かな優れた研究活動を行っていくために必要とする専門的な知識の修得、研究能力の養成及び分野を横断した幅広い視野の涵養を目的とする。

イ 総合コース

歴史学、文化人類学、国際関係研究、地域研究、比較文化研究、社会学、メディア研究等の研 究領域に関し、専門的知識を備え、それを実践的活動へ導く能力を有する高度な専門職業人及び 広い知的素養を備えた人材の養成を目的とする。

3 学生は、所属する専攻に応じ、前項に掲げるいずれかのコースに所属するものとする。

4 学生が、その所属するコースの変更を申し出たときは、文学研究科教授会の議を経てコースを変更することができるものとする。

(教育課程及び研究指導)

- 第2条 前2条に掲げる目的を達成するために必要な本研究科の授業科目及び単位数は、別表第1に定めるとおりとする。
- 2 本研究科における授業科目の履修の方法及び学位論文の作成又は特定の課題についての研究(以下「特定課題研究」という。)に対する指導(以下「研究指導」という。)の計画については、別に 定める。

(長期履修学生の受入れ)

- 第2条の2 本研究科の博士前期課程に、学則第7条の3に規定する長期履修学生を受け入れることができる。
- 2 長期履修学生の修業年限は、4年とし、在学期間は、6年を超えることができないものとする。 (他の大学院等における履修及び修得単位)
- **第3条** 研究科長が教育研究上有益であると認めるときは、その所属専攻以外の専攻若しくは他研究科 又は他の大学(外国の大学を含む。)の大学院の授業科目を履修させることができる。
- 2 博士前期課程の学生が前項の規定により履修した授業科目の修得単位は、10単位を限度として、本研究科において修得した単位とみなすことができる。

(入学前の既修得単位等の認定)

- 第3条の2 研究科長が教育研究上有益であると認めるときは、学生が本研究科に入学する前に大学院 (外国の大学の大学院を含む。)において履修した授業科目の修得単位(科目等履修生として修得 した単位を含む。)を、本研究科において修得した単位とみなすことができる。
- 2 前項の場合において、大学院において修得した単位(本研究科において修得した単位を除く。) は、10単位を限度として、本研究科において修得した単位とみなすことができる。ただし、転入学 者及び再入学者については、この限りでない。

(指導教授)

- 第4条 研究科長は、博士前期課程及び博士後期課程に入学した学生の指導教授を定めるものとする。
- 2 指導教授は、学則第9条第2項の規定に基づき、指導する学生の研究指導計画を策定し、研究科長の承認を得るものとする。

(履修計画)

- 第5条 学生は、前条第2項の研究指導計画に基づき、別表第1に定める授業科目を計画的かつ体系的 に履修しなければならない。
- 2 長期履修学生が各年次において履修登録することのできる単位数は、14単位を超えることができない。ただし、研究科長が特に認めるときは、この限りでない。
- 3 学生は、授業科目の履修に当たっては、学期の始めにおいて所定の様式により申請し、研究科長の 承認を得なければならない。

(単位の認定)

第6条 授業科目修了の認定は、筆記試験若しくは口述試験又は研究報告等により、当該科目担当教員 が行うものとし、合格者に所定の単位を与える。

(単位の認定の時期)

第7条 前条に規定する単位の認定は、授業科目の履修が終了する学年又は学期の末において行う。ただし、研究科長が特別の事情があると認めるときは、期日を変更することができる。

(転学者の単位の認定)

第8条 他大学の大学院から転入学した学生が当該大学院で修得した単位は、別に定める基準により、 別表第2に定める修了に必要な単位として認定することができる。

(単位認定科目の成績評価)

- 第9条 第3条、第3条の2及び前条の規定により認定する授業科目の成績評価は、学則第11条の2の 規定により、Tと表示する。ただし、研究科長が特に必要と認めるときは、この限りでない。 (学位論文等の提出)
- 第10条 学位論文又は特定課題研究の成果は、指導教授の承認を得て、所定の期日までに提出しなければならない。

2 修士の学位論文又は特定課題研究の成果を提出しようとする者は、提出年度の前年度末までに、所属する専攻の授業科目について16単位以上を修得していなければならない。

(博士前期課程の修了要件)

(博士後期課程の修了要件)

- 第11条 博士前期課程の修了要件は、博士前期課程に2年以上(長期履修学生にあっては、4年以上) 在学し、所属する専攻の授業科目について、別表第2に定める修了に必要な修得単位数を修得し、か つ、必要な研究指導を受けた上、研究コースにあっては修士論文の審査及び最終試験、総合コース及 び英語教育コースにあっては特定課題研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。
- 第12条 博士後期課程の修了要件は、博士後期課程に3年以上在学し、所属する専攻の授業科目について16単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

(組織的な研修及び研究を行うための委員会)

- 第13条 本研究科に、学則第8条の2の規定に基づき、授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図ることを目的として組織的な研修及び研究を行うための委員会を置く。
- 2 前項に規定する委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(略)

附 則 (2017年11月10日一部改正)

- 1 この規則は、2017年11月10日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、改正後の第 10 条第 2 項の規定は、2018 年度以降の入学者から適用し、 2017 年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則(2020年1月24日一部改正)

- 1 この規則は、2020年4月1日から施行する。
- 2 改正後の成蹊大学大学院文学研究科規則の規定は、2020年度以降の入学者から適用し、2019年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則 (2020年9月11日一部改正)

- 1 この規則は、2021年4月1日から施行する。
- 2 改正後の成蹊大学大学院文学研究科規則の規定は、2021年度以降の入学者から適用し、2020年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則 (2021年7月9日一部改正)

- 1 この規則は、2022年4月1日から施行する。
- 2 改正後の成蹊大学大学院文学研究科規則の規定は、2022年度以降の入学者から適用し、2021年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則 (2024年11月8日一部改正)

- 1 この規則は、2025年4月1日から施行する。
- 2 改正後の成蹊大学大学院文学研究科規則の規定は、2025年度以降の入学者から適用し、2024年度以前の入学者については、なお従前の例による。

別表第1 (第2条関係)

1 博士前期課程

(1) 英米文学専攻

		業	——— 斗 目			単位数
	研	究	科		目	, ,,
< イ :	ギリス	文 学	研究	科目	>	
イギ	リス	文 学	研究	A	I	2
イギ	リス	文 学	研究	A	Π	2
イギ	リス	文 学	研究	В	I	2
イギ	リス	文 学	研究	В	Π	2
イギ	リス	文 学	研究	C	I	2
イギ	リス	文 学	研究	C	Π	2
< 7	メリカ	文学	研究	科目	>	
アメ	リカ	文 学	研究	A	I	2
アメ	リ カ	文 学	研究	A	Π	2
アメ	リ カ	文 学	研究	В	I	2
アメ	リカ	文 学	研究	В	Π	2
アメ	リ カ	文 学	研究	C	I	2
アメ	リカ	文 学	研究	C	Π	2
< 英	語		究 科	目	>	
英	語 学		究	Α	I	2
英	語 学		究	Α	Π	2
英	語 学	研	究	В	I	2
英	語 学		究	В	Π	2
英	語 学	研	究	С	I	2
英	語 学	研	究	С	Π	2
< 英	語 教	育 研	究 科	· 目	>	
英 語	教	育 研	· 究	Α	I	2
英 語	教	育 研	· 究	Α	Π	2
英 語	教	育 研	· 究	В	I	2
英 語	教	育 研	· 究	В	Π	2

	演		翟	∄		科		目	
< /	イギリ	リス	文	学	演習	習 科	上目	>	
イ	ギリ	ス	文	学	演	習	Α	I	2
イ	ギリ	ス	文	学	演	習	Α	Π	2
イ	ギリ	ス	文	学	演	習	В	I	2
イ	ギリ	ス		学	演	習	В	Π	2
イ	ギリ	ス	文	学	演	習	С	I	2
イ	ギリ	ス		学	演	習	С	Π	2
< 7	アメリ	リカ	文	学	演習	图 科	上目	>	
ア	メリ	力	文	学	演	習	Α	I	2
ア	メーリ	力	文	学	演	習	Α	Π	2
ア	メーリ	力	文	学	演	習	В	I	2
ア	メーリ	力	文	学	演	習	В	Π	2
ア	メーリ	力	文	学	演	習	С	I	2
ア	メーリ	力	文	学	演	習	С	Π	2
<	英 語	学	湞	į 3	IZI E	科	目	>	
英	語	学	湞	ŧ	習	F	A	I	2
英	語	学	湞	ŧ	習	F	A	Π	2

英語 等演 習BI 英語 等演 習CI	2 2 2
英 語 学 演 習 C II	2
< 英語教育演習科目 > 英語教育演習 A I	9
英 語 教 育 演 習 A I 英 語 教 育 演 習 A Ⅱ	2 2
英語教育演習BI	2
英語教育演習BI	2
共 通 科 目	
< 所属専攻科目>	
Thesis Writing I	2
Thesis Writing II	2
イギリス文学コア・カリキュラムA	2
イギリス文学コア・カリキュラムB	2
アメリカ文学コア・カリキュラムA	2
アメリカ文学コア・カリキュラムB	2
批評理論コア・カリキュラムA	2
批評理論コア・カリキュラムB	2
英語学コア・カリキュラムA	2
英語学コア・カリキュラムB	2
英語教育コア・カリキュラムA	2
英語教育コア・カリキュラムB	2
< 学際科目>	
学際分野特殊研究	2
論 文 演 習 科 目	I
論 文 演 習 I	4
論 文 演 習 Ⅱ	4
チュートリアル科目	_
チュートリアル I	4
チュートリアル I	4

- 注 (1) 共通科目のうち、Thesis Writing I 及びThesis Writing II は、全てのコースの必修科目とする。
 - (2) 共通科目の英語教育コア・カリキュラムA及び英語教育コア・カリキュラムBは、英語教育コースの必修科目とする。
 - (3) 共通科目のうち、学際分野特殊研究は、8単位まで博士前期課程の修了に必要な単位に算入することができる。
 - (4) 論文演習科目は、研究コースの必修科目とする。
 - (5) チュートリアル科目は、総合コース及び英語教育コースの必修科目とする。

(2) 日本文学専攻

		授	業	科	目				単位数
		共	通	講	義	科		目	
<	所	属	専	攻	科	目	>		
古	典	文	学	共 ji	甬 講	義	Α		2
古	典	文	学	共 ji	甬 講	義	В		2
近	代	文			甬 講	義	Α		2
近	代	文			重 講	義	В		$\overline{2}$
日日	本	語			通 講	義	A		2
	本	語			通 講	義	В		2
文	献	資			通 講	義	A		2
文	献	資			ュ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	義	В		$\frac{2}{2}$
<		· 学	際	科科		我 目	>		2
学	際	分	野	特	殊		究		2
子	际	<u>万</u> 個	<u>野</u> 別	<u>村</u> 研	<u>/床</u> 究	<u>坜</u> 科	九	日	
古	代	<u>個</u> 文	学	 研			I	目	2
古古	代	文文	学	研	究	A	I		2
	代代	文文	子学	研研	究	В	П		2
古士	代代			研研					
古中		文			究	B	Π		2
中中	世			学	研	究	I		2
中	世			学	研	究	Π		2
近	世			学	研	究	I		2
近	世			学	研	究	Π		2
近	代	文	学	研	究	Α	I		2
近	代	文	学	研	究	Α	Π		2
近	代	文	学	研	究	В	I		2
近	代	文	学	研	究	В	Π		2
日	本	語	学	研	究	Α	I		2
日	本	語	学	研	究	Α	Π		2
日	本	語	学	研	究	В	I		2
日	本	語	学	研	究	В	Π		2
古	代	文	学	演	習	Α	I		2
古	代	文	学	演	習	Α	Π		2
古	代	文	学	演	習	В	Ι		2
古古	代	文	学	演	習	В	I		$\overline{2}$
中	世			学	演	習	I		2
中	世		τ	· 学	演	習	II		2
近	世	. 7	T	· 学	演	習	I		2
近近	世	, J	<u>`</u>	学	演	習	Π		2
近近	代	文		一演	習	A	I		2
近近	代	文			習	A	I		2
近近	代	文文	学	演演	習	В	I		2
近近	代代	文文	一十	演演	習	В	I		
		人	学学学学	演演	白以以		I		2
日日	本	語	子	供	習 33	A			2
日日日	本	語	子	演定	習 33	A	I		2
日日日	本	語	子兴	演 演	習 33	В	Ι π		2
日	本	語	学	(典	習 羽	B €1	II =		2
=∆.		論			광 ਸ਼	科	<u>目</u>		Α
論論		文 文		演 演	習 習		I II		4 4
戸田		<u>又</u> 課				科	<u>Ⅱ</u> 目		4
課		題		<u>明</u> 研	<u>光</u> 究	11	I		4
課		題		研	究		I		4
H/N		٨		ヴリ	ノロ		п		<u> </u>

注(1)共通講義科目のうち、学際分野特殊研究は、8単位まで博士前期課程の修了に必要な単

位に算入することができる。

- (2) 論文演習科目は、研究コースの必修科目とする。
- (3) 課題研究科目は、総合コースの必修科目とする。

(3) 社会文化論専攻

【2022年度以降入学生用】

	ł	受	業	科	目				単位数
	_	-	般	研	究	科		目	
<	所	属	専	攻	科	目	>		
欧	米	文	化	<u>.</u> 1	研	究	I		2
欧	米	文	11	<u> </u>	研	究	П		2
玉	際	生 多	文	化化			I		2
玉	際	生 会	文			究	П		2
文	化	人		学			I		2
文	化	人	類	学	研	究	Π		2
歴	史		研	究	-	A	I		2
歴	史		研	究		A	Π		2
歴	史		研	究		В	I		2
歴	史		研	究		В	Π		2
						研究	I		2
		• 3			r	研究	Π		2
社	会	学			究	A	I		2
社	会	学			究	Α	Π		2
社	会	学			究	В	I		2
社	会				究	В	Π		2
社	会	学			究	С	I		2
社	会	学			究	С	Π		2
メ	デ		ア		究	Α	I		2
メ	デ	イ	ア	研	究	Α	Π		2
メ	デ	イ	ア	研	究	В	I		2
メ	デ	イ	ア	研	究	В	Π		2
	或 福	祉		Р		研究	I		2
	或 福	祉	• N			研究	Π		2
<	学		際	科		目	>		_
学	際					研	究		2
	- 架		殊					目	
欧	米		化				I		2
欧	米	文	化,		寅、、、	習	I		2
国			文				I		2
国			文文				I		2
文	化	人	類	学		習	I		2
文	化	人	類	学		習	Π		2
歴	史		演	四 四		A	I		2
歴	史		演	習 33		A	Π		2
歴	史		演 ※	習 33		В	Ι		2
歴	史		演 °	習)\$⇒ 33	Π		2
			ジェ			演習	I		2
	生史	· シ				演習	Π		2
社	会	学	演		習 33	A	I		2
社	会	学	海		習 33	A	Π		2
社	会	学 学	演演		習 33	В	I		2
→ I		7	YΞ	, -	450	В	Π		2
社	会				習				
社社社	会会	学学	海海	ĺ	e 習 習	C C	I I		2 2

メ	デ	1	ア	演	習	Α	I	2
メ	デ	1	ア	演	習	Α	Π	2
メ	デ	イ	ア	演	習	В	I	2
メ	デ	イ	ア	演	習	В	Π	2
地	域 ネ	畐 祉	• N	P	Ο	演 習	I	2
地	域~	畐 祉	• N	P	O	演 習	Π	2
		論	文	演	習	科	目	
論		文	演	į	習	Ī	I	4
論		文	演	į	習	Ī	Π	4
		課	題	研	究	科	目	
課	•	題	研	:	究	1	I	4
課		題	研	:	究	1	Π	4

- 注(1)一般研究科目のうち、学際分野特殊研究は、8単位まで博士前期課程の修了に必要な単位 に算入することができる。
 - (2) 論文演習科目は、研究コースの必修科目とする。
 - (3) 課題研究科目は、総合コースの必修科目とする。

【2021年度以前入学生用】

	授	業	科	E				単位数
	_	般	研	究	和	4	目	
< 所					目			
欧 米	文	11	1	研	究	I		2
欧 米	文	11	1	研	究	Π		2
国 際	社	会 文	化化	: 研	千 究	I		2
国 際	社	会 文	化化	: 研	千 究	Π		2
文 化	人	類	学	研	究	I		2
文 化	人	類	学	研	究	Π		2
歴 5	Þ	研	究		Α	I		2
歴 5	Þ	研	究		Α	Π		2
歴 5	Þ	研	究		В	I		2
歴 5	Þ	研	究		В	Π		2
女性史	! • 3	ブ エ			研多	É I		2
女性史	! • 3	ブ エ	ンタ	<i>"</i> —	研多	E II		2
社 会	学	矽	F á	究	Α	I		2
社 会	学	矽	F á	究	Α	Π		2
社 会	学	矽	F §	究	В	I		2
社 会	学	矽	F á	究	В	Π		2
社 会	学	矽	F á	究	С	I		2
社 会	学	矽	F á	究	С	Π		2
メデ	1	ア	研	究	Α	I		2
メデ	イ	ア	研	究	A	Π		2
メデ	イ	ア	研	究	В	I		2
メデ	イ	ア	研	究	В	Π		2
地域裕	副 祉	• N	Р	Ο	研究	İ		2
地域福		• N	ГР	Ο	研究	Ι		2
<	之	際	科		目	>		
学際					研			2
-	特	殊	研	究	和	¥	目	
			化		演	習		4
国 際	社	会	文	化	演	習		4

1 ,	r. r	VC 3) (\ <u></u>	বর	
文(匕 人	類 学	演	習	4
歴	史	演	習	Α	4
歴	史	演	習	В	4
女 性	史 ・ ジ	ェンタ	一演	習	4
社	会 学	演	習	Α	4
社	会 学	演	習	В	4
社	会 学	演	習	С	4
メラ	ディ	ア演	習	Α	4
メラ	ディ	ア演	習	В	4
地 域	福 祉	• N P	O 演	習	4
	論	文 演 習	图 科	目	
論	文	演	習	I	4
論	文	演	習	Π	4
	課是	夏 研 多	宅 科	目	
課	題	研	究	Ι	4
課	題	研	究	Π	4

- 注(1)一般研究科目のうち、学際分野特殊研究は、8単位まで博士前期課程の修了に必要な単位に算入することができる。
 - (2) 論文演習科目は、研究コースの必修科目とする。
 - (3) 課題研究科目は、総合コースの必修科目とする。

2 博士後期課程

(1) 英米文学専攻

【2022年度以降入学生用】

12022年及外库八	1 11 1		
授	業科	目	単位数
イギリス文	学特殊研	究 A I	2
イギリス文	1 14 % 10 .21	究 A Ⅱ	2
イギリス文		究 B I	2
イギリス文	学特殊研	究 B Ⅱ	2
イギリス文	学特殊研	究 C I	2
イギリス文	学特殊研	究 C Ⅱ	2
アメリカ文	学特殊研	究 A I	2
アメリカ文	学特殊研	究 A Ⅱ	2
アメリカ文	学特殊研	究 B I	2
アメリカ文	学特殊研	究 B Ⅱ	2
アメリカ文	学特殊研	究 C I	2
アメリカ文	学特殊研	究 C Ⅱ	2
英語学物	寺 殊 研 多	モ A I	2
英 語 学 特	寺 殊 研 多	モ A II	2
英語学物	寺 殊 研 多	E BI	2
英 語 学 特	寺 殊 研 多	₹ B II	2
英 語 教 育	特殊研究	Ë A I	2
英 語 教 育	特殊研究	Ë A II	2
英 語 教 育	特殊研究	ЕВ І	2
英 語 教 育	特殊研究	E B II	2
論 文	演習	${ m I\hspace{1em}I}$	4
論 文	演習	IV	4
論 文	演習	V	4

(注)論文演習Ⅲ、論文演習Ⅳ及び論文演習Ⅴは、必修とする。

【2021年度以前入学生用】

V D O D I	1 /	<u>~~1117</u>	<u> </u>	<u> </u>	4					
		授		業	彩	ŀ	目			単位数
イ	ギ	リス	文	学	特	殊	研	究	Α	4
イ	ギ	リス	文	学	特	殊	研	究	В	4
イ	ギ	リス	文	学	特	殊	研	究	С	4
ア	メ	リカ	文	学	特	殊	研	究	Α	4
ア	メ	リカ	文	学	特	殊	研	究	В	4
ア	メ	リカ	文	学	特	殊	研	究	С	4
英	語	学	特		殊	研	2	究	Α	4
英	語	学	特		殊	研	2	究	В	4
英	語	教	育	特	殊	石	开	究	A	4
英	語	教	育	特	殊	石	开	究	В	4
論		文		演		궡	되 크		${\rm I\hspace{1em}I\hspace{1em}I}$	4
論		文		演		궡	되 크		IV	4
論		文		演		궡	되 크		V	4

(注)論文演習Ⅲ、論文演習IV及び論文演習Vは、必修とする。

(2) 日本文学専攻

		授	<u> </u>	<u></u>	禾	<u> </u>	目			単位数
古	典	文	学	华	寺	殊	講	義	A	2
古	典	文	学	华	寺	殊	講	義	В	2
近	代	文	学	华	寺	殊	講	義	Α	2
近	代	文	学	华	寺	殊	講	義	В	2
日	本	語	学	华	寺	殊	講	義	Α	2
日	本	語	学	华	寺	殊	講	義	В	2
文	献	資	料	华	寺	殊	講	義	Α	2
文	献	資	料	华	寺	殊	講	義	В	2
古	代	文	学	特	殊	研	究	Α	I	2
古	代	文	学	特	殊	研	究	Α	Π	2
古	代	文	学	特	殊	研	究	В	I	2
古	代	文	学	特	殊	研	究	В	Π	2
中	世	文	学	牛	寺	殊	研	究	I	2
中	世	文	学	牛	寺	殊	研	究	Π	2
近	世	文	学	牛	寺	殊	研	究	I	2
近	世	文	学	牛	寺	殊	研	究	Π	2
近	代	文	学	特	殊	研	究	Α	I	2
近	代	文	学	特	殊	研	究	Α	Π	2
近	代	文	学	特	殊	研	究	В	I	2
近	代	文	学	特	殊	研	究	В	Π	2
日	本	語	学	特	殊	研	究	Α	I	2
日	本	語	学	特	殊	研	究	Α	Π	2
日	本	語	学	特	殊	研	究	В	I	2
日	本	語	学	特	殊	研	究	В	Π	2
論		文		Ï	寅		習		${ m I\hspace{1em}I}$	4
論		文		Ï	寅		習		IV	4
論		文		Ï	貞		習		V	4

(3) 社会文化論専攻

【2022年度以降入学生用】

単立 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	【2022年度以降入学生用】		
IIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIII	授業科目		単位数
I II I I I I I I I I I I I I I I I I I	欧 米 文 化 特 殊 研 究	\overline{A} I	2
II I I I I I I I I I I I I I I I I I I	欧米文化特殊研究	A II	2
 Ⅰ II I I I I I I I I I I I I I I I I I	欧 米 文 化 特 殊 研 究	ΒΙ	2
IIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIII	欧 米 文 化 特 殊 研 究	в ІІ	2
□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	国際社会文化特殊研究	A I	2
□ 1 □ 1 □ 1 □ 1 □ 1 □ 1 □ 1 □ 1 □ 1 □ 1		Α П	
□ I I I I I I I I I I I I I I I I I I I			
 1 II I II I I I I I I I I I I I I I I I			
 □ I I I I I I I I I I I I I I I I I I I			
2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			
2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			
 歴歴歴歴歴歴歴歴歴歴歴社社社社社社社社社社メメメメメメメメニ論論 歴歴歴歴歴歴歴歴歴歴歴社社社社社社社社社社社メメメメメメメニ論論 歴歴歴歴歴歴歴歴歴歴歴歴歴歴社社社社社社社社社社社社社メメメメメメニ論論			
 型型型 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			
 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			
 型型型 型型 1 II /li>			
 正 I I I I I I I I I I I I I I I I I I I			
 □ I I I I I I I I I I I I I I I I I I I			
 I I I I I I I I I I I I I I I I I I I			
 □ I I I I I I I I I I I I I I I I I I I			
2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			
2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			
2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			
2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			
 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			
2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			
2 2 1 III 2 2 D III 2 2 D D I I IIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIIII			
 2 2<td></td><td></td><td></td>			
 2 3 4 			
2 2 E I I I I I I I I I I I I I I I I I I I			
社社メメメメメメメメメメメメメメメメメメメメメメメメメメメメメメメメメメメ			
 社 子 所			
ス I 2 ス A II 2 究 A II 2 究 究 B II 2 实 究 究 究 B II 2 水 研 研 研 研 研 研 研 研 研 研 研 研 研 研 研 研 研 研 研		F I	
2	社会学特殊研究]	F II	
メディステンタ 1 2 メデディイア 2 2 オデディイア 2 2 メメデディイア 2 2 メメデディイア 2 2 メメデディイア 2 2 メメディイア 2 2 メメディイカー 2 2 メメディイカー 2 2 メメディイカー 2 2 メンディイカー 3 1 国 1 4 は 4 4		A I	2
論 文 演 習 Ⅲ 4 論 文 演 習 Ⅳ 4			
論 文 演 習 Ⅲ 4 論 文 演 習 Ⅳ 4	メディア特殊研究	ΒΙ	2
論 文 演 習 Ⅲ 4 論 文 演 習 Ⅳ 4	メディア特殊研究		2
論 文 演 習 Ⅲ 4 論 文 演 習 Ⅳ 4	メディア特殊研究	C I	2
論 文 演 習 Ⅲ 4 論 文 演 習 Ⅳ 4	メディア特殊研究		2
論 文 演 習 Ⅲ 4 論 文 演 習 Ⅳ 4	メディア特殊研究		2
論 文 演 習 Ⅲ 4 論 文 演 習 Ⅳ 4	メディア特殊研究		2
論 文 演 習 IV 4 論 文 演 習 V 4	論 文 演 習		4
論 文 演 習 V 4	論 文 演 習		
	論 文 演 習		

(注) 論文演習Ⅲ、論文演習Ⅳ及び論文演習 V は、必修とする。

【2021年度以前入学生用】

【2021千及从前八十工刀】	
授 業 科 目	単位数
欧米文化特殊研究A	4
欧米文化特殊研究 B	4
国際社会文化特殊研究A	4
国際社会文化特殊研究 B	4
文化人類学特殊研究A	4
文 化 人 類 学 特 殊 研 究 B	4
歴 史 特 殊 研 究 A	4
歴 史 特 殊 研 究 B	4
歴 史 特 殊 研 究 C	4
歴 史 特 殊 研 究 D	4
社 会 学 特 殊 研 究 A	4
社 会 学 特 殊 研 究 B	4
社 会 学 特 殊 研 究 C	4
社 会 学 特 殊 研 究 D	4
社 会 学 特 殊 研 究 E	4
社 会 学 特 殊 研 究 F	4
メ デ ィ ア 特 殊 研 究 A	4
メ デ ィ ア 特 殊 研 究 B	4
メ デ ィ ア 特 殊 研 究 C	4
メ デ ィ ア 特 殊 研 究 D	4
論 文 演 習 Ⅲ	4
論 文 演 習 IV	4
論 文 演 習 V	4

(注)論文演習Ⅲ、論文演習Ⅳ及び論文演習Ⅴは、必修とする。

別表第2 博士前期課程の修了に必要な修得単位数(第11条関係)

(1) 英米文学専攻

区	分	研究コース	総合コース	英語教育コース
ZII.	イギリス文学研究科目			
- 27 H	アメリカ文学研究科目			
	英語学研究科目		1 2	
Ħ	英語教育研究科目	1.0		2以上
淀	イギリス文学演習科目	1 2		1 2
習	アメリカ文学演習科目			
演習科目	英語学演習科目			
H	英語教育演習科目			4以上
共	通 科 目	1 0	1 4	1 4
論	文 演 習 科 目	8		
チ:	ュートリアル科目		8	8
合	計	3 0	3 4	3 4

- 注(1)英語教育コースの研究科目及び演習科目12単位は、英語教育研究科目及び英語教育演習科目の授業科目より修得するものとする。
 - (2) 各コースの共通科目の修得単位数には、必修科目 Thesis Writing I 及びThesis Writing II の計 4 単位を含む。
 - (3) 英語教育コースの共通科目の修得単位数(14単位)には、上記(2)の他、当該コースの 必修科目の英語教育コア・カリキュラムA及び英語教育コア・カリキュラムBの計4単位を 含む。
 - (4) 第3条第2項の規定により修得した授業科目の単位は、研究科目の単位に算入する。

(2) 日本文学専攻

区					分	研	究	コ	_	ス	総	合	コ	_	ス
共	通	講	義	科	目			1 0			1	4 以」		0.6	,
個	別	研	究	科	目			1 2			8	以上		2 6)
論	文	演	習	科	目			8				-		_	
課	題	研	究	科	目		-		_				8		
合					計			3 0					3 4	:	

注 第3条第2項の規定により修得した授業科目の単位は、個別研究科目の単位に算入する。

(3) 社会文化論専攻

区					分	研究コ	ース	総合コ	ース
_	般	研	究	科	目	8以上	9.9	8以上	2.6
特	殊	研	究	科	目	8以上	2 2	8以上	2 6
論	文	演	習	科	目	8			
課	題	研	究	科	目			8	
合					計	3 (0	3 4	4

注 第3条第2項の規定により修得した授業科目の単位は、一般 研究科目の単位に算入する。

成蹊大学学位規則

制 定 昭和40年11月24日 学 園 理 事 会 最新改正 2023年3月17日 常 務 理 事 会

(目的)

第1条 成蹊大学(以下「本学」という。)が授与する学位については、この規則の定めるところによる。

(学位)

第2条 本学において授与する学位は、学士、修士及び博士とし、次に従い専攻分野の名称を付記する。

(1) 学士

 1 1				
Ė	学	音	ß	学 科 学 位
経	済	学	部	経済数理学科 現代経済学科 学士 (経済学)
理	エ	学	部	理 工 学 科 学士 (理工学)
文	<u>;</u>	学	部	英語英米文学科 日 本 文 学 科 国際文化学科 現代社会学科
法	7	学	部	法 律 学 科 学士(法学) 政 治 学 科 学士(政治学)
経	営	学	部	総 合 経 営 学 科 学士(経営学)

(2) 修士、博士

 研 究 科	専攻	コース	博士課程		
加 九 件	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	1	博士前期課程	博士後期課程	
		物質生命コース 情報科学コース	修士(理工学)	博士(理工学)	
理工学研究科	理工学専攻	システムデザインコース	修士(工学)	博士(工学)	
経済経営研究科	経済学専攻		修士 (経済学)	博士(経済学)	
在 併 在 呂 切 九 科	経営学専攻		修士 (経営学)	博士(経営学)	
法学政治学研究科	法 律 学 専 攻		修士 (法学)	博士(法学)	
位于以伯宁·明九代 	政治学専攻		修士(政治学)	博士(政治学)	
文 学 研 究 科	英米文学専攻日本文学専攻		修士(文学)	博士 (文学)	
文 子 切 九 籽	社会文化論専攻		修士(学術)	博士(学術)	

(学位授与の要件)

- 第3条 学士の学位は、大学を卒業した者に授与する。
- 2 修士の学位は、修士課程又は博士前期課程を修了した者に授与する。
- 3 博士の学位は、博士課程を修了した者に授与する。
- 4 前項に定めるもののほか、博士の学位は、博士課程を修了しない者についても学位論文を提出して その審査及び試験に合格し、かつ、その関係専攻分野に関し本学大学院の博士課程を修了した者と 同等以上の学力学識を有すると確認(以下「学力認定」という。)した場合には、授与することが できる。ただし、本学大学院の博士課程に所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得し、か つ、必要な研究指導を受けて退学した者が、退学後3年以内に学位論文を提出したときは、学力認

定を要しないものとする。

(学位論文等の提出)

- 第4条 本学大学院の学生が、修士又は博士の学位の授与に係る学位論文(以下「学位論文」という。) の審査を申請するときは、次に掲げる学位論文等を研究科長に提出するものとする。ただし、修士の学位論文の審査に係る申請においては、第4号の履歴書の提出を省略することができる。
 - (1) 学位申請書
 - (2) 学位論文の要旨
- (3) 学位論文
- (4) 履歴書
- 2 前項第2号及び第3号に定める学位論文の要旨及び学位論文の提出形態は、次のとおりとする。
- (1)修士の学位論文の審査に係る申請 各研究科が定める。
- (2) 博士の学位論文の審査に係る申請 紙媒体及び電子データ
- 3 提出する学位論文は、1篇、1通とし、自著であることを要する。この場合においては、参考として他の論文を添付することができる。
- 4 審査のため必要があるときは、学位論文の副本及び参考資料を提出させることができる。
- 5 前条第4項の規定により博士の学位の授与を申請する者は、論文審査手数料を添えて、次に掲げる 学位論文等を提出しなければならない。ただし、同項ただし書の適用を受ける者については、論文審 査手数料の納付を免除する。
- (1) 学位申請書
- (2) 学位論文の要旨(電子データを含む。)
- (3) 学位論文(電子データを含む。)
- (4) 履歴書
- 6 前項の規定により提出した学位論文及び納付した論文審査手数料は、返還しない。
- 7 第5項に定める論文審査手数料は、次の各号のとおりとする。
- (1) 本学大学院博士課程に所定の期間在学して、所定の単位を修得した後退学し、退学後3年を超える者 50,000円
- (2) 本学教職員である者

50,000円

(3) その他の者

150,000円

(特定課題研究の成果の取扱い)

第4条の2 修士の学位の授与に係る特定の課題についての研究の成果は、研究科長に提出するものとし、当該成果の取扱いについては、学位論文の取扱いに関する各規定を適用する。

(審査の付託)

第5条 学位論文の提出があったときは、研究科長は、研究科教授会にその審査を付託しなければならない。

(審査委員会)

- 第6条 前条の規定により学位論文の審査を付託された研究科教授会は、当該研究科所属の研究指導担当資格(修士の学位にあっては修士課程又は博士前期課程の研究指導担当資格、博士の学位にあっては博士後期課程の研究指導担当資格)を有する専任教員3名以上からなる審査委員会を設け、そのうち1名を主査とする。
- 2 第3条第2項及び第3項に定める各課程の修了の認定のために提出された学位論文の審査のための 審査委員会には、学位論文を提出した学生の指導教授を含めるものとする。
- 3 研究科長は、審査のため必要と認めるときは、第1項の規定にかかわらず、研究科教授会の議を経て、当該研究科に所属しない専任教員、本学名誉教授及び他大学の大学院又は研究所等の教員等の協力を得ることができる。
- 4 審査委員会は、前項に規定する者を構成員に含めることができる。ただし、その人数は、全構成員の半数を超えることができない。

(学位論文の審査及び最終試験)

- 第7条 審査委員会は、学位論文の審査及び最終試験を行う。
- 2 最終試験は、提出された学位論文を中心としてこれに関連のある授業科目について行うものとする。

(審査の期間)

- 第8条 第3条第2項及び第3項による者の学位論文の審査並びに最終試験は、在学期間中に終了する ものとする。
- 2 審査委員会は、第4条第5項の規定により学位論文が提出されたときは、その提出日から1年以内 に学位論文の審査、試験及び学力認定を終了するものとする。

(審査委員会の報告)

第9条 審査委員会は、学位論文の審査及び最終試験の終了後、直ちに審査の要旨及び最終試験の成績 に学位を授与できるか否かの意見を添えて研究科教授会に文書で報告しなければならない。前条第 2項による審査等についても、同様とする。

(研究科教授会の審議)

- 第10条 研究科教授会は、前条の報告に基づいて審議し、学位を授与すべきか否かを議決する。
- 2 前項の規定によって学位を授与できるものと議決するには、研究科教授会構成員の3分の2以上が 出席し、かつ、出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。ただし、研究科長が必要と認めるとき は、博士論文の審議を行う場合に限り、大学院担当資格を有する専任の教授及び博士後期課程指導 担当資格のある准教授をもって研究科教授会を構成することができる。

(審査結果の報告)

第11条 研究科教授会が前条の議決をしたときは、当該研究科長は、その結果を文書をもって学長に 報告しなければならない。

(学位の授与)

第12条 学長は、学部長からの卒業要件を満たした者の報告及び前条の報告を受けたときは、大学評議会の議を経て、卒業の可否、課程修了の可否及び第3条第4項に掲げる者への学位授与の可否を決定し、学位を授与すべきものには所定の学位記を授与する。

(博士論文等の公表)

- 第13条 本学大学院研究科は、博士の学位を授与した日から3月以内に、当該学位論文の要旨及び審査の要旨を成蹊大学学術情報リポジトリを通じて公表するものとする。
- 2 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、当該学位論文の全文を公表しなければならない。ただし、当該博士の学位を授与される前に既に公表したときは、この限りでない。
- 3 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない理由がある場合には、本学大学院研究科の承認を受けて、当該学位論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本学大学院研究科は、その学位論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。
- 4 第2項の規定により公表する場合には、当該学位論文に成蹊大学審査学位論文である旨を、前項の 規定により公表する場合には、当該学位論文の要旨に成蹊大学審査学位論文の要旨である旨を明記し なければならない
- 5 博士の学位を授与された者が行う第2項及び第3項の規定による公表は、原則として、成蹊大学学 術情報リポジトリを通じて行うものとする。

(学位の登録)

第14条 本学において博士の学位を授与したときは、学長は、学位簿に登録し、かつ、当該学位を授与した日から3月以内に文部科学大臣に報告するものとする。

(学位の名称の使用)

- 第15条 学位を授与された者が学位の名称を用いるときは、成蹊大学と付記するものとする。 (学位授与の取消し)
- 第16条 学位を授与された者に、不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は、学士の学位については学部教授会、修士及び博士の学位については研究科教授会の議を経て、学位の授与を取り消し、学位記を返還させる。
- 2 研究科教授会において前項の議決をする場合には、第10条第2項の規定を準用する。
- 3 学部教授会において第1項の議決をする場合には、第10条第2項の規定を準用する。この場合において、「研究科教授会」とあるのは、学部にあっては「学部教授会」と読み替えるものとする。 (学位記の様式)

- 第17条 学位記の様式は、次の各号のとおりとする。
- (1) 第3条第1項の規定により授与する学位記 別記様式第1号又は別記様式第1号の2
- (2) 第3条第2項の規定により授与する学位記 別記様式第2号、別記様式第2号の2又は別記様式 第2号の3
- (3) 第3条第3項の規定により授与する学位記 別記様式第3号
- (4) 第3条第4項の規定により授与する学位記 別記様式第4号 (学位記の再交付)
- 第18条 学位記の再交付は、これを行わない。

(略)

附 則 (2016年1月22日一部改正)

- 1 この規則は、2016年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第2条第2号の表は、2016年度以降の入学者から適用し、2015年度以前の入学者においては、なお従前の例による。
- 3 前項の規定にかかわらず、博士後期課程においては、改正後の第2条第2号の表理工学研究科の項中「システムデザインコース」とあるのは、2017年度以前の入学者においては、「エレクトロメカニクスコース」と読み替えるものとする。

附 則 (2019年1月11日一部改正)

- 1 この規則は、2019年4月1日から施行する。
- 2 改正後の成蹊大学学位規則の規定は、2019年度の入学者から適用し、2018年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則(2019年2月15日一部改正)

- 1 この規則は、2020年4月1日から施行する。
- 2 改正後の成蹊大学学位規則の規定は、2020年度の入学者から適用し、2019年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則(2021年2月18日一部改正)

この規則は、2021年4月1日から施行する。

附 則 (2021年5月21日一部改正)

この規則は、2021年5月21日から施行する。

附 則 (2021年2月18日一部改正)

- 1 この規則は、2022年4月1日から施行する。
- 2 改正後の成蹊大学学位規則の規定は、2022年度の入学者から適用し、2021年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則 (2023年3月17日一部改正)

この規則は、2023年4月1日から施行する。

別記	様式質	第1号	(第17条	:関係)				
第			右学部長の認定により本学を卒業したことを認め学士(○○)の学位を授与する		本学○○学部○○学科所定の課程を修めたことを認める			
号		年	正により		晋〇〇学			
	成	月	本学を公		科所定			
	蹊	日	一業した	成蹊大学○○学部長	の課程			学
	大		/ <u>_</u>	学	を修			位
	学		とを		めた			1-11-4
	長		認め学士	子部長	ことを認		氏	記
	氏		\bigcirc	氏	める	年		
			の学位を			月		
	名		を授旨	名		П	名	
	即		サする	即		生		

別記様式第1号の2 (第17条関係)

第		学 位 を 受 形 長		本学〇			
号	年	与するの認定により本学を卒業(早期卒業)したことを認め学士(○○)の		本学○○学部○○学科所定の課程を修めたことを認める			
	月	本学を		科匠			
成		奉	ь¢	正の			2)(4
蹊	日	来 ()	蹊	課程			学
大学		早期	学	を修			位
学		坐 業	Õ	めた			<u> 1/.</u>
長		した	成蹊大学〇〇学部長	にことを		氏	記
氏		ことを認	氏	認める	年		
		め 学 士			月		
<i>F</i>		Ô	<i>t</i>			<i>-</i>	
名		\bigcirc	名		目	名	
即		0			日生		

別記様式第2号(第17条関係) 別記様式第2号の2 (第17条関係) る●は特定課題研究の成果の審査および最終試験に合格したことを認め単位を修得し特定課題研究の成果の審査および最終試験に合格したことを認め単位を修得し特定課題研究のののでは、「「「「「「「「「」」」では 第 単位を修得し学位論文の審査および最終試験に合格したことを認める本学大学院○○研究科○○○□専攻の(修士・博士前期)課程に定められた (○○) の学位を授与する((○○) の学位を授与する(第 뭉 뭉 年 年 成蹊大学大学院○○研究科長 成蹊大学大学院○○研究科長 月 月 (修士・博士前期) (修士・博士前期) 成 成 学 学 蹊 蹊 日 日 大 大 位 位 学 学 課程を修了したことを認め修士 課程を修了したことを認め修士 記 記 長 長 氏 氏 年 年 氏 氏 氏 氏 月 月 日生 日生 名 名 名 名 名 名 即 1 1 **(1)**

別記様式第2号の3 (第17条関係) 別記様式第3号(第17条関係) 甲第 を授与する右研究科長の認定により博士課程を修了したことを認め博士 左記の学位院 第 認め修士(○○)の学位を授与する右研究科長の認定により(修士・博士前期) 学位論文題目 論文の審査および最終試験に合格したことを認める院○○研究科○○○専攻の博士課程に定められた単位を修得れ 号 |学位論文の審査および最終試験に合格したことを認める||○○研究科○○○○専攻の(修士・博士前期) 課程に定め 号 年 年 成蹊大学大学院○○研究科長 成蹊大学大学院〇〇研究科長 月 月 成 成 0000 学 学 蹊 蹊 日 日 大 大 位 位 学 学 課程を修了(早期修了)したことを 長 長 氏 氏 年 年 氏 氏 氏 氏 課程に定められた 月 月 00 日生 日生 名 名 名 名 名 名 **(1)** 0 0 0

別記様式第4号(第17条関係)

乙第			○)の学位を右研究科長の		格しかつ所定の学力格しかつ所定の学力		
号		年	授与する	成	文題目 一分○研を究		
	成	月	与する。 定により博士の学位を受ける資格あるものと認め博士(○	成蹊大学大学院○○研究科長	有することを認める 年 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日		
	蹊 大	日	学位を	学院〇	ることを認定を記の学位		学
	学		受ける	○研究	高 る 文 を		位
	長		資格あ	科長	提出し	氏	記
	氏		るものし	氏	そ そ の 審		
			と認め博		登および たび		
	名) □	名	S試 験 に 生	1 名	
	Ø			Ø	合	-	

成蹊大学大学院文学研究科博士前期課程研究指導計画・学位審査基準等について

本研究科で授与する学位

英米文学専攻 修士(文学)

日本文学専攻 修士(文学)

社会文化論専攻 修士(学術)

修了の要件

本研究科博士前期課程に2年以上在学し、30単位以上(総合コース及び英語教育コースは34単位以上)を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文または特定課題研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。

修士論文及び特定課題研究の成果に求められる要件(学位論文・特定課題研究の成果審査

基準)

【修士論文】

- ①研究テーマの学問的意義および独創性
- ②問題探究意識の高さ
- ③先行研究への目配りおよび取扱いの適切性
- ④論旨の明快さと整合性、主張するところの明瞭性
- ⑤資料の収集および調査方法の適切性
- ⑥表現および表記法の適切さ

【特定課題研究の成果】

- ①特定課題に対する取り組み方の適切性
- ②先行研究への目配りおよび取扱いの適切性
- ③論旨の明快さと整合性、主張するところの明瞭性
- ④資料の収集および調査方法の適切性
- ⑤表現および表記法の適切さ

| 学位取得のプロセス(研究指導計画)

1年次

前期 4月 オリエンテーション、履修登録

5月 指導教授の指導の下、「研究計画書」を提出

後期 11月 指導教授の下、関係科目の講義、演習を通じて基本的研究能力の向上に 努め、修士論文等のテーマを決定する。

2 年次

前期 4月 オリエンテーション

6月 修士論文等題目決定

指導教授の下で、論理的構成、多角的データの提示、明確な考察、

説得力のある表現に留意し、修士論文等の作成を進める。

後期 7月~ 各専攻の中間発表会で研究成果を発表する。

11月 (※発表時期は各専攻により異なる。)

1月 修士論文等の提出

2月 修士論文等の審査及び口述審査

修士論文・特定課題研究の成果の提出と学位審査

1. 提出書類

各専攻の提出要領を参照のこと。

2. 形式

各専攻の提出要領を参照のこと。

- 3. 論文の提出と学位審査の概要
- 1月下旬:修士論文または特定課題研究の成果を提出(提出先:教務部)

提出する学位論文または特定課題研究の成果は、指導教授から内容、水準、形式 について指導を受け、指導教授の承認を得たものでなければならない。

2月初旬:研究科教授会による審査委員会設置

研究科教授会は、主査1名(原則として指導教授)及び副査2名以上の審査委員を選出する。副査は原則として本研究科所属の専任教員がこれにあたるが、審査に必要と認められた場合は他大学等の研究者を選定することができる。

2月中旬:修士論文・特定課題研究の成果の審査と最終試験

審査委員会は、提出された修士論文または特定課題研究の成果を中心として、これに関連ある授業科目や研究手法について口述試験により審査を行う。

審査終了後、審査委員会は審査の要旨と最終試験の結果、及び学位を授与できるか否かの意見を添えて、研究科教授会に文書で報告する。

2月下旬:研究科教授会による修士の学位授与の判定

研究科教授会は、審査委員会からの審査結果報告書に基づき、合否を判定する。

成蹊大学大学院文学研究科博士後期課程 研究指導計画・学位審査基準等について

本研究科で授与する学位

英米文学専攻 博士(文学)

日本文学専攻 博士(文学)

社会文化論専攻 博士 (学術)

修了の要件

本研究科博士後期課程に3年以上在学し、所属する専攻の授業科目について16単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

博士学位論文に求められる要件(学位論文審査基準)

- ①研究テーマの学問的意義および独創性
- ②問題探究意識の高さ
- ③先行研究への目配りおよび取扱いの適切性
- ④論旨の明快さと整合性、主張するところの明瞭性
- ⑤資料の収集および調査方法の適切性
- ⑥表現および表記法の適切さ

上記基準に加えて、学界に対する学術的寄与の度合い等が評価される。

学位取得のプロセス(研究指導計画)

1年次

前期 4月 オリエンテーション、指導教授の決定、履修登録

5月 指導教授の指導の下、「研究計画書」を提出

後期 11月 研究発表、研究成果について指導教授に報告

2 年次

前期 4月 履修登録

後期 7月~11月 各専攻の中間発表会で研究成果を発表する。 (※発表時期は各専攻により異なる。)

3年次以上

前期 指導教授の指導のもとで、予備論文の作成を進める

後期 10月 予備論文提出

11月 博士論文提出

2月 博士論文審査及び口述審査

博士論文の提出と学位審査

1. 提出書類

各専攻の提出要領を参照のこと。

2. 形式

各専攻の提出要領を参照のこと。

- 3. 論文の提出と学位審査の概要
- 10月初旬:予備論文を提出(提出先:教務部)

予備論文を提出するためには、指導教授から内容、水準、形式について指導を受け、指導教授の承認を得る必要がある。

11 月末日:博士学位論文を提出(提出先:教務部)

「予備審査」を経て提出が認められた場合、博士学位論文を提出する。

12月~1月:研究科教授会による審査委員会設置

研究科教授会は、主査1名(原則として指導教授)及び副査2名以上の審査委員を選出する。副査は原則として本研究科所属の専任教員がこれにあたるが、審査に必要と認められた場合は他大学等の研究者を選定することがある。

1月~2月:博士学位論文の審査と最終試験

審査委員は、口述試問により最終試験を行い、以下の基準により評価する。

- ①研究の内容について十分に理解し、論点を明瞭に説明できるか
- ②研究の将来的な展望について述べられるか
- ③当該研究分野に関する最先端の知識を有しているか
- ④関連する研究分野に関して知識を有しているか

審査終了後、審査委員会は審査の要旨と最終試験の結果、及び学位を授与できる か否かの意見を添えて、研究科教授会に文書で報告する。

2月下旬:研究科教授会による博士の学位授与の判定

研究科教授会は、審査委員会からの審査結果報告書に基づき、合否を判定する。

3月初旬:学長は、研究科教授会からの報告により、大学評議会の審議を経て、課程修了の 可否を決定し、学位を授与すべきものには所定の学位記を授与する。

博士学位論文のインターネット公表

成蹊大学学位規則第13条第2項及び第5項の規定に基づき、博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、原則として、成蹊大学学術情報リポジトリを通じて当該学位論文を公表しなければならない。

手続その他詳細は、「博士学位論文のインターネット公表について」を参照すること。

成蹊大学大学院 文学研究科 研究指導計画書

本研究指導計画書の作成にあたっては、教員と学生との間で十分に打ち合わせを行ってください。

				作成日	年	月	日
入学年月日	年	月	学籍番号				
所 属		専攻	課程		コー	ス	
学生氏名							
指導教授(所属	・氏名)						
研究課題							
研究内容・計	画(学生が記入))					

^{*「}研究内容・計画」については、学生が指導教授と十分相談の上、研究の背景、目的、意義、特色、ならびに学位取得までの研究計画を簡潔に記入する。

研究指導計画	(「研究内容・	計画」を踏ま	え、指導教授が	記入)	
1年目:					
2年目:					
(博士課程の場	場合3年目:)				

- *「研究指導計画」にかかわる留意点
 - 1. 原則として標準修業年限内に学位取得することを前提とした指導計画としてください。 長期履修学生に対しては、4年目以降の計画も適宜記入してください。
 - 2. 研究の進行状況等に応じて指導計画の見直しを行うことは構いません。見直しを行う場合には、2年目以降の各年度の初めに、指定の様式により修正された研究指導計画書【変更】を提出してください。

学生は、表面作成後、5月末までにメール添付にて指導教授に提出してください。 指導教授は、裏面作成後、6月末までにメール添付にて教務部へ提出してください。 また、教務部へ提出したファイルを当該学生にも送付し、保管させてください。

英米文学専攻 修士論文提出要領

2025年度の修士論文については、状況に応じて提出方法が変更される可能性もある。

ポータルサイトの掲示や指導教授の指示に従うこと。

I 論文提出

- 1 提出期限
 - 2月2日(月) 16時30分(時間厳守のこと)
- 2 提出場所

CoursePowerを用いたオンライン提出

- 3 提出物
 - (1) 論文本体、(2) 修士学位論文提出票、(3) 修士論文審査票(要旨400字程度)のPDFファイル。詳細については「5 提出の方法」を参照。なお、論文本体には(1)提出年度、(2) 専攻、
 - (3) 学籍番号、(4) 氏名、(5) 題目、(6) 指導教授を記した表紙を付けること(見本を参照)。
- 4 提出論文
 - (1) 使用言語

英語

- (2) 枚数
 - 注・参考文献を含め、A 4 判用紙(1 枚70ストローク×25行を目安とする)で50枚程度。 上限は特に設けない。
- (3) 書式

論文の作成にあたっては、以下に示す学会誌の書式に従うことが望ましい。

- イ 英米文学関係: MLA Handbook for Writers of Research Papers (9th edition)
- ロ 英語学関係: Publication Manual of the American Psychological Association, 7th ed.
- ハ 英語教育関係: Publication Manual of the American Psychological Association, 7th ed.

なお、注は末尾にまとめてつけること。

- 5 提出の方法
 - (1) 論文本体、(2) 修士学位論文提出票、(3) 修士論文審査票(要旨400字程度)のファイル(いずれもPDF形式)を期限までにCoursePowerから提出する。修士学位論文提出票および修士論文審査票の書式(Word形式)はCoursePowerからダウンロードすること。

Ⅱ 口述審査

提出した修士論文について、2月中旬頃に行う。詳しい日程については、英米文学専攻より指示する。

英米文学専攻 「特定課題研究の成果」提出要領

2025年度の「特定課題研究の成果」については、状況に応じて提出方法が変更される可能性もある。 ポータルサイトの掲示や指導教授の指示に従うこと。

- I 「特定課題研究の成果」提出
 - 1 提出期限

2月2日(月) 16時30分(時間厳守のこと)

2 提出場所

CoursePowerを用いたオンライン提出

- 3 提出物
 - (1)「特定課題研究の成果」本体、(2)「特定課題研究の成果」提出票、(3)「特定課題研究の成果」審査票(要旨400字程度)のPDFファイル。詳細については「5 提出の方法」を参照。なお、「特定課題研究の成果」本体には(1)提出年度、(2)専攻、(3)学籍番号、(4)氏名、(5)題目、(6)指導教授を記した表紙を付けること(見本を参照)。
- 4 「特定課題研究の成果」
 - (1) 使用言語

英語

(2) 枚数

注・参考文献を含め、A4判用紙(1枚70ストローク×25行を目安とする)で25枚以上。

(3) 書式

作成にあたっては、以下に示す学会誌の書式に従うことが望ましい。

- イ 英米文学関係: MLA Handbook for Writers of Research Papers (9th edition)
- 口 英語学関係: Publication Manual of the American Psychological Association, 7th ed.
- ハ 英語教育関係: Publication Manual of the American Psychological Association, 7th ed.

なお、注は末尾にまとめてつけること。

- 5 提出の方法
 - (1)「特定課題研究の成果」本体、(2)「特定課題研究の成果」提出票、(3)「特定課題研究の成果」審査票 (要旨400字程度)のファイル (いずれもPDF形式)を期限までにCoursePowerから提出する。「特定課題研究の成果」提出票および「特定課題研究の成果」審査票の書式 (Word形式) はCoursePowerからダウンロードすること。

Ⅱ 口述審査

提出した「特定課題研究の成果」について、2月中旬頃に行う。詳しい日程については、英米文学 専攻より指示する。

英米文学専攻 博士論文 (課程博士) 提出要領

2025年度の博士論文については、状況に応じて提出方法が変更される可能性もある。

ポータルサイトの掲示や指導教授の指示に従うこと。

- A 「予備論文」(「文学研究科課程博士の学位授与審査に関する申合せ」に定めるもの)提出資格
 - (1) 学術論文が3本以上あること。そのうち1本は学外の査読付き学会誌に掲載されたものであること。
 - (2) 学外の国内の学会、あるいは相当する国際学会において口頭発表を1回以上行っていること。
 - *「学外の査読付き学会誌」については、内規により別途定めることとする。
- B 「予備論文」の提出
 - 1 提出期限
 - 10月1日(水) 16時30分(時間厳守のこと)
 - 2 提出場所

教務部文学部カウンター

- 3 提出物
 - (1) 予備論文審査願

所定の用紙に必要な事項を記入したもの 1通

- (2) 論文
 - a) 部数 正本 1部 副本 (コピーでよい) 2部
 - b) 使用言語 英語
 - c) 枚数
 - 注・参考文献を含め、A4判用紙(1枚70ストローク×25行を目安とする)で150枚以上。 上限は特に設けない。
 - d) 書式

論文の作成にあたっては、以下に示す学会誌の書式に従うことが望ましい。

- イ 英米文学関係: MLA Handbook for Writers of Research Papers (9th edition)
- ロ 英語学関係: Publication Manual of the American Psychological Association, 7th ed.
- ハ 英語教育関係: Publication Manual of the American Psychological Association, 7th ed.

なお、注は末尾にまとめてつけること。

e) 製本·貼付紙

教務部文学部カウンターに申し出てA票とB票の2種類の用紙を受け取り、それぞれに必要事項を記入して、A票を博士論文の表紙に貼り、B票をその第1頁に挟み込んで博士論文の正本とする。副本2部にはA票のみ表紙に貼付する。提出に際しては、特別の製本は不要。後の処理のためには、むしろ仮綴じ(紐綴じ)の方が望ましい。

(3) 論文要旨

- a) 部数 3部
- b) 使用言語

英語

c) 枚数

A4判用紙(1枚70ストローク×25行を目安とする)で5枚程度。

d) 書式

論文の書式に準じる。

e) 製本

3部とも製本の必要はないが、しっかりと綴じたものであること。

- (4) 参考資料(必要な場合のみ)
 - a) 用紙・枚数・書式 特には定めない。
 - b) 部数 3部 (そのうち2部はコピーでよい)
 - c) 製本 論文の製本方法に準じる。
- (5) 業績目録

教務部に用意してある見本に準じて記入したもの 1通

(6) 履歴書

教務部に用意してある見本に準じて作成したもの(市販のものでも可) 1通

(7) その他

論文の副本及び論文要旨・参考資料については、さらに各1部の提出を求めることがある。

- C 博士論文(「文学研究科博士課程の学位授与審査に関する申合せ」に基づき、「予備審査」を経て提出を認められた者の場合)
 - 1 論文提出
 - (1) 提出期限

12月1日(月) 16時30分(時間厳守のこと)

(2) 提出場所

教務部文学部カウンター

- (3) 提出物
 - a) 学位申請書

所定の用紙に必要事項を記入したもの 1通 戸籍抄本 1通 (マイナンバーの表示がないもの)を含む。 ※外国籍の場合は教務部へ問い合わせること

- b) 博士学位論文提出票 1通
- c) 論文

B3(2)に準じる。

d) 論文要旨

B3(3)に準じる。

- e) 参考資料(必要な場合のみ) B3(4)に準じる。
- f) 業績目録

B3(5)に準じる。

g) 履歴書

B3(6)に準じる。

- h) 博士学位論文インターネット公表確認書(公表様式1) 1通 博士学位論文インターネット全文公表申請書(必要な場合のみ) 1通 博士学位論文インターネット全文公表停止願(必要な場合のみ) 1通 (「博士学位論文のインターネット公表について」参照のこと。)
- i) 博士学位論文及び論文要旨の電子データ (PDF/A形式) 1通

(4) その他

- a) 論文の副本・論文要旨・参考資料については、さらに各1部の提出を求めることがある。
- b) (3)において提出するもの(但し、a) b) h) i)を除く) のうち、予備論文提出の際のものとの間に変更・訂正のない場合は、改めて提出しなくともよい。
- c)審査過程で修正が発生した場合は、審議が行われる研究科教授会の前日までに、修正した内容の博士学位論文(1部)と修正版電子データを、審査委員会主査の確認を得た上で教務部に提出することとする。

2 口述試験

提出した博士論文について、2月後半に行う。詳しい日程については、英米文学専攻より指示する。

英米文学専攻 博士論文 (論文博士) 提出要領

<本学文学部・大学院に在籍していた者の場合>

2025年度の博士論文については、状況に応じて提出方法が変更される可能性もある。

詳細については、紹介者である専任教員に問い合わせること。

- A 「予備論文」(「本学文学部・大学院に在籍していた者についての論文博士の学位授与に関する申 合せ」に定めるもの)提出資格
 - 1 論文提出には、英米文学専攻の専任教員1名の紹介を必要とする。
 - 2 学外の学会誌ないしはそれに準じる雑誌での掲載論文が3本以上あることが望ましい。
 - 3 提出論文はすでに公刊されたもの(3年以内を目安とする)か、そうでない場合には、博士号が 認定された段階で当該論文を公刊する予定があること。
 - 4 すでに書籍として公刊されたものを博士論文として提出することができる。
- B 「予備論文」の提出
 - I 論文提出
 - 1 提出期限
 - 10月1日(水) 16時30分(時間厳守のこと)
 - 提出場所 教務部文学部カウンター
 - 3 提出物
 - (1) 予備論文審査願 所定の用紙に必要な事項を記入したもの 1 通
 - (2) 論文

公刊されている場合

- a) 部数 正本 1部 副本 2部
- b) 使用言語 英語または日本語

公刊されていない場合

- a) 部数 正本 1部 副本 (コピーでよい) 2部
- b) 使用言語 英語または日本語
- c) 枚数
 - イ 英語の場合
 - 注・参考文献を含め、A4判用紙(1枚70ストローク×25行を目安とする)で250枚程度。上限は特に設けない。
 - ロ 日本語の場合
 - 注・参考文献を含め、A4判用紙(1枚35字×25行を目安とする)で400枚程度。 上限は特に設けない。

d) 書式

論文の作成にあたっては、以下に示す学会誌の書式に従うことが望ましい。日本語の場合も、英語の場合に準じる。

- イ 英米文学関係: MLA Handbook for Writers of Research Papers (9th edition)
- ロ 英語学関係: Publication Manual of the American Psychological Association, 7th ed.
- ハ 英語教育関係: Publication Manual of the American Psychological Association, 7th ed.

なお、注は末尾にまとめてつけること。

e) 製本·貼付紙

教務部文学部カウンターに申し出てA票とB票の2種類の用紙を受け取り、それぞれに必要事項を記入して、A票を博士論文の表紙に貼り、B票をその第1頁に挟み込んで博士論文の正本とする。副本2部にはA票のみ表紙に貼付する。提出に際しては、特別の製本は不要。後の処理のためには、むしろ仮綴じ(紐綴じ)の方が望ましい。

- (3) 論文要旨
 - a) 部数 3部
 - b) 使用言語

英語

c) 枚数

A4判用紙(1枚70ストローク×25行を目安とする)で5~10枚程度。

d) 書式

論文の書式に準じる。

e) 製本

3部とも製本の必要はないが、しっかりと綴じたものであること。

- (4) (必要な場合) 参考資料
 - a) 用紙・枚数・書式 特には定めない。
 - b) 部数 3部 (そのうち2部はコピーでよい)
 - c) 製本 論文副本の製本方法に準じる。
- (5) 業績目録

教務部に用意してある見本に準じて記入したもの 1通

(6) 履歴書

教務部に用意してある見本に準じて作成したもの(市販のものでも可) 1通

(7) その他

論文の副本・論文要旨・参考資料については、さらに各1部の提出を求めることがある。

- C 博士論文(「本学文学部・大学院に在籍していた者についての論文博士の学位授与に関する申合せ」 に基づき、「予備審査」を経て提出を認められた者の場合)
 - 1 論文提出
 - (1) 提出期限

12月1日(月) 16時30分(時間厳守のこと)

(2) 提出場所

教務部文学部カウンター

(3) 提出物

a) 学位申請書

所定の用紙に必要事項を記入したもの 1通 以下のものを含む。

- ・戸籍抄本 1通 (マイナンバーの表示がないもの) ※外国籍の場合は教務部へ問い合わせること
- ・最終学校の卒業証明書・修了証明書・単位取得証明書 1 通
- b) 博士学位論文提出票 1通
- c) 論文

B3(2)に準じる。

d) 論文要旨

B3(3)に準じる。

- e) 参考資料(必要な場合のみ) B3(4)に準じる。
- f) 業績目録

B3(5)に準じる。

g) 履歴書

B3(6)に準じる。

- h) 博士学位論文インターネット公表確認書(公表様式1) 1通 博士学位論文インターネット全文公表申請書(必要な場合のみ) 1通 博士学位論文インターネット全文公表停止願(必要な場合のみ) 1通 (「博士学位論文のインターネット公表について」参照のこと。)
- i) 博士学位論文及び論文要旨の電子データ (PDF/A形式) 1通
- (4) その他
 - a) 論文の副本・論文要旨・参考資料については、さらに各1部の提出を求めることがある。
 - b) (3)において提出するもの(但し、a) b) h) i)を除く) のうち、予備論文提出のものとの間に変更・訂正のない場合は、改めて提出しなくともよい。
 - c)審査過程で修正が発生した場合は、審議が行われる研究科教授会の前日までに、修正した内容の博士学位論文(1部)と修正版電子データを、審査委員会主査の確認を得た上で教務部に提出することとする。
- 2 論文審查手数料納入証明書

所定の手続きに従って納入したことを証明するもの 1通

3 学力認定

実施方法については、別に定める。

4 口述審査

提出した博士論文について行う。詳しい日程については、英米文学専攻より指示する。

日本文学専攻 修士論文提出要領

2025年度の修士論文については、状況に応じて提出方法が変更される可能性もある。

ポータルサイトの掲示や指導教授の指示に従うこと。

I 論文提出

1 提出期限

2月2日(月) 16時30分(時間厳守のこと)

2 提出場所

CoursePowerを用いたオンライン提出

- 3 提出物
 - (1) 論文本体、(2) 修士学位論文提出票、(3) 修士論文審査票(要旨400字程度)、(4) 論文要旨のPDFファイル。詳細については「6 提出の方法」を参照。なお、論文本体には(1) 提出年度、(2) 専攻、(3) 学籍番号、(4) 氏名、(5) 題目、(6) 指導教授を記した表紙を付けること(見本を参照)。
- 4 修士論文の字数と書式
 - (1) 論文は40,000字以上を目安とする。
 - (2) 縦書きの場合はA4判を横長の形で使い、原則として1ページにつき1行40字×20行とする。 横書きの場合はA4判を縦長の形で使い、原則として1ページにつき1行40字×20行とする。
 - (3) ページ番号は本文から振りはじめ、注、参考文献まで一続きの番号とする。
- 5 要旨の字数と書式

字数は2,000字程度とする。書式は修士論文に準じる。

- 6 提出の方法
 - (1) 論文本体、(2) 修士学位論文提出票、(3) 修士論文審査票(要旨400字程度)、(4) 論文要旨のファイル(いずれもPDF形式)を期限までにCoursePowerから提出する。修士学位論文提出票および修士論文審査票の書式(Word形式)はCoursePowerからダウンロードすること。

Ⅱ 口述審査

提出した修士論文について、2月中旬頃に行う。詳しい日程については、日本文学専攻より指示する。

日本文学専攻 「特定課題研究の成果」提出要領

2025年度の「特定課題研究の成果」については、状況に応じて提出方法が変更される可能性もある。

ポータルサイトの掲示や指導教授の指示に従うこと。

- I 「特定課題研究の成果」提出
 - 1 提出期限

2月2日(月) 16時30分(時間厳守のこと)

2 提出場所

CoursePowerを用いたオンライン提出

- 3 提出物
 - (1)「特定課題研究の成果」本体、(2)「特定課題研究の成果」提出票、(3)「特定課題研究の成果」審査票(要旨400字程度)、(4)要旨のPDFファイル。詳細については「6 提出の方法」を参照。なお、「特定課題研究の成果」本体には(1)提出年度、(2)専攻、(3)学籍番号、(4)氏名、
 - (5) 題目、(6) 指導教授を記した表紙を付けること(見本を参照)。
- 4 「特定課題研究の成果」の字数と書式
 - (1) 論文は20,000字以上を目安とする。
 - (2) 縦書きの場合はA4判を横長の形で使い、原則として1ページにつき1行40字×20行とする。 横書きの場合はA4判を縦長の形で使い、原則として1ページにつき1行40字×20行とする。
 - (3) ページ番号は本文から振りはじめ、注、参考文献まで一続きの番号とする。
- 5 要旨の字数と書式

字数は2,000字程度とする。書式は「特定課題研究の成果」に準じる。

- 6 提出の方法
- (1)「特定課題研究の成果」本体、(2)「特定課題研究の成果」提出票、(3)「特定課題研究の成果」審査票(要旨400字程度)、(4)要旨のファイル(いずれもPDF形式)を期限までにCoursePowerから提出する。「特定課題研究の成果」提出票および「特定課題研究の成果」審査票の書式(Word形式)はCoursePowerからダウンロードすること。

Ⅱ 口述審査

提出した「特定課題研究の成果」について、2月中旬頃に行う。詳しい日程については、日本文学 専攻より指示する。

日本文学専攻 博士論文 (課程博士) 提出要領

2025年度の博士論文については、状況に応じて提出方法が変更される可能性もある。

ポータルサイトの掲示や指導教授の指示に従うこと。

- A 「予備論文」(「文学研究科課程博士の学位授与審査に関する申合せ」に定めるもの)提出資格 学会誌ないしはそれに準じる雑誌での掲載論文が3本以上あることが望ましい。
 - ※「学会誌ないしはそれに準じる雑誌」にかんしては、指導教授の指示を仰ぐこと。
- B 「予備論文」の提出
 - 1 提出期限
 - 10月1日(水) 16時30分(時間厳守のこと)
 - 2 提出場所

教務部文学部カウンター

- 3 提出物

 - (2) 論文
 - ア) 部数 正本 1部 副本(コピーでよい) 2部
 - イ) 字数・用紙・書式

160,000字以上を目安とする。

縦書きの場合はA4判を横長の形で使い、原則として1ページにつき1行40字×20行とする。 横書きの場合はA4判を縦長の形で使い、原則として1ページにつき1行40字×20行とする。

ウ) 製本

特別の製本は必要ないが、ファイル等で綴じたものとする。

- (3) 論文要旨
 - ア) 部数 3部(そのうち2部はコピーでよい)
 - (1) 字数・用紙・書式
 - 4,000字程度。用紙・書式は論文に準じる。右上を綴じること。
- (4) 参考資料(必要な場合のみ)
 - ア) 部数 3部(そのうち2部はコピーでよい)
 - イ) 枚数・用紙・書式 特には定めない。
 - り) 製本 論文の製本方法に準じる。
- (5) 業績目録

教務部に用意してある見本に準じて記入したもの 1 通

(6) 履歴書

教務部に用意してある見本に準じて作成したもの(市販のものでも可) 1通

(7) その他

副本及び(3)と(4)については、さらに各1部の提出を求めることがある。

- C 博士論文の提出(「文学研究科課程博士の学位授与審査に関する申合せ」に基づき、「予備審査」を経て提出を認められた者の場合)
 - 1 提出期限

12月1日(月) 16時30分(時間厳守のこと)

2 提出場所

教務部文学部カウンター

- 3 提出物
 - (1) 学位申請書

所定の用紙に必要事項を記入したもの 1通 戸籍抄本 1通 (マイナンバーの表示がないもの)を含む。 ※外国籍の場合は教務部へ問い合わせること

- (2) 博士学位論文提出票 1 通
- (3) 論文
 - ア) 部数 正本 1部 副本(コピーでよい) 2部
 - (1) 字数・用紙・書式

160,000字以上を目安とする。

縦書きの場合はA4判を横長の形で使い、原則として1ページにつき1行40字×20行とする。 横書きの場合はA4判を縦長の形で使い、原則として1ページにつき1行40字×20行とする。

- (4) 論文要旨
 - ア) 部数 3部(そのうち2部はコピーでよい)
 - イ) 字数・用紙・書式
 - 4,000字程度。用紙・書式は論文に準じる。右上を綴じること。
- (5) 参考資料(必要な場合のみ)
 - ア) 部数 3部(そのうち2部はコピーでよい)
 - 1) 枚数・用紙・書式 特には定めない。
- (6) 業績目録

教務部に用意してある見本に準じて記入したもの 1通

(7) 履歴書

教務部に用意してある見本に準じて作成したもの(市販のものでも可) 1通

- (8) インターネット公表にかんする書類
 - 7) 博士学位論文インターネット公表確認書(公表様式1) 1通 博士学位論文インターネット全文公表申請書(必要な場合のみ) 1通 博士学位論文インターネット全文公表停止願(必要な場合のみ) 1通 (「博士学位論文のインターネット公表について」参照のこと。)
 - イ)博士学位論文及び論文要旨の電子データ (PDF/A形式) 1通
- (9) その他
 - ア) 副本、論文要旨、参考資料については、さらに各1部の提出を求めることがある。
 - 4)(3)~(7)については、予備論文提出の際のものとの間に変更・訂正のない場合は、改めて提出しなくともよい。
 - り)審査過程で修正が発生した場合は、審議が行われる研究科教授会の前日までに、修正した 内容の博士学位論文(1部)と修正版電子データを、審査委員会主査の確認を得た上で教務

部に提出することとする。

D 口述審査

提出した博士論文について、2月後半に行う。詳しい日程については、日本文学専攻より指示する。

日本文学専攻 博士論文(論文博士)提出要領 <本学文学部・大学院に在籍していた者の場合>

2025年度の博士論文については、状況に応じて提出方法が変更される可能性もある。

詳細については、紹介者である専任教員に問い合わせること。

- A 「予備論文」 (「本学文学部・大学院に在籍していた者についての論文博士の学位授与に関する 申合せ」に定めるもの) 提出資格
 - 1 「予備論文」の提出には、日本文学専攻の専任教員の紹介を必要とする。
 - 2 学会誌ないしはそれに準じる雑誌での掲載論文が3本以上あることが望ましい。
 - ※「学会誌ないしはそれに準じる雑誌」にかんしては、紹介の専任教員の指示に従うこと。
 - 3 提出論文はすでに公刊されている (3年以内を目安とする) か、博士号が認定された時に公刊 する予定があるものであること。
- B 「予備論文」の提出
 - 1 提出期限
 - 10月1日(水) 16時30分(時間厳守のこと)
 - 2 提出場所

教務部文学部カウンター

- 3 提出物

 - (2) 論文

公刊されている場合

ア) 部数 正本 1部 副本 2部

公刊されていない場合

- ア) 部数 正本 1部 副本 (コピーでよい) 2部
- イ) 字数・用紙・書式

160,000字以上を目安とする。

縦書きの場合はA4判を横長の形で使い、原則として1ページにつき1行40字×20行とする。 横書きの場合はA4判を縦長の形で使い、原則として1ページにつき1行40字×20行とする。

ウ) 製本

特別の製本は必要ないが、ファイル等で綴じたものとする。

- (3) 論文要旨
 - ア) 部数 3部(そのうち2部はコピーでよい)
 - イ) 字数・用紙・書式4,000字程度。用紙・書式は論文に準じる。
 - ウ) 製本

3部とも、製本の必要はないが、しっかりと綴じたものであること。

- (4) 参考資料(必要な場合のみ)
 - ア) 部数 3部(そのうち2部はコピーでよい)

- 枚数・用紙・書式 特には定めない。
- り) 製本 論文の製本方法に準じる。
- (5) 業績目録

教務部に用意してある見本に準じて記入したもの 1 通

(6) 履歴書

教務部に用意してある見本に準じて作成したもの(市販のものでも可) 1通

(7) その他

論文の副本、論文要旨、参考資料については、さらに各1部の提出を求めることがある。

- C 博士論文の提出(「文学研究科課程博士の学位授与審査に関する申合せ」に基づき、「予備審査」を経て提出を認められた者の場合)
 - 1 提出期限

12月1日(月) 16時30分(時間厳守のこと)

2 提出場所

教務部文学部カウンター

- 3 提出物
 - (1) 学位申請書

所定の用紙に必要事項を記入したもの 1 通 以下のものを含む。

戸籍抄本 1通(マイナンバーの表示がないもの)

※外国籍の場合は教務部へ問い合わせること

- ・最終学校の卒業証明書・修了証明書・単位取得証明書 各1通
- (2) 博士学位論文提出票 1通
- (3) 論文
 - ア) 部数 正本 1部 副本(コピーでよい) 2部
 - イ) 字数・用紙・書式

160,000字以上を目安とする。

縦書きの場合はA4判を横長の形で使い、原則として1ページにつき1行40字×20行とする。 横書きの場合はA4判を縦長の形で使い、原則として1ページにつき1行40字×20行とする。

- (4) 論文要旨
 - ア) 部数 3部(そのうち2部はコピーでよい)
 - イ)字数・用紙・書式
 - 4,000字程度。用紙・書式は論文に準じる。右上を綴じること。
- (5) 参考資料(必要な場合のみ)
 - ア) 部数 3部(そのうち2部はコピーでよい)
 - 1) 枚数・用紙・書式 特には定めない。
- (6) 業績目録

教務部に用意してある見本に準じて記入したもの 1通

(7) 履歴書

教務部に用意してある見本に準じて作成したもの(市販のものでも可) 1通

(8) 論文審查手数料納入証明書

所定の手続きに従って納入したことを証明出来るもの 1通

- (9) インターネット公表にかんする書類
 - 7) 博士学位論文インターネット公表確認書(公表様式1) 1通 博士学位論文インターネット全文公表申請書(必要な場合のみ) 1通 博士学位論文インターネット全文公表停止願(必要な場合のみ) 1通 (「博士学位論文のインターネット公表について」参照のこと。)
 - イ) 博士学位論文及び論文要旨の電子データ (PDF/A形式) 1通
- (10) その他

- ア) 副本、論文要旨、参考資料については、さらに各1部の提出を求めることがある。
- (3)~ (7) については、予備論文提出の際のものとの間に変更・訂正のない場合は、改めて提出しなくともよい。
- り)審査過程で修正が発生した場合は、審議が行われる研究科教授会の前日までに、修正した 内容の博士学位論文(1部)と修正版電子データを、審査委員会主査の確認を得た上で教 務部に提出することとする。
- D 学力認定

実施方法については、別に定める。

E 口述審査

提出した博士論文について行う。詳しい日程については、日本文学専攻より指示する。

社会文化論専攻 修士論文提出要領

2025年度の修士論文については、状況に応じて提出方法が変更される可能性もある。

ポータルサイトの掲示や指導教授の指示に従うこと。

I 論文提出

1 提出期限

2月2日(月) 16時30分(時間厳守のこと)

2 提出場所

CoursePowerを用いたオンライン提出

- 3 提出物
 - (1) 論文本体、(2) 修士学位論文提出票、(3) 修士論文審査票(要旨400字程度)、(4) 論文要旨のPDFファイル。詳細については「5 提出の方法」を参照。なお、論文本体には(1) 提出年度、
 - (2) 専攻、(3) 学籍番号、(4) 氏名、(5) 題目、(6) 指導教授を記した表紙を付けること(見本を参照)。
- 4 提出論文・論文要旨
 - (1) 論文
 - 1) 字数・用紙・書式 40,000字以上を目安とする。

日本語の場合: A 4 判・40字×30行で34枚以上。

英 語 の 場 合: A 4 判・70ストローク×25行、50枚以上。

2) その他

注の付け方は、各専門分野学会誌に準じる。

- (2) 論文要旨
 - 2,000字程度。様式は、論文の書式に準じる。
- 5 提出の方法
 - (1) 論文本体、(2) 修士学位論文提出票、(3) 修士論文審査票(要旨400字程度)、(4) 論文要旨のファイル(いずれもPDF形式)を期限までにCoursePowerから提出する。修士学位論文提出票および修士論文審査票の書式(Word形式)はCoursePowerからダウンロードすること。

Ⅱ 口述審査

提出した修士論文について、2月中旬頃に行う。詳しい日程については、社会文化論専攻より指示する。

社会文化論専攻 「特定課題研究の成果」提出要領

2025年度の「特定課題研究の成果」については、状況に応じて提出方法が変更される可能性もある。

ポータルサイトの掲示や指導教授の指示に従うこと。

- I 「特定課題研究の成果」提出
 - 1 提出期限

2月2日(月) 16時30分(時間厳守のこと)

2 提出場所

CoursePowerを用いたオンライン提出

- 3 提出物
 - (1)「特定課題研究の成果」本体、(2)「特定課題研究の成果」提出票、(3)「特定課題研究の成果」審査票(要旨400字程度)、(4)要旨のPDFファイル。詳細については「5 提出の方法」を参照。なお、「特定課題研究の成果」本体には(1)提出年度、(2)専攻、(3)学籍番号、(4)氏名、
 - (5) 題目、(6) 指導教授を記した表紙を付けること(見本を参照)。
- 4 「特定課題研究の成果」および要旨
 - (1) 「特定課題研究の成果」
 - 1) 字数・枚数・書式 20,000字以上を目安とする。

日本語の場合: A 4 判・40字×30行で17枚以上。

英 語 の 場 合: A 4 判・70ストローク×25行、25枚以上。

- 2) その他 注の付け方は、各専門分野学会誌に準じる。
- (2) 要旨

2,000字程度。様式は、「特定課題研究の成果」の書式に準じる。

- 5 提出の方法
 - (1)「特定課題研究の成果」本体、(2)「特定課題研究の成果」提出票、(3)「特定課題研究の成果」審査票(要旨400字程度)、(4)要旨のファイル(いずれもPDF形式)を期限までにCoursePowerから提出する。「特定課題研究の成果」提出票および「特定課題研究の成果」審査票の書式(Word 形式)はCoursePowerからダウンロードすること。

Ⅱ 口述審査

提出した「特定課題研究の成果」について、2月中旬頃に行う。詳しい日程については、社会文化 論専攻より指示する。

社会文化論専攻 博士論文 (課程博士) 提出要領

2025年度の博士論文については、状況に応じて提出方法が変更される可能性もある。

ポータルサイトの掲示や指導教授の指示に従うこと。

- A 「予備論文(博士論文の基となる論文)」提出資格
 - 1 学会誌ないしはそれに準じる雑誌での掲載論文が3本以上あることが望ましい。
 - 2 指導教授の承認を得ていること。
- B 「予備論文」の提出
 - 1 提出期限

10月1日(水) 16時30分(時間厳守のこと)

2 提出場所

教務部文学部カウンター

- 3 提出物
 - (1) 予備論文審査願 所定の用紙に必要事項を記入したもの 1 通
 - (2) 予備論文 正本 1部 副本 (コピーでよい) 2部
 - (3) 論文要旨 正本 1部 副本 (コピーでよい) 2部
 - (4) 参考資料(必要な場合のみ) 3部(そのうち2部はコピーでよい)
 - (5) 業績目録 教務部に用意してある見本に準じて記入したもの 1通
 - (6) 履歴書 教務部に用意してある見本に準じて記入したもの (市販のものでも可) 1 通
- 4 提出論文等について
 - (1) 予備論文
 - 1) 字数・用紙・書式 120,000字以上を目安とする。 日本語の場合: A 4 判・40字×30行で100枚以上。

英語の場合: A 4 判・70ストローク×25行、150枚以上。

2) その他

注の付け方は、社会文化論専攻修士論文提出要領に準じる。

(2) 論文要旨

枚数・書式 4,000字程度。様式は、論文の書式に準じる。

- (3) 参考資料 特に定めはない。指導教授の指示に従うこと。
- (4) その他 論文の副本、論文要旨、参考資料については、さらに各1部の提出を求めることがある。
- 5 その他

教務部文学部カウンターに申し出てA票とB票の2種類の用紙を受け取り、それぞれに必要事項を記入して、A票を博士論文の表紙に貼り、B票をその第1頁に挟み込んで博士論文の正本とする。副本2部にはA票のみ表紙に貼付する。提出に際しては、特別の製本は不要。後の処理のためには、むしろ仮綴じ(紐綴じ)の方が望ましい。

C 博士論文(「文学研究科課程博士の学位授与審査に関する申合せ」に基づき、「予備審査」を経て 提出を認められた者の場合)

- 1 論文提出
 - (1) 提出期限

12月1日(月) 16時30分(時間厳守のこと)

(2) 提出場所

教務部文学部カウンター

- (3) 提出物
 - 1) 学位申請書 所定の用紙に必要事項を記入したもの 1 通 戸籍抄本 1 通 (マイナンバーの表示がないもの)を含む。 ※外国籍の場合は教務部へ問い合わせること
 - 2) 博士学位論文提出票 1通
 - 3) 博士論文 正本 1部 副本 (コピーでよい) 2部
 - 4) 論文要旨 正本 1部 副本 (コピーでよい) 2部
 - 5) 参考資料(必要な場合のみ) 3部(そのうち2部はコピーでよい)
 - 6) 業績目録 教務部に用意してある見本に準じて記入したもの 1通
 - 7) 履歴書 教務部に用意してある見本に準じて記入したもの (市販のものでも可) 1 通
 - 3)~7)において、予備論文提出の際のものとの間に変更・訂正のない場合は、改めて提出しなくてもよい。
 - 8) 博士学位論文インターネット公表確認書(公表様式1) 1通 博士学位論文インターネット全文公表申請書(必要な場合のみ) 1通 博士学位論文インターネット全文公表停止願(必要な場合のみ) 1通 (「博士学位論文のインターネット公表について」参照のこと。)
 - 9) 博士学位論文及び論文要旨の電子データ (PDF/A形式) 1 通
- (4) 提出論文等について
 - 1) 博士論文 B4(1)に準じる。
 - 2) 論文要旨

枚数・書式 B 4 (2) に準じる。

- 3) 参考資料 B4(3)に準じる。
- 4) その他
 - a) 論文の副本、論文要旨、参考資料については、さらに各1部の提出を求めることがある。
 - b)審査過程で修正が発生した場合は、審議が行われる研究科教授会の前日までに、修正した 内容の博士学位論文(1部)と修正版電子データを、審査委員会主査の確認を得た上で教 務部に提出することとする。
- (5) その他 貼付紙・製本等は、B5に準じる。
- 2 口述審查

審査時期 提出した博士論文について、1月以降に行う。詳しい日程は社会文化論専攻より 指示する。

社会文化論専攻 博士論文(論文博士)提出要領 **〈本学文学部・大学院に在籍していた者の場合〉**

2025年度の博士論文については、状況に応じて提出方法が変更される可能性もある。

詳細については、紹介者である専任教員に問い合わせること。

- A 「予備論文(博士論文の基となる論文)」提出資格
 - 1 社会文化論専攻の専任教員1名の紹介を必要とする。
 - 2 学会誌あるいはそれに準じる雑誌・書籍等での掲載論文が、原則として3本以上あること。
 - 3 提出論文はすでに公刊されたものであること (3年以内を目安とする)。そうでない場合には、 博士号が認定された段階で当該論文を公刊する予定があること。
- B 「予備論文」の提出
 - 1 提出期限

10月1日(水) 16時30分(時間厳守のこと)

2 提出場所

教務部文学部カウンター

- 3 提出物
 - (1) 予備論文審査願 所定の用紙に必要事項を記入したもの 1 通
 - (2) 予備論文

正本 1部 副本(公刊されていない場合はコピーでよい) 2部

- (3) 論文要旨 正本 1部 副本 (コピーでよい) 2部
- (4) 参考資料(必要な場合のみ) 3部(そのうち2部はコピーでよい)
- (5) 業績目録 教務部に用意してある見本に準じて記入したもの 1通
- (6) 履歴書 教務部に用意してある見本に準じて記入したもの (市販のものでも可) 1 通
- 4 提出論文等について
 - (1) 予備論文

公刊されている場合は書籍を提出する。

公刊されていない場合

1) 字数・用紙・書式 120,000字以上を目安とする。

日本語の場合:A4判・40字×30行で100枚以上。

英語の場合: A 4 判・70ストローク×25行、150枚以上。

2) その他

注の付け方は、社会文化論専攻修士論文提出要領に準じる。

(2) 論文要旨

枚数・書式 4,000字程度。様式は、論文の書式に準じる。

- (3) 参考資料 特に定めはない。指導教授または紹介者の指示に従うこと。
- (4) その他 論文の副本、論文要旨、参考資料については、さらに各1部の提出を求めることがある。

5 その他

教務部文学部カウンターに申し出てA票とB票の2種類の用紙を受け取り、それぞれに必要事項を記入して、A票を博士論文の表紙に貼り、B票をその第1頁に挟み込んで博士論文の正本とする。副本2部にはA票のみ表紙に貼付する。提出に際しては、特別の製本は不要。後の処理のためには、むしろ仮綴じ(紐綴じ)の方が望ましい。

- C 博士論文(「本学文学部・大学院に在籍していた者についての論文博士の学位授与に関する申合せ」 に基づき、「予備審査」を経て提出を認められた者の場合)
 - 1 論文提出
 - (1) 提出期限

12月1日(月) 16時30分(時間厳守のこと)

(2) 提出場所

教務部文学部カウンター

- (3) 提出物
 - 1) 学位申請書 所定の用紙に必要事項を記入したもの 1通以下のものを含む。
 - ・戸籍抄本 1通 (マイナンバーの表示がないもの) ※外国籍の場合は教務部へ問い合わせること
 - ・最終学校の卒業証明書・修了証明書・単位取得証明書 1 通
 - 2) 博士学位論文提出票 1通
 - 3) 博士論文 正本 1部 副本 (コピーでよい) 2部
 - 4) 論文要旨 正本 1部 副本 (コピーでよい) 2部
 - 5) 参考資料(必要な場合のみ) 3部(そのうち2部はコピーでよい)
 - 6) 業績目録 教務部に用意してある見本に準じて記入したもの1通
 - 7) 履歴書 教務部に用意してある見本に準じて記入したもの

(市販のものでも可) 1通

- 3)~7)において、予備論文提出の際のものとの間に変更・訂正のない場合は、改めて提出 しなくてもよい。
- 8) 論文審查手数料納入証明書

所定の手続きに従って納入したことを証明できるもの 1通

- 9) 博士学位論文インターネット公表確認書(公表様式1) 1通 博士学位論文インターネット全文公表申請書(必要な場合のみ) 1通 博士学位論文インターネット全文公表停止願(必要な場合のみ) 1通 (「博士学位論文のインターネット公表について」参照のこと。)
- 10) 博士学位論文及び論文要旨の電子データ (PDF/A形式) 1通
- (4) 提出論文等について
 - 1) 博士論文 B4(1)に準じる。
 - 2) 論文要旨 B4(2)に準じる。
 - 3) 参考資料 B4(3)に準じる。
 - 4) その他
 - a) 論文の副本、論文要旨、参考資料については、さらに各1部の提出を求めることがある。

- b)審査過程で修正が発生した場合は、審議が行われる研究科教授会の前日までに、修正 した内容の博士学位論文(1部)と修正版電子データを、審査委員会主査の確認を得 た上で教務部に提出することとする。
- (5) その他 論文の正本は製本(簡易製本でもよい)すること。副本は製本しなくてよいが、 下綴じをして堅い表紙をつけること。
- 2 学力認定 実施方法については、別に定める。
- 3 口述審査 提出した博士論文について行う。詳しい日程は社会文化論専攻より指示する。

【修士論文表紙見本】

英文の場合

Title

ID Number:
Name:

A Thesis

Submitted in Partial Fulfillment of the Requirements for the Degree of Master of Arts

The Department of English and American Literature
The Graduate School of Humanities
Seikei University

Date, Month, Year:

Adviser: Professor

和文の場合 (横書き)

成蹊大学大学院 文学研究科 〇〇〇〇年度 修士論文

題目

専攻:

学籍番号:

氏名:

指導教授:

和文の場合 (縦書き)

成蹊大学大学院 文学研究科 〇〇〇年度 修士論文 「任名: 「特番号:

【「特定課題研究の成果」表紙見本】

英文の場合

Title ID Number: Name: A Thesis Submitted in Partial Fulfillment of the Requirements for the Degree of Master of Arts The Department of English and American Literature The Graduate School of Humanities Seikei University Date, Month, Year: Adviser: Professor

和文の場合 (横書き)

成蹊大学大学院 文学研究科 ○○○○年度「特定課題研究の成果」

題目

専攻: 学籍番号:

氏名: 指導教授:

和文の場合(縦書き)

 -,,, -					
指導教授:	学籍番号:	専攻:	題目	○○○年度「特定課題研究の成果」	成蹊大学大学院 文学研究科

成蹊大学大学院文学研究科・成城大学大学院文学研究科・ 武蔵大学大学院人文科学研究科の間における単位互換に関する協定書

(趣旨)

第1条 成蹊大学大学院文学研究科、成城大学大学院文学研究科及び武蔵大学大学院人文科学研究科は 3大学院間の交流を促進し、大学院研究科の学生の研究上の便に供するため、単位互換に関する協定 を締結する。

(授業科目の履修)

- **第2条** この協定に参加する大学院研究科(以下「参加研究科」という。)に所属する学生は、協定先大学院研究科が開設する授業科目を履修し、単位を修得することができる。
- 2 前項の場合において、履修することのできる授業科目の範囲及び修得することのできる単位の上限は、当該学生が所属する大学院(以下「所属大学院」という。)の学則その他諸規則の定めるところによる。

(出願)

第3条 この協定に基づき協定先大学院研究科の授業科目を履修しようとする学生は、所属大学院研究 科の指導教授及び当該授業科目担当者の承認を得て、所定の願書を希望する協定先大学院に提出しな ければならない。

(受入れ)

- **第4条** 所定の手続きにより協定先大学院学生の履修申込みを受けたときは、当該大学院は特別聴講学 生として受入れを許可する。ただし、受入れに当たりやむを得ない事情がある場合には、これを許可 しないことがある。
- 2 前項により特別聴講学生として受入れを許可したときは、特別聴講学生証を発行する。 (成績及び単位修得の認定)
- **第5条** 特別聴講学生の成績評価及び単位認定は受入れ先大学院において行う。ただし、成績評価の表示方法は、所属大学院の方式による。

(研究施設の利用)

第6条 特別聴講学生は協定先大学院研究科の認める範囲で、図書館、研究室等を利用することができる。

(運営)

- 第7条 当該年度に開設する授業科目の種類、内容、時間割等の資料については、当該年度の始めに協定先大学院研究科に送付するものとする。
- 2 この協定に関する具体的な事務手続等については、参加研究科事務室間で行う。 (有効期間)
- 第8条 この協定は平成16年4月以降、特に期限を定めず、引き続き実施するものとする。
- 2 協定の改廃を含めて、問題が生じた場合は、協定校間において適宜協議し、解決を図るものとする。 附 則
 - この協定は平成16年4月1日から効力を発する。

平成 15 年 11 月 29 日

成蹊大学大学院文学研究科長 成城大学大学院文学研究科長 武蔵大学大学院人文科学研究科委員長 武蔵大学大学院人文科学研究科・成城大学大学院文学研究科・ 成蹊大学大学院文学研究科の間における大学院特別聴講学生に 関する事務手続き(覚書)

- 1. 大学院履修要覧および時間割を、年度始めに各 10 部協定先大学院研究科へ送付する。 その際、研究科の授業開始日および履修届提出締切日を各校へ連絡する。
- 2. 受入校にて特別聴講学生の受入が決定次第、所属校の教務担当部署にその旨連絡をする。
- 3. 履修を許可された特別聴講学生の聴講料は無料とする。
- 4. 履修科目の成績報告は、所属校の教務担当部署に2月20日まで(休日の場合は前日まで)に報告する。

附則

この事務手続き(覚書)は平成12年4月1日より施行する。

成蹊大学大学院文学研究科・成城大学大学院文学研究科・ 武蔵大学大学院人文科学研究科の間における大学院特別 聴講学生の手続きについて

- 1. 大学院特別聴講学生となることを希望する学生は、大学院特別聴講学生履修届を、所属校の教務担当部署にて受け取ること。また、受入校研究科の履修要覧および時間割は所属大学の所定の場所で閲覧すること。
- 2. 学生は大学院特別聴講学生履修届に必要事項を記入し、指導教授の承認(承認印をA・B票にもらうこと)を受ける。

その後、受入校教務担当部署に立寄り、受入校当該科目担当者の承認(承認印をA・B票にもらうこと)を受け、所定の期日までに受入校教務担当部署に写真1枚(3×4cm)を添えて提出すること。

- 3. 学生は履修が許可されてから1週間以内に受入校教務担当部署にて特別聴講学生証の交付を受ける こと。
- 4. 万一、履修を途中でやめる場合には、速やかに科目担当者および指導教授、所属校の教務担当部署 に連絡すること。

平成 11 年 11 月 18 日作成 平成 13 年 11 月 29 日改定

東京女子大学大学院と成蹊大学大学院との単位互換に関する協定書

(趣旨)

第1条 東京女子大学大学院と成蹊大学大学院は、大学院相互の交流を促進し、学生の教育研究上の便に供するため、単位互換に関する協定を締結する。

(協定の対象となる研究科)

第2条 この協定の対象となる大学院の研究科は、東京女子大学大学院においては人間科学研究科(博士前期課程)、成蹊大学大学院においては文学研究科(博士前期課程)とする。

(授業科目の履修)

- **第3条** 前条に定める研究科に所属する学生は、協定先大学院の研究科(以下「協定先大学院」という。) が提供する授業科目を履修し、単位を修得することができる。
- 2 履修することのできる授業科目の範囲及び修得することのできる単位の上限は、当該学生の所属する大学院(以下「所属大学院」という。)の学則その他諸規程の定めるところによる。 (出願)
- 第4条 この協定に基づき、協定先の授業科目を履修しようとする学生は、所定の願書に所属大学院の 指導教員及び協定先大学院の当該授業科目担当者の承認を得て、協定先大学院の教務担当部署に提出 しなければならない。

(許可)

- **第5条** 協定先大学院は、前条による願い出を受けたときは、当該授業科目を開設する研究科の議を経て、特別聴講学生として受入れを許可するものとする。ただし、受入れに当たりやむを得ない事情がある場合には、許可しないことがある。
- 2 協定先大学院は、前項により特別聴講学生として受入れを許可した学生に、特別聴講学生証を交付する。

(規則の遵守)

- 第6条 特別聴講学生は、協定先大学院の定める学則その他諸規程を遵守しなければならない。 (成績評価及び単位修得の認定)
- 第7条 特別聴講学生の成績評価は、協定先大学院において、100 点法による表記と協定先大学院で定める評価を併記して行うものとする。ただし、単位認定科目及び成績評価の表示並びに単位修得の認定は、当該学生の所属大学院において行う。

(成績の通知)

第8条 特別聴講学生の成績評価及び修得単位数は、所定の成績通知書により、協定先大学院の教務担 当部署から所属大学院の教務担当部署に通知しなければならない。

(聴講料等)

- 第9条 特別聴講学生の履修に係る聴講料は、1単位につき500円とする。
- 2 前項に定めるもののほか、教材費等を特別に徴収する必要が生じた場合は、協定先大学院の定めるところにより徴収することができる。

(図書館等の利用)

- 第10条 特別聴講学生は、協定先大学院の認める範囲で、図書館等を利用することができる。 (運営)
- 第11条 当該年度に提供する授業科目の種類、内容、時間割等の資料は、前年度末までに協定先大学 院に送付するものとする。
- **第12条** この協定書に定めるもののほか、協定の運営に関し必要な事項は、その都度協議し、文書により合意するものとする。
- 2 前項の文書は、同一正文各一通を双方で保管する。 (改廃)
- 第13条 この協定は、双方の合意によって改正することができる。
- 2 この協定は、一方の申入れによって廃止することができる。この場合において、廃止の時期は、学年末とし、少なくとも6ヵ月前までに協定先大学院に文書をもって申し入れなければならない。

附則

- 1. この協定は、2012年4月1日から効力を発する。
- 2. 2004年12月6日締結の協定書は、2012年3月31日をもって廃止する。
- 3. 第2条の規定にかかわらず、東京女子大学大学院文学研究科及び現代文化研究科が存続する間、当該専攻に在学する学生は、本協定の適用を受けるものとする。

この協定書の成立を証するため、本書を2通作成し、双方署名の上、各1通を保有する。

2012年2月10日

青山学院大学大学院文学研究科日本文学・日本語専攻と 成蹊大学大学院文学研究科日本文学専攻との単位互換に関する協定書

(趣旨)

第1条 青山学院大学大学院文学研究科日本文学・日本語専攻と成蹊大学大学院文学研究科日本文学専攻は、大学院相互の交流を促進し、学生の研究上の便に供するため、単位互換に関する協定を締結する。

(授業科目の履修)

- 第2条 この協定に定める専攻に所属する学生は、協定先大学院研究科の専攻が開設する授業科目を履修し、単位を修得することができる。
- 2 前項の場合において、履修することのできる授業科目の範囲及び修得することのできる単位の上限は、当該学生が所属する大学院(以下「所属大学院」という。)の学則その他諸規則の定めるところによる。

(出願)

- 第3条 この協定に基づき授業科目を履修しようとする学生は、所属大学院研究科の指導教授及び当該 授業科目担当教員の承諾を得て、所定の願書を協定先大学院の研究科長に提出しなければならない。 (許可)
- **第4条** 協定先大学院の研究科長は、前条による願い出を受けたときは、研究科教授会の議を経て、受入れを許可するものとする。ただし、受入れに当たりやむを得ない事情がある場合には、これを許可しないことがある。
- 2 前項により特別聴講学生として受入れを許可したときは、特別聴講学生証を交付する。 (規則の遵守)
- 第5条 特別聴講学生は、協定先大学院の定める規則を遵守しなければならない。 (成績及び単位修得の認定)
- 第6条 特別聴講学生の成績評価及び単位認定は、協定先大学院において行う。ただし、成績評価基準 及び表示方法は、特別聴講学生が所属する大学院研究科の方式による。 (聴講料)
- 第7条 特別聴講学生の聴講料は、2単位当たり1,000円とする。

(研究施設の利用)

第8条 協定先大学院は、特別聴講学生の図書館、研究室等の利用について、できる限り便宜を図るものとする。

(運営)

- 第9条 当該学年に開設する授業科目の種類,内容,時間割等の資料については,当該学年の始めに相 互に交換するものとする。
- 2 この協定書に定めるもののほか、協定の運営に関し必要な事項は、その都度協議する。 (改廃)
- 第10条 この協定は、双方の合意により改正することができる。
- 2 この協定は、一方の申し入れにより廃止することができる。ただし、廃止の時期は、学年末とし、 少なくとも6カ月前までに協定校に文書をもって申し入れなければならない。 (発効)
- 第11条 この協定は、平成30年4月1日から効力を発する。

平成29年 8月 2日

中央大学大学院文学研究科国文学専攻との単位互換に関する協定書

(趣旨)

- 第1条 中央大学大学院文学研究科国文学専攻と成蹊大学大学院文学研究科日本文学専攻は、大学院相 互の交流を促進し、学生の研究上の便に供するため、単位互換に関する協定を締結する。 (授業科目の履修)
- 第2条 この協定に定める専攻に所属する学生は、協定先大学院研究科の専攻が開設する授業科目を履修し、単位を修得することができる。
- 2 前項の場合において、履修することのできる授業科目の範囲及び修得することのできる単位の上限は、当該学生が所属する大学院(以下「所属大学院」という。)の学則その他諸規則の定めるところによる。

(出願)

- 第3条 この協定に基づき授業科目を履修しようとする学生(以下、「特別聴講学生」という。)は、所属大学院研究科の指導教授及び協定先大学院の授業科目担当教員の承諾を得て、所定の願書を指定期日までに協定先大学院の研究科の長に提出しなければならない。 (許可)
- 第4条 協定先大学院の研究科の長は、前条による願い出を受けたときは、研究科委員会または研究科 教授会の議を経て、特別聴講学生として受入れを許可するものとする。ただし、受入れに当たりやむ を得ない事情がある場合には、これを許可しないことがある。

(規則の遵守)

- 第5条 特別聴講学生は、協定先大学院の定める規則を遵守しなければならない。 (成績及び単位修得の認定)
- 第6条 特別聴講学生の成績評価及び単位認定は、協定先大学院において行う。ただし、成績評価基準 及び表示方法は、特別聴講学生が所属する大学院研究科の方法による。 (聴講料)
- 第7条 特別聴講学生の聴講料(特別聴講手数料)は、2単位当たり1,000円とする。 (図書館の利用)
- 第8条 協定先大学院は、特別聴講学生の図書館の利用について、できる限り便宜を図るものとする。 (運営)
- 第9条 当該学年に開設する授業科目の種類、内容、時間割等の資料については、当該学年の始めに相 互に交換するものとする。
- 2 この協定書に定めるもののほか、協定の運営に関し必要な事項は、その都度協議し、文書により合意するものとする。

(改廃)

- 第10条 この協定は、双方の合意により改正することができる。
- 2 この協定は、一方の申し入れにより廃止することができる。ただし、廃止の時期は、学年末とし、 少なくとも6ヵ月前までに協定校に文書をもって申し入れなければならない。 (発効)
- 第11条 この協定は、平成29年4月1日から効力を発する。

平成29年1月11日

実践女子大学大学院文学研究科国文学専攻と 成蹊大学大学院文学研究科日本文学専攻との特別聴講学生に関する協定書

実践女子大学大学院文学研究科国文学専攻と成蹊大学大学院文学研究科日本文学専攻は、本協定書第1条の趣旨につき協議した結果、合意を得て次のとおり協定した。

(趣旨)

- 第1条 本協定書は、頭書二校の当専攻間で、それぞれの所属学生に相手校の特別聴講学生となる便宜 を相互に与えることに関する大綱を定めるものである。
- 第2条 双方の大学院学生は、本協定に従い、相手校が開設する授業科目を履修し、単位を修得することができる。
- 2 履修することのできる授業科目の範囲及び修得することのできる単位の上限は、当該学生の所属する大学院(以下「所属校」という。)の学則その他諸規程の定めるところによる。
- 3 前項の規定にかかわらず、所属校がその年度に開設する授業科目と実質上同種の内容を有するものと認定した授業科目は、相手校において履修することができない。
- **第3条** 特別聴講学生となることを認められた者は、相手校の規則に従わなければならない。 (出願)
- 第4条 本協定に基づき、相手校の授業科目を聴講しようとする学生は、所属校の専攻主任及び指導教員の承認を得て、所定の願書を指定された期日までに相手校の研究科の長に提出しなければならない。
- **第5条** 前条の願書は、相手校にやむを得ない事情がある場合には、受理されないことがある。 (聴講料)
- 第6条 特別聴講学生の聴講料(特別聴講手数料)は、1科目当たり年額2,000円とする。 (成績)
- 第7条 特別聴講学生の成績の認定は、受入校において行い、成績の表示は、所属校の方式による。
- 第8条 特別聴講学生の成績及び修得単位数は、受入校教務担当部署から所属校教務担当部署に、所定 の成績通知書をもって、速やかに通知しなければならない。
- **第9条** 特別聴講学生は、受入校の認める範囲で、受入校の図書館等を利用することができる。 (運営)
- 第10条 両校は当該学年に開設する授業科目の種類及びその内容資料並びに授業時間割を,当該学年の始めに交換する。
- 第11条 本協定の運営に関する費用は、両校で分担するものとする。
- 第12条 本協定書に定めるもののほか、協定の運営に関し必要な事項は、協議によって決する。
- 2 協議の結果を文書化し、同一正文各一通を双方で保管する。
- 第13条 本協定は、双方の合意によって変更することができる。
- **第14条** 本協定は、一方の申入れによって廃止することができる。この場合において、廃止の時期は、 学年末とし、少なくとも9ヵ月前までに相手校に文書をもって申し入れなければならない。

附 則

(図書館等の利用)

- 第1条 本協定は、平成11年4月1日から効力を発する。
- **第2条** 当事校は、それぞれ本協定の円滑な実施ができるように、前条の期日までに、必要な措置をするものとする。

以上の証拠としてわれわれは本協定に署名し、同一正文を交換した。

平成 11 年 1 月 13 日

大学院社会学分野の単位互換制度に関する協定書

今日の学問の高度化と専門分化の進展の中で、大学院にふさわしい高度な研究教育を実現するためには、各大学における改善努力とともに、多数の大学間の提携が、大きな効果をあげることが期待される。社会科学諸分野の中でも、一つの大学において開講される授業科目数が比較的少ない社会学分野においては、とくに複数の大学間の単位互換制度の導入によって、大学院学生により豊富な学習機会を提供することは、有益かつ必要な改革と考えられる。

本協定に参加する各大学の大学院研究科あるいは専攻課程は、平等互恵の精神に基づき、相互の交流と発展を目指して、社会学分野ならびにその関連分野の授業科目に関して、特別聴講学生の単位互換制度を設けることについて、以下のとおり合意した。

(聴講の願い出)

第1条 本協定に参加する大学院に在籍する学生が、研究上の必要により、他大学大学院の授業科目を 聴講しようとするときは、所属大学院の指導教授の承認を得たうえで、所属大学院を通じ、希望先の 大学院にその旨、願い出るものとする。

(特別聴講学生の受入れ)

- 第2条 所定の手続きにより他大学院の学生の聴講申込みを受けたときは、当該大学院は、正規の授業 にさしつかえないかぎり、特別聴講学生としての受入れを許可する。 (単位互換)
- **第3条** 特別聴講学生が、受入れ先大学院において単位を修得したときは、所属大学院の課程の修了に 必要な単位として認められる。

(授業料等の相互不徴収)

- 第4条 特別聴講学生の入学料、検定料、授業料については、相互に不徴収とする。 (運営協議会の設置)
- 第5条 本協定に基づく「大学院社会学分野の単位互換制度」の運営の細目については、「大学院社会学分野の単位互換制度に関する運営協議会規約」ならびに「大学院社会学分野の単位互換に関する細則」の定めるところによる。

(有効期間)

第6条 本協定の有効期間は、5年とする。

ただし、運営協議会規約の定める手続きにより、5年を単位として更新することができる。

附則 本協定は、以下の各大学大学院研究科(専攻課程)の参加によって、1997年4月1日から施 行する。

茨城大学大学院人文科学研究科 駒澤大学大学院文化科学研究科 成蹊大学大学院文学研究科社会文化論専攻 專修大学大学院文学研究科社会文中政 事修大学大学院文学研究科社会学専攻 千葉大学大学院文学研究科社会学専攻 中央大学大学院文学研究科社会学専攻、社会情報学専攻 筑波大学大学院社会科学研究科社会学専攻 東京外国語大学大学院社会学研究科社会学専攻 東京国際大学大学院社会学研究科応用社会学専攻 東洋大学大学院社会学研究科 常磐大学大学院社会学研究科 日本女子大学院人間科学研究科 日本女子大学院人間社会研究科社会学専攻 武蔵大学大学院人会科学研究科社会学専攻 武蔵大学大学院人文科学研究科社会学専攻

立教大学大学院社会学研究科社会学専攻流通経済大学大学院社会学研究科社会学専攻

明治大学大学院政治経済学研究科政治学専攻 明治大学大学院文学研究科臨床人間学専攻 立教大学大学院社会学研究科社会学専攻 立正大学大学院文学研究科社会学専攻

流通経済大学大学院社会学研究科社会学専攻

(略)

29 本協定は、以下の各大学大学院研究科(専攻)の参加による。 なお、本協定の有効期間は2022年4月1日から2027年3月31日までとする。 茨城大学大学院人文社会科学研究科 大妻女子大学大学院人間文化研究科現代社会研究専攻 駒澤大学大学院人文科学研究科社会学専攻 駒澤大学大学院グローバル・メディア研究科 埼玉大学大学院人文社会科学研究科 成蹊大学大学院文学研究科社会文化論専攻 専修大学大学院文学研究科社会学専攻 創価大学大学院文学研究科社会学専攻 大正大学大学院人間学研究科人間科学専攻 千葉大学大学院人文公共学府人文科学専攻 中央大学大学院文学研究科社会情報学専攻 都留文科大学大学院文学研究科社会学地域社会研究専攻 東洋大学大学院社会学研究科 常磐大学大学院人間科学研究科 日本女子大学大学院人間社会研究科現代社会論専攻 日本大学大学院新聞学研究科 法政大学大学院社会学研究科社会学専攻 武蔵大学大学院人文科学研究科社会学専攻 明治学院大学大学院社会学研究科社会学専攻

注 意 事 項

大学や教員からのお知らせは、ポータルサイトの掲示板に配信します ので、毎日必ずログインし、掲示内容を確認するようにしてください。

SEIKEI PORTAL URL: https://portal.seikei.ac.jp/

※以降、「掲示」については、ポータルサイトでの掲示を指します。 ポータルサイトの利用マニュアルは、CoursePower の「キャビネット」内に 掲載されていますので、そちらをご覧ください。

1. 事務取扱い時間

教務部の事務取扱い時間は、以下のとおりです。時間外の取扱いはできません。

月~金 $9:00\sim17:00$ (除 $11:30\sim12:30$)

 \pm 9:00~12:00

※日曜日、祝日(授業日以外)は休業です。

※夏期・冬期の休業期間や、特別な場合の取扱い時間については、その都度掲示で連絡します。

証明書自動発行機の稼働時間は、次のとおりです。

月 \sim 金 9:00 \sim 17:00、 ± 9:00 \sim 12:00

2. 掲示•連絡

大学から学生への連絡は、基本的には全て掲示によって行います。掲示を見なかったために生じる不利益は学生本人の責任となります。

授業に関する情報(休講、補講、教室変更、試験やレポートの告知など)や、学生への個人連絡なども掲示にて行います。このほかにも、緊急を要する重要な掲示を行うこともありますので、最新の情報を得るためにも、毎日必ずポータルサイトを見るように習慣づけてください。

掲示内容についてはポータルサイト上でも確認できますが、携帯電話 (スマートフォン) 等のメールアドレスを予め登録しておくことで、休講などの一部の情報はメールで配信されます。

3. 問い合わせ

授業や履修・成績等に関する事務室への相談は、必ず本人が直接担当部署の窓口まで来て行ってください。留学中や病気療養中であるなど、直接本人が事務室窓口に相談に来ることができない特別な場合を除いて、電話や電子メール、家族や友人など本人以外の者からの相談受付けは、行っていません。個人情報保護のため、また間違いや誤解が生じるのを防ぐためです。なお、家族や友人からの電話による学生呼出しについても応じていません。これらのことを、あらかじめご家族にも伝えておいてください。

4. 教員との連絡

教員への授業内容などに関する質問・相談は、授業時間の前後に受付けています。ただし、成績に関する質問は、所定の期間に質問票を教務部で受付けます。後掲の「成績」を参照してください。

専任教員

成蹊大学を本務校とする専任教員は、学内に研究室があり、個別に相談に応じています。各教員のオフィス・アワーは、ポータルサイトに掲載しています。オフィス・アワーとは、予約なしで研究室を訪問することができる時間帯を指します。各教員のオフィス・アワーを確認し、研究室を訪ねてください。

非常勤講師

成蹊大学を本務校としていない教員については、学内に研究室はありません。授業の前後に相談をするか、ポータルサイトの「オフィスアワー検索」で指定された連絡方法を確認のうえ、連絡してください。教務部では個人情報保護のため、非常勤講師の連絡先を教えることはできません。

5. 教務部の業務

教務部は、各研究科それぞれのカリキュラムに基づき実施される授業、学期末試験、履修登録、成績処理・通知等の業務の他、学籍・成績関係の証明書発行、教職課程・資格課程に関する業務を行っています。不明な点は各担当に問い合わせてください。

履修登録上の注意

履修登録の重要性

履修登録は、今年度各自が受講する授業科目を申請、登録するものです。登録に際しては 指導教授とよく相談の上、遺漏のないよう手続きを行ってください。

長期的な履修計画

修了するためには、規定の修業年数以上在学し、本研究科のカリキュラム(教育課程)に 従って開講される授業科目を履修の上、定められた単位の修得、修士論文等(博士論文)の 審査および最終試験に合格する必要があります。文学研究科規則には科目の構成が示されていますので、修了に必要な単位数を確認の上、自らの責任において長期的な履修計画を立てることが必要です。

修了要件(博士前期課程)

- ・2年以上(長期履修学生にあっては4年以上)在学すること
- ・所属する専攻の開講科目を次のとおり修得すること

英米文学専攻 研究コース 30単位以上

総合コースおよび英語教育コース 34単位以上

日本文学専攻 研究コース 30単位以上

総合コース 34単位以上

社会文化論専攻 研究コース 30単位以上

総合コース 34単位以上

・修士論文または「特定課題研究の成果」を提出し、その審査を受け、最終試験に合格すること。なお、修士論文または「特定課題研究の成果」を提出するためには、提出年度の前年度末までに、所属する専攻の授業科目について 16 単位以上を修得する必要があります。修了に必要な単位の科目区分および授業科目については、文学研究科規則別表(第1、2)で確認してください。

修了要件(博士後期課程)

- 3年以上在学すること
- ・所属する専攻の開講科目を計16単位(所属する専攻の必修科目12単位、選択科目4単位)以上修得すること
- ・博士論文を提出し、その審査を受け、最終試験に合格すること。修了に必要な単位の授業科目については、文学研究科規則別表(第1、2)で確認してください。

履修指導

履修する科目を決定するにあたっては、事前に指導教授の履修指導が必要です。手続きの前に必ず指導教授による履修指導を受けて、履修する科目を決定してください。

履修申請書の提出

- ① CoursePower のキャビネットにある、履修申請書に必要事項を入力し、指導教授へメール添付で送信してください。
- ② 履修申請書には (No. 1) と (No. 2) があります。 (No. 1) には「テーマ研究」および「研究計画概要」を必ず入力してください。 (No. 2) は主に資格課程を取得するため科目等履修生として文学部授業科目を履修する場合に入力します。
- ③ 2種類の履修申請書は<u>履修登録がない場合でも</u>指導教授へ所定期間内にメール添付で送信してください。(この場合も「テーマ研究」および「研究計画概要」は必ず入力すること。)
- ④ 今年度履修する科目は、開講期を問わず全て4月に申請してください。
- ⑤ 各期同一曜日・時限に2科目以上の履修登録はできません。
- ⑥ 博士前期課程において、長期履修学生の履修に関する注意は「長期履修」の項を参照 してください。
- ⑦ 他大学院の履修に関する注意は「協定大学院科目の履修」の項を参照してください。

研究計画書の提出

指導教授と十分に相談の上、「研究指導計画書」の「研究課題」及び「研究内容・計画」 を記入し、5月中に指導教授にメール添付にて提出してください。(指導教授が研究指導計画を記入した後のファイルを共有します。)

重複履修

以下の科目以外は、次年度以降において重複履修をすることができます。(単位修得済みでも再度履修登録が可能。)

・論文演習、チュートリアル、課題研究、学際分野特殊研究(いずれも授業科目名が同一のもの。)

他研究科および他専攻科目の履修

として他大学院で修得した単位を含みます。)

所属専攻以外の科目の履修を希望する場合は、特に事前手続は必要ありません。「履修申請書」の所定欄に入力の上、他の科目とともに指導教授へメール添付で送信してください。ただし、所属専攻の院生が履修する場合に、科目は開講されます。他研究科の履修を希望する場合は、受入先研究科での承認が必要となりますので、事前にその旨申し出てください。履修が許可され、単位を修得した場合、博士前期課程の学生に限り10単位まで本研究科で修得した単位として算入することができます。(ただし、この10単位には特別聴講学生

後期履修変更制度

後期の所定の期間において後期科目の履修変更ができます。履修変更できるのは後期に 開講されている科目に限ります。また、「必修科目」「他大学院履修科目」など、一部の科目 は履修変更できません。

後期履修変更にあたっては、教務部で配付している「後期履修変更申請書」に必要事項を

記入し、指導教授印を受け、下記の期間に提出してください。

「後期履修変更期間]

9月18日 (木) ~9月25日 (木)

上記期間以外での後期履修変更は認めません。また、修了、進級、就職などいかなる理由があっても、履修変更した当該科目の申請の取消しは認められませんので注意してください。

協定大学院科目の履修

本研究科では、単位互換に関する協定を締結した他大学院の授業科目を履修することができる特別聴講学生制度があります。聴講を希望する大学院の履修要項(教務部に確認してください)で授業内容等を確認し、当該科目の開講時期に関わらず 4 月の履修登録期間内に教務部文学部カウンターで所定の手続を行ってください。手続は本大学院と受入を希望する大学院の窓口の計 2 回行う必要がありますので、双方の大学院の履修申請期間をよく確認して手続を行ってください。

また、当該科目は本大学院の履修申請書の所定欄に入力した上で教務部に提出してください。受入大学によっては聴講料が必要となる場合があります。

特別聴講学生として修得した単位は、博士前期課程の学生に限り 10 単位まで本研究科で 修得した単位として算入することができます。(ただし、この 10 単位には所属専攻以外の 専攻および他研究科で修得した単位を含みます。)

入学前の単位認定

研究科教授会が教育研究上有益であると認めるときは、入学前に他の大学院(外国の大学院を含む。)で修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本研究科において修了に必要な単位として認定することができます。 単位認定を希望する場合は、入学後すみやかに教務部文学部カウンターに申し出て、入学年度の 4 月末日までに申請手続きを終えるようにしてください。10 単位まで修了に必要な単位として算入します。

- *1 転入学者および再入学者については、この限りではありません。
- *2 本学文学部在学時に本学大学院文学研究科科目を科目等履修生として履修している場合も、同様に申請してください。その場合、単位認定後の成績評価は、単位修得時の成績評価となります。

長期履修

長期履修学生の修業年限は 4 年となっており、在学期間は 6 年を超えることができません。

長期履修学生の履修方法は、次のとおりとなっています。指導教授の指導を十分受けた上で、履修計画を立てるようにしてください。

- ① 修業年限は原則として変更することができません。
- ② 長期履修学生は、論文演習 I、チュートリアル I または課題研究 I を在学期間の 2 年 目に、論文演習 II、チュートリアル II または課題研究 II を在学期間 4 年目に履修しなければなりません。

- ③ 長期履修学生は、学位論文または「特定課題研究の成果」を原則として在学期間4年目に提出するものとします。
- ④ 長期履修学生が各年次において履修登録することのできる単位数は、14 単位を超えることができません。ただし、研究科教授会が特に認めた場合は、この限りではありません。

コース変更

コース変更の時期は、在学期間1年経過時(長期履修学生は在学期間1年または2年経過時)となっています。ただし、文学研究科が特に認めた場合は、この限りではありません。

所属する専攻のコース変更を希望する場合は、指導教授に相談のうえ、教務部でコース変更願を受け取り、1年次(長期履修学生は1年次または2年次)の1月末までに教務部文学部カウンターへ提出してください。コース変更の是非については、専攻会議の議を経て、研究科教授会で決定されます。

なお、社会文化論専攻のコース変更(総合コースから研究コースへ)の場合は、面接を行います。

博士後期課程学生の博士前期課程開講科目の履修

博士後期課程の学生は、博士前期課程開講科目を履修することができません。

教職課程科目等の履修

大学院生の免許状取得にはいろいろなケースがありますので、教育職員免許状取得希望者は、必ず事前に教職課程センターに相談し、必要があればガイダンスに出席するようにしてください。その他の資格課程についても取得希望者は該当ガイダンスにできるだけ出席するようにしてください。(ガイダンス日程は大学ホームページ掲載の「年度始め行事日程」を参照。)

教職課程

① 1種免許状を既に取得している場合

専修免許状を取得するためには、学部で取得できる各教科の1種免許状を取得している、 または1種免許状取得のための所要単位を充たしていることが前提条件になり、修士の学 位を取得することが必要です。具体的な科目名や単位数、履修方法等の詳細は、「教職課程 履修ガイド」で確認してください。

② 1種免許状を取得していない場合

1種免許状取得に必要な学部開講科目等を履修してください。単位を修得できしだい1種 免許状が交付され、専修免許状取得に必要な大学院科目の単位も修得した上で博士前期課 程を修了すれば、専修免許状が取得できます。

なお、学部の科目を履修する場合は、履修申請書(No.2)に必要な科目を入力して、指導教授へメール添付で送信してください。具体的な科目や単位数、履修方法等の詳細は、「教職課程履修ガイド」で確認してください。

学校図書館司書教諭

この資格は教育職員免許状の付加資格であって、教科の免許状なしに単独で取得することはできません。司書教諭課程の履修のためには教職課程の履修登録が必要です。学校図書館司書教諭課程の詳しい履修方法等については、教職課程ガイダンスの中で説明します。また、学校図書館司書教諭課程履修ガイドは、「教職課程履修ガイド」の中に記載してあります。

日本語教員養成コース

文学部には、日本語教員養成コース (日本語教員養成課程(2019 年度以前入学生対象)) が設置されています。コースを修了するための条件や、具体的な科目名、履修方法、資格申 請の詳細は「文学部履修要項」で確認してください。

なお、学部の科目を履修する場合は、履修申請書(No.2)に必要な科目を入力して、指導教授へメール添付で送信してください。

授業

1. 授業時間

本学の授業は年間を通じ、5時限制となっており、各時限の開始・終了時刻は次のとおりです。

時 限	講義
第1時限	8:50 ~ 10:30
第2時限	$10:40 \sim 12:20$
第3時限	13:10 ~ 14:50
第4時限	15:00 ~ 16:40
第5時限	16:50 ~ 18:30

2. 教室

授業が行われる教室については、ポータルサイトを参照してください。教室が変更される 場合がありますので、授業開始前に必ず確認するようにしてください。

なお、ポータルサイトの時間割では、次のように略記号で表示されています。

(例) 8-102...大学 8 号館 1 階 102 教室

2-411...大学 2 号館 4 階演習室 411

4-101...大学 4 号館 (ホール)

3. 休講

授業担当者がやむを得ない事由により講義を休む場合は、ポータルサイト上に掲示します。万一連絡がなく、授業開始時間より 30 分経過した場合は、教務部に連絡の上、指示を受けてください。台風、地震、大雪などの天災、事故、その他緊急事態による一斉休講のお知らせも掲載しますので、利用してください。

4. 授業の欠席について

大学では、次項 5 に定める感染症により登校停止となった場合を除き、公に認められる 欠席はありません。ケガ・病気・忌引で授業を欠席したときは、次回の授業時に直接担当教 員に連絡してください。ただし、欠席の取扱いは担当教員の判断に任されています。

※1週間以上欠席する場合は、教務部で相談してください。

5. 感染症にかかった場合の対応について

学校感染症にかかった場合は、罹患報告が必要になります。必ず以下の大学保健室 HP の「学校感染症」のページを確認し、大学保健室へ報告してください。

大学保健室 HP https://www.seikei.ac.jp/university/campuslife/hoken/

6. 天災(台風、地震、大雪等)、事故、ストライキなどによる交通機関運行停止の場合の授業措置

天災、事故、ストライキ等により交通機関の一部が不通となっても、大学は可能な限り授業を実施します。ただし、首都圏の JR のうち中央線(東京~高尾間)・山手線の全線がともに不通となった場合に限り、次のとおり休講措置を講じます。

JR 中央線(東京~高尾間) JR 山手線の運行状況	授業の取扱い
午前7時現在不通の場合	第1時限および第2時限の授業を休講とする
午前 10 時現在不通の場合	第3時限から第5時限までの授業を休講とする
午後3時現在不通の場合	第6時限および第7時限の授業を休講とする

[※] 休講の決定は、成蹊大学ポータルサイトや HP 等でお知らせします。

7. 気象警報、地震に関する情報、Jアラートを通じた緊急情報などが発表された場合の授業措置

気象警報(大雨、洪水、暴風、暴風雪、大雪等)、地震発生の可能性に関する情報、J アラート(全国瞬時警報システム)を通じた緊急情報などが発表された場合は、学生の皆さんの安全を考え、また、交通機関の乱れに備え、授業の休講・学期末試験の延期等の措置をとることがあります。

他の理由による場合も含めて休講等の決定は、成蹊大学ホームページ等でお知らせします。

履修中止

1. 履修中止制度

授業を受けてみたものの内容が学習したいものと違った場合や、授業についていけるだけの知識が不足していた場合など、そのままでは単位の修得が難しい場合に、不合格 (F) 評価によって GPA が下がることを回避するため、履修登録した科目の履修をとりやめること(履修中止)ができる制度です。年 2 回期間が定められています。

2. 履修中止にあたって

必修科目は履修中止ができません。履修中止の申請にあたっては、指導教授の承認が必要です。事前に履修中止について、指導教授とよく相談しておいてください。

3. 手続き

「履修中止申請書」に必要事項を記入し、指導教授印を受け、下記の期間に提出してください。申請書は、教務部で配布しています。また、CoursePowerのキャビネットからダウンロードすることもできます。履修中止できるのはその学期に開講されている科目に限ります。なお、通年科目については、前期・後期のどちらの期間であっても履修中止が可能です。

手続き	前 期	後期
履修中止申請受付	5月14日(水)~5月16日(金)	10月20日(月)~10月22日(水)
履修中止確認	5月19日(月)	10月24日(金)

上記期間以外では履修中止申請はできません。やむを得ない理由で上記期間内に申請 用紙を提出できない場合は、教務部に相談してください。

4. 注意事項

- ① 修了、進級、就職などいかなる理由があっても、履修中止した当該科目について、申請の取り消しや復活はできません。
- ② 指導教授印を受領できなかったことによる申請期間の延長はできません。指導教授 とよく相談の上、早めに手続きを行うようにしてください。
- ③ 研究科が特に認める場合を除き、前期に履修を中止した科目分を後期に追加登録することや、取消した科目の単位分について履修を追加することはできません。ただし、 履修中止を行った科目について、翌年度以降に再び履修登録をすることができます。
- ④ 各学期の申請において、1度申請をすると、再度申請はできません。
- ⑤ 履修中止が認められた科目は、GPA に算入されません。
- ⑥ 「F」評価となった科目を本年度に再履修し、履修中止を行った場合には、再履修前の「F」評価が GPA の算入対象となります。

5. 証明書の記載について

履修中止された科目は成績証明書には記載されません。ただし、成績通知表には、履修の 履歴として、履修中止された科目は「W (Withdrawal)」と記載されます。

成績

1. 成績評価

評価の方法

科目の特性や授業方法等により、レポートの提出、授業における学習態度や出席状況など評価方法が多岐に渡っていますので、科目ごとに確認してください。

評価の種類

成績評価は、 $S \cdot A \cdot B \cdot C \cdot F$ のいずれかで評価されます。 $S \cdot A \cdot B \cdot C$ は合格として所定の単位が認定されますが、F は不合格で、単位は認定されません。また、留学等により単位認定を受けた科目は「T」(Credits Transferred) と表示され、履修中止した科目は「W」(Withdrawal)と表示されます。

科目の再履修

不合格となった科目の単位を修得するためには、翌年度以降に再履修する必要があります。

成績証明書への記載

成績証明書には、「W」を除き、不合格の「F」評価を含めた全ての評価が記載されます。 ただし、不合格科目を再履修し、合格の評価を得た場合には、再履修前の「F」評価は記載されません。

2. 評価体系

評価体系は下記のとおりです。

成績表示		成績評価基準	GP
	S	100 ~ 90 点	4.0
合格	A	89 ~ 80 点	3.0
百俗	В	79 ~ 70 点	2.0
	С	69 ~ 60 点	1.0
不合格	F	59 点以下	0.0
GP 対象外	Т	単位認定	_
GP 刈家外	W	履修中止	_

(注意!)~盗用、剽窃について~

学位論文や「特定課題研究の成果」、レポート等を作成するにあたり、他の論文や Web サイトの文章、友人の成果物など、他人が作成したものをあたかも自分が作成したかのように見せかけることは、「盗用」や「剽窃(ひょうせつ)」と呼ばれ、厳しく禁じられています。

文学研究科では、そのような行為を行った学生に対し厳正に対処していますので、絶対に行わないようにしてください。

3. GPA制度

GPA とは

各評価に GP(Grade Point)を設け、所定の計算式にもとづいて算出した平均値を GPA(Grade Point Average)といいます。

GPA の算出方法

GPA: P1/Q1 (小数点以下第4位を四捨五入し、小数点以下第3位まで表示する)

P1 = 各評価の単位数に指定のポイントを乗じて累積したもの S 単位数×4+A 単位数×3+B 単位数×2+C 単位数×1+F 単位数×0

Q1 = 総履修単位数

GPA の注意事項

- (1) GPA の対象となる科目は、修了に必要な単位数に算入することができる科目です。
- (2)「T」、「W」評価の科目は GPA に算入しません。
- (3) 過去に「F」評価を受けた科目で、再履修して合格評価($S \cdot A \cdot B \cdot C$)を得た場合や「T」で単位認定を受けた場合は、通算 GPA 算出の際の「Q1=総履修単位数」に含まれません。ただし、「F」評価を受けた当該学期の「Q1=総履修単位数」には含まれます。
- (4) 「F」評価を受けた科目を再履修し、その科目を履修中止して「W」表記となった場合は、再履修前の「F」評価の単位数は GPA に算入されますので注意してください。
- **(5) GPA** には学期ごとの **GPA**、年度 **GPA**、通算 **GPA** があります。成績通知表には、この 3 種類の **GPA** がすべて記載され、成績証明書には通算 **GPA** が記載されます。

4. 成績の通知・確認

前期の成績確認

後期の授業開始前にポータルサイトで開示します。それまで履修した科目すべての成績が表示されます。成績の確認方法の詳細は、「Seikei Portal 利用マニュアル」を参照してください。

成績評価に疑問がある場合には、教務部備付けの「履修・成績質問票」に確認したい内容を詳しく記入し、教務部に提出してください。日程については掲示でお知らせします。

学年末の成績確認

3月下旬に「成績通知表」を、本人住所に郵送します。翌年度の履修登録の際に参考にしてください。転居等の理由により「成績通知表」を受取ることができなかった学生には、教務部カウンターで再交付します。なお、ポータルサイト上では、3月上旬に開示します。成績開示の日時は掲示を確認してください。

成績評価に疑問がある場合には、教務部備付けの「履修・成績質問票」に確認したい内容を詳しく記入し、教務部に提出してください。日程については掲示でお知らせします。

学 籍

1. 学籍とは

「学籍」とは、本学での身分所属を表すものです。在学すべき年数に算入されない「休学」 や、学籍がなくなる「退学」などの「学籍異動」を希望する場合には、願い出て、許可を受 けることが必要です。

問い合わせ先は基本的に教務部ですが、それ以外の場合は担当の部署を記載しています。

休学

疾病またはその他の理由により、3か月以上就学できない場合は、当該期間を休学することができます。その場合「休学願」(疾病、怪我等の場合は診断書を添付)を大学に提出して許可を受けることが必要です。休学中の授業料等の納付金については、後掲の「納付金」を参照してください。

休学については、次のことに注意してください。

(博士前期課程)

- ① 休学期間は、1年以内とします。
- ② 休学期間の延長の必要がある場合には、さらに 1 年間まで延長を願い出ることができます。
- ③ 休学期間は、通算して2年を超えることができません。
- ④ 休学期間は、学則に定められた卒業要件としての在学すべき年数(2年)には算入されません。
- ⑤ 休学期間は、学則に定められた在学が許される期間(4年)には算入されません。
- ⑥ 休学期間終了と同時に修了することはできません。

(博士前期課程 長期履修学生)

- ① 休学期間は、1年以内とします。
- ② 休学期間の延長の必要がある場合には、さらに 1 年間まで延長を願い出ることができます。
- ③ 休学期間は、通算して2年を超えることができません。
- ④ 休学期間は、学則に定められた卒業要件としての在学すべき年数(4年)には算入されません。
- ⑤ 休学期間は、学則に定められた在学が許される期間(6年)には算入されません。
- ⑥ 休学期間終了と同時に修了することはできません。

(博士後期課程)

- ① 休学期間は、1年以内とします。
- ② 休学期間の延長の必要がある場合には、さらに 1 年間まで延長を願い出ることができます。
- ③ 休学期間は、通算して2年を超えることができません。

- ④ 休学期間は、学則に定められた卒業要件としての在学すべき年数(3年)には算入されません。
- ⑤ 休学期間は、学則に定められた在学が許される期間(6年)には算入されません。
- ⑥ 休学期間終了と同時に修了することはできません。

復学

休学者が休学期間を終え、復学する場合は「復学願」を大学に提出して許可を受けること が必要です。教務部より送付する書類に基づき、所定の期日までに手続きを行ってください。

退学

事情により退学する場合は、「退学願」を大学に提出して許可を受けることが必要です。

再入学

退学者が再入学を希望する場合は、「再入学願」を提出することで、選考の上、再入学を認める場合があります。再入学の時期は、原則許可された年度の翌年度の始めとします。ただし、教育上特別の必要があると認められた場合は、許可された年度の後期の始めに再入学することが可能です。

除籍

学則には、大学院の決定により、学生が本学での身分を失うものとして除籍が規定されています。学則に定められている除籍の理由は次のとおりです。

- ① 在学期間が所定の年数(※)を超える者
- ② 授業料等の納付金又は在籍料を滞納し、催告してもこれに応じない者

(※所定の年数) 博士前期課程:4年

博士前期課程(長期履修学生):6年

博士後期課程:6年

氏名の変更

改姓や改名をした場合は、「改姓・改名届」に変更の事実を証明できる書類(戸籍の「全部事項証明書(謄本)」、「個人事項証明書(抄本)」)を添えて提出する必要があります。

保証人の変更(学生部)

保証人を変更する場合は、「保証人変更届」を提出する必要があります。保証人の名前が変更になった場合も同様です。詳しくは、学生支援事務室に問い合わせてください。

住所・電話番号の変更(学生部)

保証人の住所・電話番号を変更した場合は、「住所変更届」を提出する必要があります。 本人の住所・電話番号の変更は、ポータルサイトで手続きすることが可能です。詳しくは、 「Seikei Portal 利用マニュアル」を確認するか、学生支援事務室に問い合わせてください。

9月修了,修了延期制度

1.9月修了

博士前期課程の学生で、前年度末に修了が認められなかった場合、今年度前期末で修了要件の充足が見込まれる学生は、申し出により9月30日付で修了資格の認定を受けることができます。

要領・手続き

- ・4月の履修登録時において、修了要件の充足が見込まれるように、前期開講科目を必ず 履修登録してください。(修了所要単位を既に充足している場合はこの限りではありま せん。)
- ・「9月修了資格認定願」(教務部備付)を6月末日までに提出してください。期限までに「9月修了資格認定願」が提出されなければ、9月修了資格認定の対象とはなりません。 (要件充足者について、自動的に修了認定を行うことはしません。)
- ・前年度の修士論文または「特定課題研究の成果」が未提出の者、あるいは不受理ないし 不合格となった者は、上記手続と同時に修士論文または「特定課題研究の成果」を提出 してください。

提出締切日:6月30日(月)17時(時間厳守のこと)

修了資格の認定

9月修了資格は、9月中旬に行われる研究科教授会で審査の上、正式に認定されます。 進路未定などの理由により9月修了をしなくなった場合には、別途「9月修了資格認定取 下願」を提出しなければなりません。その場合は、至急教務部に連絡してください。

納付金の扱い

修業年限を超えて博士前期課程に在学する者(長期履修者は除く)のうち、前期の終了日に修了が認められたものについては、その年度に納入すべき授業料等の納付金の2分の1が減額されます。

2. 修了延期制度(博士前期課程)

博士前期課程2年次生で、修了要件を満たすものの、国家試験受験、就職活動など正当な理由により、引き続き在学することを希望する場合は、修了要件を満たしたまま、修了を延期することができます。

出願資格

- 1 修了要件を満たす見込みである、あるいは満たしていること。
- 2 上記1において、①延長する在学期間が大学院学則第 5 条に規定する年数を超える 場合、②授業料等納付金を滞納している場合、③後期から1年間留学する場合(留学 期間を延長する場合を含む)は、出願することができません。

在学延長期間・修了の時期

在学を延長できる期間は1年で、1回(1年)を限度に再延長することができます(通算2年まで)。ただし、延長期間中に休学することはできません。修了の時期は、在学延長期間が終了する年度の終了日です。ただし、在学延長期間中に事情変更により、9月修了を希望する場合は、所定の手続きを経ることで修了が認められます。期間を再延長した場合も同様です。

履修登録

原則として、所属研究科の開講科目、および所属研究科が通常認めている範囲内での他研究科科目、単位互換科目を履修することができます。ただし、研究科により履修を認めない科目を設定する場合がありますので、必要に応じ教務部で確認してください。

手続き

- ① 所定の期間 (12~1 月頃) に「修了延期願」を提出した学生に対し、研究科教授会で審議し、修了延期が許可されます。ただし、修了要件を満たさなかった場合は留年となり、この制度の適用を受けることはできません。
- ② 一旦修了延期を許可された学生が、事情変更により本来修了すべき年度末での修了を希望する場合は、所定の期限までに「修了延期許可取消願」を提出した場合に限り、本来修了すべき年度末での修了を認めます。
- ③ 修了延期を許可された学生が、在学延長期間分の授業料等納付金を所定の期間(3月上旬)に納入しなかった場合は、修了延期の許可を取り消し、本来修了すべき年度末での修了とします。
- ④ 修了延期の延長を希望する場合は、改めて手続きが必要となります。

納付金の扱い

修了延期者(長期履修学生を除く。)については、その年度に納入すべき授業料等の納付金の2分の1が減額されます。

学生の身分等

- ① 修了延期者の身分は在学生と同一ですので、情報教育用施設・図書館等の諸施設の利用、学割の発行、学生教育研究災害傷害保険の加入、学則に基づく懲戒処分等について、他の在学生と同等に扱われます。
- ② 在学延長期間中(4月1日以降)に、本学の留学制度に基づく留学をすることができます。
- ③ 修了延期期間中は、休学は認められません。

納付金

1. 納入時期

2023 年度入学者の後期納付金より、原則、口座振替での納入となります。入学後、ご登録頂く金融機関口座から、授業料等の納付金(授業料、施設費および設備費をいう。以下同じ。)を引き落としますので、振替日の前日までに口座にご資金の準備をお願いします。なお、口座振替に係る手数料については、納入者負担となりますので、予めご了承ください。口座振替日は次のとおりです。

前期: 4月12日 後期:10月6日

なお、2022 年度以前に入学された方については、振込依頼書を毎年4月上旬に前期分と後期分を同封して学生(保証人住所)宛に郵送します。授業料等の納付金は、次の期日までに納入してください。

前期: 4月19日まで 後期:10月11日まで

- ※ 振替日および納入期限の最終日が土・日・祝日または金融機関の休日の場合は、翌日 が振替日・納入期限となります。
- ※ 期日までに納入することが困難な場合は、財務部経理課に願い出て、納入期限を延長 することができます。延納が許可された後、振込依頼書を郵送します。

2. 休学期間中の取扱い

休学を許可された場合であっても、休学期間中の授業料等の納付金を納入しなければなりません。しかし、次のすべての条件を満たす場合は、在籍料(半期75,000円、年間150,000円)の納入となります。

- ① 休学期間が学期の全期間にわたる場合
- ② <u>前期:4月30日、後期:10月31日まで</u>に「休学願」を提出し、休学が許可され た場合
- ※休学が許可された後、在籍料の振込依頼書を郵送します。ただし、2023 年度以降の 入学者については、改めて口座振替のご案内をいたします。

3. 退学に伴う納付金の返還について

次の期日までに退学願を教務部に提出し、退学が許可された場合は納付金返還の対象となります。

なお、返還にあたっては、退学願同様、期日までに「退学に伴う納付金返還願」を経理課 へ提出する必要があります。 前期:前期納付金を納入した場合、その年度の 4 月 30 日までに退学願を教務部へ提出した場合には、前期納付金の返還対象とする。

後期:後期納付金を納入した場合、その年度の 10 月 31 日までに退学願を教務部へ提出 した場合には、後期納付金の返還対象とする。

4. 授業料等の減免措置

当該課程の修了に必要な所定の単位を修得している者(長期履修学生を除く。)が、当該課程の修業年限を超えて在学する場合は、本年度支払うべき授業料等の納付金の 2 分の 1 を減額します。該当者については、手続きは必要なく、減免措置がとられ、4 月上旬に財務部経理課より納付金減免の通知が郵送されます。ただし、2023年度以降の入学者については、改めて口座振替のご案内をいたします。

※授業料等の減免が適用される年度に休学した場合は、減免の対象とはなりません。

※納付金減免の通知に同封の振込依頼書で、前期分のみ納めてください。この減免は年額の 2分の1のため、後期分を納める必要はありません。

<前期課程・英米文学専攻>

講義コード ナンバリング	講義名称	担当教員	開講期
217111100 GLE01-501	イギリス文学研究 A I	休 講	前期
217111150 GLE01-502	イギリス文学研究AII	休 講	後期
217111200 GLE01-503	イギリス文学研究BI	休 講	前期
217111250 GLE01-504	イギリス文学研究BII	休 講	後期
217111300 GLE01-505	イギリス文学研究CI	休 講	前期
217111350 GLE01-506	イギリス文学研究CII	休 講	後期
217112100 GLE02-501	アメリカ文学研究 A I	休 講	前期
217112150 GLE02-502	アメリカ文学研究 A II	休 講	後期
217112200 GLE02-503	アメリカ文学研究BI	休 講	前期
217112250 GLE02-504	アメリカ文学研究BII	休 講	後期
217112300 GLE02-505	アメリカ文学研究CI	休 講	前期
217112350 GLE02-506	アメリカ文学研究CII	休 講	後期
217113100 GLE03-501	英語学研究AI	休 講	前期
217113150 GLE03-502	英語学研究 A II	休 講	後期
217113200 GLE03-503	英語学研究BI	休 講	前期
217113250 GLE03-504	英語学研究BⅡ	休 講	後期
217113300 GLE03-505	英語学研究CI	休 講	前期
217113350 GLE03-506	英語学研究 С II	休 講	後期
217114100 GLE04-501	英語教育研究AI	休 講	前期
217114150 GLE04-502	英語教育研究 A II	休 講	後期
217114200 GLE04-503	英語教育研究BI	休 講	前期
217114250 GLE04-504	英語教育研究 B II	休 講	後期
217121110 GLE05-502	イギリス文学演習 A I	休 講	前期
217121120 GLE05-503	イギリス文学演習 A II	休 講	後期
217121210 GLE05-505	イギリス文学演習BI	休 講	前期
217121220 GLE05-506	イギリス文学演習BII	休 講	後期
217121310 GLE05-508	イギリス文学演習CI	休 講	前期
217121320 GLE05-509	イギリス文学演習 C II	休 講	後期
217122110 GLE06-502	アメリカ文学演習AI	休 講	前期
217122120 GLE06-503	アメリカ文学演習 A II	休 講	後期
217122210 GLE06-505	アメリカ文学演習BI	休 講	前期
217122220 GLE06-506	アメリカ文学演習BII	休 講	後期
217122310 GLE06-508	アメリカ文学演習CI	休 講	前期
217122320 GLE06-509	アメリカ文学演習CII	休 講	後期
217123110 GLE07-502	英語学演習AI	休 講	前期
217123120 GLE06-503	英語学演習 A II	休 講	後期
217123210 GLE06-505	英語学演習BI	休 講	前期
217123220 GLE06-506	英語学演習 B II	休 講	後期

<前期課程・英米文学専攻>

講義コード ナンバリング	講義名称	担当	教員	開講	期
217123310 GLE06-508	英語学演習 С І	休	講	前期	
217123320 GLE07-509	英語学演習 C II	休	講		後期
217124110 GLE08-502	英語教育演習AI	休	講	前期	
217124120 GLE08-503	英語教育演習 A II	休	講		後期
217124210 GLE08-505	英語教育演習BI	休	講	前期	
217124220 GLE08-506	英語教育演習BⅡ	休	講		後期
217131110 GLE09-502	Thesis Writingl	休	講	前期	
217131120 GLE09-503	Thesis WritingII	休	講		後期
217131200 GLE09-504	イギリス文学コア・カリキュラムA	休	講	前期	
217131250 GLE09-505	イギリス文学コア・カリキュラムB	休	講		後期
217131300 GLE09-506	アメリカ文学コア・カリキュラムA	休	講	前期	
217131350 GLE09-507	アメリカ文学コア・カリキュラムB	休	講		後期
217131400 GLE09-508	批評理論コア・カリキュラムA	休	講	前期	
217131450 GLE09-509	批評理論コア・カリキュラムB	休	講		後期
217131500 GLE09-510	英語学コア・カリキュラムA	休	講	前期	
217131550 GLE09-511	英語学コア・カリキュラムB	休	講		後期
217131600 GLE09-512	英語教育コア・カリキュラムA	休	講	前期	
217131650 GLE09-513	英語教育コア・カリキュラムB	休	講		後期
217181100 GLE10-501	論文演習 I	休	講	通:	年
217181150 GLE10-602	論文演習Ⅱ	休	講	通:	年
217181200 GLE10-501	論文演習 I	休	講	通:	年
217181250 GLE10-602	論文演習Ⅱ	休	講	通:	年
217181300 GLE10-501	論文演習 I	休	講	通:	年
217181350 GLE10-602	論文演習Ⅱ	休	講	通:	年
217181400 GLE10-501	論文演習 I	休	講	通:	年
217181450 GLE10-602	論文演習 II	休	講	通:	年
217181500 GLE10-501	論文演習 I	休	講	通:	年
217181550 GLE10-602	論文演習 II	休	講	通:	年
217181600 GLE10-501	論文演習 I	休	講	通-	年
217181650 GLE10-602	論文演習Ⅱ	休	講	通:	年
217181700 GLE10-501	論文演習 I	休	講	通:	年
217181750 GLE10-602	論文演習Ⅱ	休	講	通-	年
217181800 GLE10-501	論文演習 I	休	講	通-	年
217181850 GLE10-602	論文演習Ⅱ	休	講	通-	年
217181900 GLE10-501	論文演習	休	講	通:	年
217181950 GLE10-602	論文演習Ⅱ	休	講	通:	年
217182000 GLE10-501	論文演習 I	休	講	通:	年
217182050 GLE10-602	論文演習	休	講	通:	

<前期課程・英米文学専攻>

講義コード	ナンバリング	講義名称	担当教員	開講期
217182100	GLE10-501	論文演習	休 講	通年
217182150	GLE10-602	論文演習	休 講	通年
217191100	GLE11-501	チュートリアルI	休 講	通年
217191150	GLE11-602	チュートリアルⅡ	休 講	通年
217191200	GLE11-501	チュートリアルI	休 講	通年
217191250	GLE11-602	チュートリアルⅡ	休 講	通年
217191300	GLE11-501	チュートリアルI	休 講	通年
217191350	GLE11-602	チュートリアルⅡ	休 講	通年
217191400	GLE11-501	チュートリアルI	休 講	通年
217191450	GLE11-602	チュートリアルⅡ	休 講	通年
217191500	GLE11-501	チュートリアルI	休講	通年
217191550	GLE11-602	チュートリアルⅡ	休 講	通年
217191600	GLE11-501	チュートリアルI	休 講	通年
217191650	GLE11-602	チュートリアルⅡ	休講	通年
217191700	GLE11-501	チュートリアルI	休講	通年
217191750	GLE11-602	チュートリアルⅡ	休講	通年
217191800	GLE11-501	チュートリアルI	休講	通年
217191850	GLE11-602	チュートリアルⅡ	休講	通年
217191900	GLE11-501	チュートリアルI	休講	通年
217191950	GLE11-602	チュートリアルⅡ	休 講	通年
217192000	GLE11-501	チュートリアルI	休 講	通年
217192050	GLE11-602	チュートリアルⅡ	休 講	通年
217192100	GLE11-501	チュートリアルI	休 講	通年
217192150	GLE11-602	チュートリアルⅡ	休講	通年

<前期課程・日本文学専攻>

講義コード	ナンバリング	講義名称	担当教員	開講期
217211100	GLJ01-501	古典文学共通講義 A	平野 多恵	前期
217211150	GLJ01-502	古典文学共通講義 B	平野多恵	後期
217211200	GLJ01-503	近代文学共通講義 A	林 廣親	前期
217211250	GLJ01-504	近代文学共通講義B	林 廣親	後期
217211300	GLJ01-505	日本語学共通講義 A	矢田 勉	前期
217211350	GLJ01-506	日本語学共通講義 B	矢田 勉	後期
217211400	GLJ01-507	文献資料共通講義 A	丸井 貴史	前期
217211450	GLJ01-508	文献資料共通講義 B	丸井 貴史	後期
217221160	GLJ02-502	古代文学研究A I	休講	前期
217221170	GLJ02-503	古代文学研究AII	休講	後期
217221260	GLJ02-505	古代文学研究BI	休講	前期
217221270	GLJ02-506	古代文学研究BII	休講	後期
217221310	GLJ02-508	中世文学研究 I	休 講	前期
217221320	GLJ02-509	中世文学研究Ⅱ	休 講	後期
217221410	GLJ02-511	近世文学研究 I	休講	前期
217221420	GLJ02-512	近世文学研究	休 講	後期
217221510	GLJ02-514	近代文学研究AI	休 講	前期
217221520	GLJ02-515	近代文学研究 A II	休講	後期
217221610	GLJ02-517	近代文学研究BI	休 講	前期
217221620	GLJ02-518	近代文学研究BII	休 講	後期
217221710	GLJ02-520	日本語学研究AI	休 講	前期
217221720	GLJ02-521	日本語学研究 A II	休 講	後期
217221810	GLJ02-523	日本語学研究BI	岡部 嘉幸	前期
217221820	GLJ02-524	日本語学研究 B II	岡部 嘉幸	後期
217222160	GLJ02-526	古代文学演習A I	休講	前期
217222170	GLJ02-527	古代文学演習AII	休講	後期
217222260	GLJ02-529	古代文学演習BI	休講	前期
217222270	GLJ02-530	古代文学演習BII	休講	後期
217222310	GLJ02-532	中世文学演習 I	休講	前期
217222320	GLJ02-533	中世文学演習Ⅱ	休 講	後期
217222410	GLJ02-535	近世文学演習 I	休 講	前期
217222420	GLJ02-536	近世文学演習	休講	後期
217222510	GLJ02-538	近代文学演習AI	大橋 崇行	前期
217222520	GLJ02-539	近代文学演習 A II	大橋 崇行	後期
217222610	GLJ02-541	近代文学演習BI	休講	前期
217222620	GLJ02-542	近代文学演習BII	休講	後期
217222710	GLJ02-544	日本語学演習 A I	久保田 篤	前期
217222720	GLJ02-545	日本語学演習 A II	久保田 篤	後期

<前期課程・日本文学専攻>

講義コード	ナンバリング	講義名称	担当	4教員	開講期
217222810	GLJ02-547	日本語学演習BI	休	講	前期
217222820	GLJ02-548	日本語学演習 В ІІ	休	講	後期
217251100	GLJ03-501	論文演習	木谷	眞理子	通年
217251150	GLJ03-602	論文演習	木谷	眞理子	通年
217251200	GLJ03-501	論文演習	久保!	田 篤	通年
217251250	GLJ03-602	論文演習	久保!	田 篤	通年
217251300	GLJ03-501	論文演習	浜田	雄介	通年
217251350	GLJ03-602	論文演習	浜田	雄介	通年
217251400	GLJ03-501	論文演習	平野	多恵	通年
217251450	GLJ03-602	論文演習	平野	多恵	通年
217251500	GLJ03-501	論文演習	休	講	通年
217251550	GLJ03-602	論文演習	休	講	通年
217251600	GLJ03-501	論文演習 I	吉田	幹生	通年
217251650	GLJ03-602	論文演習	吉田	幹生	通年
217251700	GLJ03-501	論文演習	大橋	崇行	通年
217251750	GLJ03-602	論文演習	大橋	崇行	通年
217251800	GLJ03-501	論文演習	休	講	通年
217251850	GLJ03-602	論文演習	休	講	通年
217251900	GLJ03-501	論文演習	岡部	嘉幸	通年
217251950	GLJ03-602	論文演習 II	岡部	嘉幸	通年
217261100	GLJ04-501	課題研究Ⅰ	木谷	眞理子	通年
217261150	GLJ04-602	課題研究Ⅱ	木谷	眞理子	通年
217261200	GLJ04-501	課題研究Ⅰ	久保!	田篤	通年
217261250	GLJ04-602	課題研究Ⅱ	久保!	田篤	通年
217261300	GLJ04-501	課題研究Ⅰ	浜田	雄介	通年
217261350	GLJ04-602	課題研究Ⅱ	浜田	雄介	通年
217261400	GLJ04-501	課題研究I	平野	多恵	通年
217261450	GLJ04-602	課題研究Ⅱ	平野	多恵	通年
217261500	GLJ04-501	課題研究I	休	講	通年
217261550	GLJ04-602	課題研究Ⅱ	休	講	通年
217261600	GLJ04-501	課題研究I	吉田	幹生	通年
217261650 G	GLJ04-602	課題研究Ⅱ	吉田	幹生	通年
217261700 G	GLJ04-501	課題研究I	大橋	崇行	通年
217261750 G	GLJ04-602	課題研究Ⅱ	大橋	崇行	通年
217261800	GLJ04-501	課題研究I	休	講	通年
217261850	GLJ04-602	課題研究Ⅱ	休	講	通年
217261900	GLJ04-501	課題研究I	岡部	嘉幸	通年
217261950	GLJ04-602	課題研究Ⅱ	岡部	嘉幸	通年

<前期課程・社会文化論専攻>

入学年度により、科目名が異なりますので注意してください。

青	全学生対象科目です。
黄色	2021年度以前入学生 対象科目です。
白	2022年度以降入学生対象科目です。

講義コード	ナンバリング	講義名称	担当	教員	開	講期
217311100	GLS01-501	欧米文化研究	寺本	敬子	前期	
217311150	GLS01-502	欧米文化研究	寺本	敬子		後期
217311300	GLS01-503	国際社会文化研究Ⅰ	川村	陶子	前期	
217311350	GLS01-504	国際社会文化研究Ⅱ	川村	陶子		後期
217311500	GLS01-505	文化人類学研究 I	嶺崎	寛子	前期	
217311550	GLS01-506	文化人類学研究 II	嶺崎	寛子		後期
217311700	GLS01-507	歴史研究 A I	有富	純也	前期	
217311750	GLS01-508	歴史研究 A II	有富	純也		後期
217311800	GLS01-509	歴史研究 B I	中野	由美子	前期	
217311850	GLS01-510	歴史研究 B Ⅱ	中野	由美子		後期
217312000	GLS01-511	女性史・ジェンダー研究 I	竹内	敬子	前期	
217312050	GLS01-512	女性史・ジェンダー研究Ⅱ	竹内	敬子		後期
217312200	GLS01-513	社会学研究AI	内藤	準	前期	
217312250	GLS01-514	社会学研究AII	内藤	準		後期
217312300	GLS01-515	社会学研究BI	稲葉	佳奈子	前期	
217312350	GLS01-516	社会学研究BII	稲葉	佳奈子		後期
217312400	GLS01-517	社会学研究 C I	休	講	前期	
217312450	GLS01-518	社会学研究 C II	休	講		後期
217312600	GLS01-519	メディア研究AI	見城	武秀	前期	
217312650	GLS01-520	メディア研究AII	見城	武秀		後期
217312700	GLS01-521	メディア研究BI	西	兼志	前期	
217312750	GLS01-522	メディア研究BⅡ	西	兼志		後期
217312900	GLS01-523	地域福祉・NPO研究 I	休	講	前期	
217312950	GLS01-524	地域福祉・NPO研究 II	休	講		後期
217321100	GLS02-501	欧米文化演習	日尾野	浴 裕一	通	9年
217321110	GLS02-502	欧米文化演習I	日尾野	浴 裕一	前期	
217321120	GLS02-503	欧米文化演習	日尾野	浴—		後期
217321300	GLS02-504	国際社会文化演習	墓田	桂	通	年
217321310	GLS02-505	国際社会文化演習Ⅰ	墓田	桂	前期	
217321320	GLS02-506	国際社会文化演習Ⅱ	墓田	桂		後期
217321500	GLS02-507	文化人類学演習	細谷	広美	通	年
217321510	GLS02-508	文化人類学演習I	細谷	広美	前期	
217321520	GLS02-509	文化人類学演習 II	細谷	広美		後期

<前期課程・社会文化論専攻>

217321810 GLS02-513 歴史演習 B 樋口 真魚 前期 217321810 GLS02-514 歴史演習 B 樋口 真魚 前期 217322000 GLS02-515 歴史演習 B 樋口 真魚 前期 後見 217322010 GLS02-516 女性史・ジェンダー演習 休 講 前期 後見 217322010 GLS02-517 女性史・ジェンダー演習 休 講 前期 後見 21732200 GLS02-518 女性史・ジェンダー演習 休 講 後見 217322200 GLS02-518 女性史・ジェンダー演習 休 講 後見 217322200 GLS02-519 社会学演習 A 渡邉 大輔 前期 217322210 GLS02-520 社会学演習 A 渡邉 大輔 前期 217322200 GLS02-521 社会学演習 A 渡邉 大輔 前期 217322200 GLS02-521 社会学演習 B 小林 盾 通年 217322310 GLS02-522 社会学演習 B 小林 盾 前期 217322320 GLS02-523 社会学演習 B 小林 盾 前期 217322300 GLS02-524 社会学演習 B 小林 盾 前期 217322400 GLS02-525 社会学演習 C 休 講 通年 217322410 GLS02-526 社会学演習 C 休 講 前期 217322400 GLS02-527 社会学演習 C 休 講 前期 217322400 GLS02-527 社会学演習 C 休 講 後見 217322400 GLS02-528 メディア演習 A 伊藤 昌亮 通年 217322600 GLS02-531 メディア演習 A 伊藤 昌亮 前期 217322700 GLS02-531 メディア演習 B 今田 絵里香 通年 217322710 GLS02-532 メディア演習 B 今田 絵里香 前期 今田 絵里香 前期 217322700 GLS02-533 メディア演習 B 今田 絵里香 前期 次月 27322700 GLS02-534 地域福祉・NPO演習 澁谷 智子 前期 217322910 GLS02-535 地域福祉・NPO演習 沈谷 智子 前期 217322910 GLS02-535 地域福祉・NPO演習	講義コード	ナンバリング	講義名称	担当教員	開講期
217321720 GLS02-512 歴史演習 A	217321700	GLS02-510	歴史演習 A	佐々木 紳	通年
217321800 GLSO2-513 歴史演習 B 趣口 真魚 前期 217321810 GLSO2-514 歴史演習 B I 趣口 真魚 前期 217321820 GLSO2-515 歴史演習 B II 樋口 真魚 前期 217322010 GLSO2-516 女性史・ジェンダー演習 休 講	217321710	GLS02-511	歴史演習 A I	佐々木 紳	前期
217321810 GLS02-514 歴史演習 B 歴史演習 B	217321720	GLS02-512	歴史演習 A II	佐々木 紳	後期
217321820 GLS02-515 歴史演習 B	217321800	GLS02-513	歴史演習 B	樋口 真魚	通年
217322000 GLS02-516 女性史・ジェンダー渡習 休 講 前期 通年 17322010 GLS02-517 女性史・ジェンダー渡習 休 講 前期 後担 21732200 GLS02-518 女性史・ジェンダー渡習 休 講 後担 21732200 GLS02-519 社会学演習 A 渡邉 大輔 前期 後担 21732220 GLS02-520 社会学演習 A 渡邉 大輔 前期 後担 21732220 GLS02-521 社会学演習 A 渡邉 大輔 前期 後担 217322300 GLS02-521 社会学演習 B	217321810	GLS02-514	歴史演習BI	樋口 真魚	前期
217322010 GLS02-517 女性史・ジェンダー演習 休 講 前期 後担	217321820	GLS02-515	歴史演習BII	樋口 真魚	後期
217322200 GLS02-518 女性史・ジェンダー演習 休 講 後担	217322000	GLS02-516	女性史・ジェンダー演習	休講	通年
217322200 GLS02-519 社会学演習 A 渡邉 大輔 前期 12732220 GLS02-520 社会学演習 A 渡邉 大輔 前期 12732220 GLS02-521 社会学演習 B	217322010	GLS02-517	女性史・ジェンダー演習I	休講	前期
217322210 GLS02-520 社会学演習 A 渡邉 大輔 前期 21732220 GLS02-521 社会学演習 B	217322020	GLS02-518	女性史・ジェンダー演習Ⅱ	休講	後期
217322220 GLS02-521 社会学演習 A	217322200	GLS02-519	社会学演習 A	渡邉 大輔	通年
217322300 GLS02-522 社会学演習B 小林 盾 通年 217322310 GLS02-523 社会学演習B I 小林 盾 前期 217322320 GLS02-524 社会学演習B II 小林 盾 後期 217322400 GLS02-525 社会学演習C II 休 講 前期 217322400 GLS02-528 社会学演習C II 休 講 後期 217322600 GLS02-528 メディア演習A I 伊藤 昌亮 前期 217322610 GLS02-529 メディア演習A I 伊藤 昌亮 前期 217322700 GLS02-531 メディア演習B II 今田 絵里香 通年 217322710 GLS02-532 メディア演習B II 今田 絵里香 前期 217322720 GLS02-533 メディア演習B II 今田 絵里香 通年 217322720 GLS02-534 地域福祉・NPO演習 I 遊谷 智子 通年 217322910 GLS02-535 地域福祉・NPO演習 I 遊谷 智子 通年 217322920 GLS03-501 論文演習 I 海窩 純也 通年 通年 217351100 GLS03-501 論文演習 I 有富 純也 通年 通年 217351200	217322210	GLS02-520	社会学演習 A I	渡邉 大輔	前期
217322310 GLS02-523 社会学演習 B	217322220	GLS02-521	社会学演習 A II	渡邉 大輔	後期
217322320 GLS02-524 社会学演習 B II	217322300	GLS02-522	社会学演習 B	小林 盾	通年
217322410 GLS02-525 社会学演習C 休 講 前期 通年 217322410 GLS02-526 社会学演習C 休 講 前期 後其 217322420 GLS02-527 社会学演習C	217322310	GLS02-523	社会学演習BI	小林 盾	前期
217322410 GLS02-526 社会学演習CI 休 講 前期 217322420 GLS02-527 社会学演習CII 休 講 後見 217322600 GLS02-528 メディア演習A 伊藤 昌亮 前期 217322610 GLS02-529 メディア演習AII 伊藤 昌亮 前期 217322620 GLS02-530 メディア演習AII 伊藤 昌亮 適年 217322700 GLS02-531 メディア演習BI 今田 絵里香 前期 217322710 GLS02-532 メディア演習BI 今田 絵里香 前期 217322720 GLS02-533 メディア演習BII 今田 絵里香 前期 217322910 GLS02-534 地域福祉・NPO演習I 遊谷 智子 前期 217322910 GLS02-535 地域福祉・NPO演習I 遊谷 智子 前期 217322920 GLS03-501 論文演習I 海谷 智子 前期 217351100 GLS03-501 論文演習I 有富 純也 通年 217351200 GLS03-602 論文演習I 伊藤 昌亮 通年 217351300 GLS03-501 論文演習I 伊藤 昌亮 通年 217351400 GLS03-602 論文演習I 今田 絵里香 通年 217351450 GLS03-602 論文演習I 今田 絵里香 通年 217351450 GLS03-602 論文演習I 別村 陶子 通年 217351550 <	217322320	GLS02-524	社会学演習BII	小林 盾	後期
217322420 GLS02-527 社会学演習C	217322400	GLS02-525	社会学演習C	休 講	通年
217322600 GLS02-528 メディア演習A 伊藤 昌亮 通年 217322610 GLS02-529 メディア演習A I 伊藤 昌亮 前期 217322620 GLS02-530 メディア演習A II 伊藤 昌亮 後其 217322700 GLS02-531 メディア演習B 今田 絵里香 通年 217322710 GLS02-532 メディア演習B II 今田 絵里香 前期 217322720 GLS02-533 メディア演習B II 今田 絵里香 後具 217322900 GLS02-534 地域福祉・NPO演習 I 澁谷 智子 前期 217322910 GLS02-535 地域福祉・NPO演習 I 澁谷 智子 前期 217322920 GLS03-501 論文演習 I 有富 純也 通年 217351100 GLS03-501 論文演習 I 有富 純也 通年 217351200 GLS03-602 論文演習 II 伊藤 昌亮 通年 217351300 GLS03-501 論文演習 II 今田 絵里香 通年 217351400 GLS03-501 論文演習 II 今田 絵里香 通年 217351500 GLS03-602 論文演習 II 月田 中 通年 217351500 GLS03-501 論文演習 II 月田 月田 通年	217322410	GLS02-526	社会学演習CI	休講	前期
217322610 GLS02-529 メディア演習 A 伊藤 昌亮 前期 217322620 GLS02-530 メディア演習 A 伊藤 昌亮 後期 217322700 GLS02-531 メディア演習 B 今田 絵里香 通年 217322710 GLS02-532 メディア演習 B 今田 絵里香 前期 217322720 GLS02-533 メディア演習 B 今田 絵里香 前期 今田 絵里香 前期 217322900 GLS02-534 地域福祉・NPO演習 遊谷 智子 前期 217322910 GLS02-535 地域福祉・NPO演習 遊谷 智子 前期 217322920 GLS02-536 地域福祉・NPO演習 遊谷 智子 前期 217322920 GLS02-536 地域福祉・NPO演習 遊谷 智子 前期 217351100 GLS03-501 論文演習 有富 純也 通年 217351120 GLS03-602 論文演習 伊藤 昌亮 通年 217351250 GLS03-602 論文演習 伊藤 昌亮 通年 217351300 GLS03-501 論文演習 伊藤 昌亮 通年 217351300 GLS03-501 論文演習 伊藤 昌亮 通年 217351300 GLS03-501 論文演習 伊藤 昌亮 通年 217351400 GLS03-501 論文演習 伊藤 昌亮 通年 217351400 GLS03-501 論文演習 月田 絵里香 通年 217351400 GLS03-501 論文演習 月田 絵里香 通年 217351450 GLS03-602 論文演習 月田 月田 日田 日田 日田 日田 日田 日田	217322420	GLS02-527	社会学演習 C II	休講	後期
217322620 GLS02-530 メディア演習 A II 伊藤 昌亮 後其 217322700 GLS02-531 メディア演習 B 今田 絵里香 通年 217322710 GLS02-532 メディア演習 B I 今田 絵里香 前期 217322720 GLS02-533 メディア演習 B II 今田 絵里香 前期 217322900 GLS02-534 地域福祉・NPO演習	217322600	GLS02-528	メディア演習 A	伊藤 昌亮	通年
217322700 GLS02-531 メディア演習B 今田 絵里香 前期 217322710 GLS02-532 メディア演習B I 今田 絵里香 前期 217322720 GLS02-533 メディア演習B II 今田 絵里香 後期 217322900 GLS02-534 地域福祉・NPO演習	217322610	GLS02-529	メディア演習 A I	伊藤 昌亮	前期
217322710 GLS02-532 メディア演習B	217322620	GLS02-530	メディア演習 A II	伊藤 昌亮	後期
217322720 GLS02-533 メディア演習BII 今田 絵里香 後其 217322900 GLS02-534 地域福祉・NPO演習 遊谷 智子 前期 217322910 GLS02-535 地域福祉・NPO演習II 遊谷 智子 前期 217322920 GLS02-536 地域福祉・NPO演習II 遊谷 智子 後其 217351100 GLS03-501 論文演習II 有富 純也 通年 217351200 GLS03-602 論文演習II 伊藤 昌亮 通年 217351250 GLS03-602 論文演習II 伊藤 昌亮 通年 217351300 GLS03-501 論文演習II 今田 絵里香 通年 217351350 GLS03-602 論文演習II 今田 絵里香 通年 217351400 GLS03-602 論文演習II 川村 陶子 通年 217351450 GLS03-602 論文演習II 川村 陶子 通年 217351500 GLS03-602 論文演習II 月城 武秀 通年 217351550 GLS03-602 論文演習II 月城 武秀 通年	217322700	GLS02-531	メディア演習B	今田 絵里香	通年
217322900GLS02-534地域福祉・NPO演習 I遊谷 智子 前期217322910GLS02-535地域福祉・NPO演習 I遊谷 智子 前期217322920GLS02-536地域福祉・NPO演習 II遊谷 智子 後期217351100GLS03-501論文演習 I有富 純也 通年217351150GLS03-602論文演習 II伊藤 昌亮 通年217351200GLS03-501論文演習 II伊藤 昌亮 通年217351250GLS03-602論文演習 II伊藤 昌亮 通年217351300GLS03-501論文演習 II今田 絵里香 通年217351350GLS03-602論文演習 II今田 絵里香 通年217351400GLS03-501論文演習 I川村 陶子 通年217351450GLS03-602論文演習 II川村 陶子 通年217351500GLS03-501論文演習 II見城 武秀 通年217351500GLS03-602論文演習 II見城 武秀 通年	217322710	GLS02-532	メディア演習BI	今田 絵里香	前期
217322910GLS02-535地域福祉・NPO演習 I遊谷 智子前期217322920GLS02-536地域福祉・NPO演習 II遊谷 智子後期217351100GLS03-501論文演習 I有富 純也通年217351150GLS03-602論文演習 II伊藤 昌亮通年217351200GLS03-501論文演習 II伊藤 昌亮通年217351300GLS03-602論文演習 II今田 絵里香通年217351350GLS03-602論文演習 II今田 絵里香通年217351400GLS03-501論文演習 II川村 陶子通年217351450GLS03-602論文演習 II川村 陶子通年217351500GLS03-501論文演習 II月城 武秀通年217351550GLS03-602論文演習 II見城 武秀通年217351550GLS03-602論文演習 II見城 武秀通年	217322720	GLS02-533	メディア演習BII	今田 絵里香	後期
217322920 GLS02-536 地域福祉・NPO演習	217322900	GLS02-534	地域福祉・NPO演習	澁谷 智子	通年
217351100GLS03-501論文演習 I有富 純也通年217351150GLS03-602論文演習 I伊藤 昌亮通年217351200GLS03-501論文演習 I伊藤 昌亮通年217351300GLS03-602論文演習 I今田 絵里香通年217351350GLS03-602論文演習 I今田 絵里香通年217351400GLS03-501論文演習 I川村 陶子通年217351450GLS03-602論文演習 I川村 陶子通年217351500GLS03-501論文演習 I月城 武秀通年217351500GLS03-602論文演習 I見城 武秀通年217351550GLS03-602論文演習 I見城 武秀通年	217322910	GLS02-535	地域福祉・NPO演習 I	澁谷 智子	前期
217351150GLS03-602論文演習 I有富 純也通年217351200GLS03-501論文演習 I伊藤 昌亮通年217351250GLS03-602論文演習 I今田 絵里香通年217351300GLS03-501論文演習 I今田 絵里香通年217351350GLS03-602論文演習 I川村 陶子通年217351400GLS03-501論文演習 I川村 陶子通年217351450GLS03-602論文演習 I川村 陶子通年217351500GLS03-501論文演習 I見城 武秀通年217351550GLS03-602論文演習 II見城 武秀通年	217322920	GLS02-536	地域福祉・NPO演習 II	澁谷 智子	後期
217351200 GLS03-501 論文演習 I 伊藤 昌亮 通年 217351250 GLS03-602 論文演習 II 伊藤 昌亮 通年 217351300 GLS03-501 論文演習 I 今田 絵里香 通年 217351350 GLS03-602 論文演習 I 川村 陶子 通年 217351450 GLS03-602 論文演習 I 川村 陶子 通年 217351500 GLS03-501 論文演習 I 見城 武秀 通年 217351550 GLS03-602 論文演習 I 見城 武秀 通年 217351550 GLS03-602 論文演習 II 見城 武秀 通年	217351100	GLS03-501	論文演習 I	有富 純也	通年
217351250 GLS03-602 論文演習 II 伊藤 昌亮 通年 217351300 GLS03-501 論文演習 II 今田 絵里香 通年 217351350 GLS03-602 論文演習 II 今田 絵里香 通年 217351400 GLS03-501 論文演習 I 川村 陶子 通年 217351450 GLS03-602 論文演習 II 川村 陶子 通年 217351500 GLS03-501 論文演習 I 見城 武秀 通年 217351550 GLS03-602 論文演習 II 見城 武秀 通年	217351150	GLS03-602	論文演習 II	有富 純也	通年
217351300 GLS03-501 論文演習 I 今田 絵里香 通年 217351350 GLS03-602 論文演習 I ////////////////////////////////////	217351200	GLS03-501	論文演習 l	伊藤 昌亮	通年
217351350 GLS03-602 論文演習 II 今田 絵里香 通年 217351400 GLS03-501 論文演習 I 川村 陶子 通年 217351450 GLS03-602 論文演習 I 川村 陶子 通年 217351500 GLS03-501 論文演習 I 見城 武秀 通年 217351550 GLS03-602 論文演習 II 見城 武秀 通年	217351250	GLS03-602	論文演習	伊藤 昌亮	通年
217351400 GLS03-501 論文演習 I 川村 陶子 通年 217351450 GLS03-602 論文演習 II 川村 陶子 通年 217351500 GLS03-501 論文演習 I 見城 武秀 通年 217351550 GLS03-602 論文演習 II 見城 武秀 通年	217351300	GLS03-501	論文演習 I	今田 絵里香	通年
217351450 GLS03-602 論文演習 II 川村 陶子 通年 217351500 GLS03-501 論文演習 I 見城 武秀 通年 217351550 GLS03-602 論文演習 II 見城 武秀 通年	217351350	GLS03-602	論文演習Ⅱ	今田 絵里香	通年
217351500 GLS03-501 論文演習 I 見城 武秀 通年 217351550 GLS03-602 論文演習 II 見城 武秀 通年	217351400	GLS03-501	論文演習 I	川村 陶子	通年
217351550 GLS03-602 論文演習 II 見城 武秀 通年	217351450	GLS03-602	論文演習Ⅱ	川村 陶子	通年
	217351500	GLS03-501	論文演習	見城 武秀	通年
217351600 GLS03-501 論文演習 I 小林 盾 通年	217351550	GLS03-602	論文演習 II	見城 武秀	通年
	217351600	GLS03-501	論文演習 I	小林 盾	通年

<前期課程・社会文化論専攻>

講義コード	ナンバリング	講義名称	担当教員	開講期
217351650	GLS03-602	論文演習Ⅱ	小林 盾	通年
217351700	GLS03-501	論文演習 I	佐々木 紳	通年
217351750	GLS03-602	論文演習	佐々木 紳	通年
217351800	GLS03-501	論文演習 I	澁谷 智子	通年
217351850	GLS03-602	論文演習	澁谷 智子	通年
217351900	GLS03-501	論文演習 I	細谷 広美	通年
217351950	GLS03-602	論文演習 II	細谷 広美	通年
217352000	GLS03-501	論文演習 I	中野 由美子	通年
217352050	GLS03-602	論文演習	中野 由美子	通年
217352100	GLS03-501	論文演習 I	西兼志	通年
217352150	GLS03-602	論文演習	西兼志	通年
217352200	GLS03-501	論文演習 I	墓田 桂	通年
217352250	GLS03-602	論文演習Ⅱ	墓田 桂	通年
217352300	GLS03-501	論文演習 I	嶺崎 寛子	通年
217352350	GLS03-602	論文演習	嶺崎 寛子	通年
217352400	GLS03-501	論文演習 I	渡邉 大輔	通年
217352450	GLS03-602	論文演習	渡邉 大輔	通年
217352500	GLS03-501	論文演習 I	内藤準	通年
217352550	GLS03-602	論文演習	内藤準	通年
217361100	GLS04-501	課題研究Ⅰ	有富 純也	通年
217361150	GLS04-602	課題研究Ⅱ	有富 純也	通年
217361200	GLS04-501	課題研究Ⅰ	伊藤 昌亮	通年
217361250	GLS04-602	課題研究Ⅱ	伊藤 昌亮	通年
217361300	GLS04-501	課題研究丨	今田 絵里香	通年
217361350	GLS04-602	課題研究Ⅱ	今田 絵里香	通年
217361400	GLS04-501	課題研究Ⅰ	川村 陶子	通年
217361450	GLS04-602	課題研究Ⅱ	川村 陶子	通年
217361500	GLS04-501	課題研究I	見城 武秀	通年
217361550	GLS04-602	課題研究Ⅱ	見城 武秀	通年
217361600	GLS04-501	課題研究I	小林 盾	通年
217361650	GLS04-602	課題研究Ⅱ	小林 盾	通年
217361700	GLS04-501	課題研究 I	佐々木 紳	通年
217361750	GLS04-602	課題研究Ⅱ	佐々木 紳	通年
217361800	GLS04-501	課題研究I	澁谷 智子	通年
217361850	GLS04-602	課題研究Ⅱ	澁谷 智子	通年
217361900	GLS04-501	課題研究 I	細谷 広美	通年
217361950	GLS04-602	課題研究Ⅱ	細谷 広美	通年
217362000	GLS04-501	課題研究丨	中野 由美子	通年

<前期課程・社会文化論専攻>

講義コード	ナンバリング	講義名称	担当教員	開講期
217362050	GLS04-602	課題研究Ⅱ	中野 由美子	通年
217362100	GLS04-501	課題研究丨	西兼志	通年
217362150	GLS04-602	課題研究Ⅱ	西兼志	通年
217362200	GLS04-501	課題研究Ⅰ	墓田 桂	通年
217362250	GLS04-602	課題研究Ⅱ	墓田 桂	通年
217362300	GLS04-501	課題研究Ⅰ	嶺崎 寛子	通年
217362350	GLS04-602	課題研究Ⅱ	嶺崎 寛子	通年
217362400	GLS04-501	課題研究丨	渡邉 大輔	通年
217362450	GLS04-602	課題研究Ⅱ	渡邉 大輔	通年
217362500	GLS04-501	課題研究Ⅰ	内藤準	通年
217362550	GLS04-602	課題研究Ⅱ	内藤準	通年

講義コード	ナンバリング	講義名称	担当教員	開講期
			青柳 里果	
201000750	GSZ01-511	学際分野特殊研究(原子核のエネルギー)	岩瀬 広] - 後期
201000730	G3Z01-311	子院ガ封付添明九(原)核のエネルキー)	栗原 良将	1
			西山 潤	
201000800	GSZ01-510	学際分野特殊研究 (データの科学)	竹之内 高志	後期
201000900	GSZ01-509	学際分野特殊研究(知的財産と経営)	休 講	前期
203969130	GEZ11-501	学際分野特殊研究(力学系の理論と応用)	休 講	前期
206960160	GJZ01-501	学際分野特殊研究(科学の考え方Ⅰ)	瀬戸 一夫	前期
206960170	GSZ01-510	学際分野特殊研究(科学の考え方Ⅱ)	瀬戸 一夫	後期

<後期課程・英米文学専攻>

入学年度により、科目名が異なりますので注意してください。

青	全学生対象科目です。
黄色	2021年度以前入学生 対象科目です。
白	2022年度以降入学生対象科目です。

講義コード ナンバリング	講義名称	担当	4教員	開講期
217401100 GLE01-701	イギリス文学特殊研究 A	休	講	通年
217401110 GLE01-702	イギリス文学特殊研究AI	休	講	前期
217401120 GLE01-703	イギリス文学特殊研究 A II	矢口	朱美	後期
217401200 GLE01-704	イギリス文学特殊研究B	遠藤	不比人	通年
217401210 GLE01-705	イギリス文学特殊研究BI	遠藤	不比人	前期
217401220 GLE01-706	イギリス文学特殊研究BII	遠藤	不比人	後期
217401300 GLE01-707	イギリス文学特殊研究C	休	講	通年
217401310 GLE01-708	イギリス文学特殊研究CI	休	講	前期
217401320 GLE01-709	イギリス文学特殊研究CII	休	講	後期
217402100 GLE01-710	アメリカ文学特殊研究 A	休	講	通年
217402110 GLE01-711	アメリカ文学特殊研究AI	休	講	前期
217402120 GLE01-712	アメリカ文学特殊研究 A II	休	講	後期
217402200 GLE01-713	アメリカ文学特殊研究B	休	講	通年
217402210 GLE01-714	アメリカ文学特殊研究BI	休	講	前期
217402220 GLE01-715	アメリカ文学特殊研究BII	休	講	後期
217402300 GLE01-716	アメリカ文学特殊研究C	休	講	通年
217402310 GLE01-717	アメリカ文学特殊研究CI	休	講	前期
217402320 GLE01-718	アメリカ文学特殊研究CⅡ	休	講	後期
217403100 GLE01-719	英語学特殊研究A	休	講	通年
217403110 GLE01-720	英語学特殊研究 A I	休	講	前期
217403120 GLE01-721	英語学特殊研究 A II	休	講	後期
217403200 GLE01-722	英語学特殊研究B	休	講	通年
217403210 GLE01-723	英語学特殊研究BI	休	講	前期
217403220 GLE01-724	英語学特殊研究 B II	休	講	後期
217404100 GLE01-725	英語教育特殊研究 A	小野	尚美	通年
217404110 GLE01-726	英語教育特殊研究AI	小野	尚美	前期
217404120 GLE01-727	英語教育特殊研究 A II	小野	尚美	後期
217404200 GLE01-728	英語教育特殊研究B	休	講	通年
217404210 GLE01-729	英語教育特殊研究BI	休	講	前期
217404220 GLE01-730	英語教育特殊研究 B II	休	講	後期

<後期課程・英米文学専攻>

講義コード	ナンバリング	講義名称	担当教員	開講期
217411110	GLE01-791	論文演習Ⅲ	遠藤 不比人	通年
217411120	GLE01-892	論文演習Ⅳ	遠藤 不比人	通年
217411130	GLE01-993	論文演習 V	遠藤 不比人	通年
217411210	GLE01-791	論文演習Ⅲ	小野 尚美	通年
217411220	GLE01-892	論文演習Ⅳ	小野 尚美	通年
217411230	GLE01-993	論文演習 V	小野 尚美	通年
217411310	GLE01-791	論文演習Ⅲ	庄司 宏子	通年
217411320	GLE01-892	論文演習Ⅳ	庄司 宏子	通年
217411330	GLE01-993	論文演習 V	庄司 宏子	通年
217411410	GLE01-791	論文演習Ⅲ	休 講	通年
217411420	GLE01-892	論文演習Ⅳ	休講	通年
217411430	GLE01-993	論文演習 V	休 講	通年
217411510	GLE01-791	論文演習Ⅲ	休 講	通年
217411520	GLE01-892	論文演習Ⅳ	休 講	通年
217411530	GLE01-993	論文演習 V	休 講	通年
217411610	GLE01-791	論文演習Ⅲ	休 講	通年
217411620	GLE01-892	論文演習Ⅳ	休 講	通年
217411630	GLE01-993	論文演習 V	休 講	通年

<後期課程・日本文学専攻>

講義コード	ナンバリング	講義名称	担当教員	開講期
217500100	GLJ01-701	古典文学特殊講義A	平野多恵	前期
217500150	GLJ01-702	古典文学特殊講義B	平野 多恵	後期
217500200	GLJ01-703	近代文学特殊講義A	林 廣親	前期
217500250	GLJ01-704	近代文学特殊講義B	林 廣親	後期
217500300	GLJ01-705	日本語学特殊講義A	矢田 勉	前期
217500350	GLJ01-706	日本語学特殊講義B	矢田 勉	後期
217500400	GLJ01-707	文献資料特殊講義A	丸井 貴史	前期
217500450	GLJ01-708	文献資料特殊講義B	丸井 貴史	後期
217501210	GLJ01-710	古代文学特殊研究A I	休講	前期
217501220	GLJ01-711	古代文学特殊研究AII	休講	後期
217502210	GLJ01-713	古代文学特殊研究BI	休講	前期
217502220	GLJ01-714	古代文学特殊研究BII	休講	後期
217503110	GLJ01-716	中世文学特殊研究Ⅰ	休講	前期
217503120	GLJ01-717	中世文学特殊研究Ⅱ	休講	後期
217504110	GLJ01-719	近世文学特殊研究	休講	前期
217504120	GLJ01-720	近世文学特殊研究	休講	後期
217505060	GLJ01-722	近代文学特殊研究AI	大橋 崇行	前期
217505070	GLJ01-723	近代文学特殊研究 A II	大橋 崇行	後期
217505160	GLJ01-725	近代文学特殊研究BI	休 講	前期
217505170	GLJ01-726	近代文学特殊研究BII	休 講	後期
217506110	GLJ01-728	日本語学特殊研究 A I	久保田 篤	前期
217506120	GLJ01-729	日本語学特殊研究 A II	久保田 篤	後期
217506210	GLJ01-731	日本語学特殊研究BI	岡部 嘉幸	前期
217506220	GLJ01-732	日本語学特殊研究BII	岡部 嘉幸	後期
217510110	GLJ01-791	論文演習Ⅲ	久保田 篤	通年
217510120	GLJ01-892	論文演習Ⅳ	久保田 篤	通年
217510130	GLJ01-993	論文演習 V	久保田 篤	通年
217510210	GLJ01-892	論文演習Ⅲ	浜田 雄介	通年
217510220	GLJ01-892	論文演習Ⅳ	浜田 雄介	通年
217510230	GLJ01-993	論文演習 V	浜田 雄介	通年
217510310	GLJ01-791	論文演習Ⅲ	平野多恵	通年
217510320	GLJ01-892	論文演習Ⅳ	平野 多恵	通年
217510330	GLJ01-993	論文演習 V	平野多恵	通年
217510410	GLJ01-791	論文演習Ⅲ	休 講	通年
217510420	GLJ01-892	論文演習IV	休 講	通年
217510430	GLJ01-993	論文演習 V	休 講	通年
217510510	GLJ01-791	論文演習Ⅲ	吉田 幹生	通年
217510520	GLJ01-892	論文演習Ⅳ	吉田 幹生	通年

<後期課程・日本文学専攻>

講義コード	ナンバリング	講義名称	担当教員	開講期
217510530	GLJ01-993	論文演習 V	吉田 幹生	通年
217510610	GLJ01-791	論文演習Ⅲ	岡部 嘉幸	通年
217510620	GLJ01-892	論文演習Ⅳ	岡部 嘉幸	通年
217510630	GLJ01-993	論文演習 V	岡部 嘉幸	通年

<後期課程・社会文化論専攻>

入学年度により、科目名が異なりますので注意してください。

青	全学生対象科目です。
黄色	2021年度以前入学生 対象科目です。
白	2022年度以降入学生対象科目です。

講義コード	ナンバリング	講義名称	担当	教員	開講	期
217601100	GLS01-701	欧米文化特殊研究 A	休	講	通年	Ŧ_
217601110	GLS01-702	欧米文化特殊研究 A I	休	講	前期	
217601120	GLS01-703	欧米文化特殊研究 A II	休	講		後期
217601200	GLS01-704	欧米文化特殊研究B	休	講	通台	F
217601210	GLS01-705	欧米文化特殊研究BI	休	講	前期	
217601220	GLS01-706	欧米文化特殊研究BII	休	講		後期
217602100	GLS01-707	国際社会文化特殊研究 A	川村	陶子	通年	F
217602110	GLS01-708	国際社会文化特殊研究AI	川村	陶子	前期	
217602120	GLS01-709	国際社会文化特殊研究 A II	川村	陶子		後期
217602200	GLS01-710	国際社会文化特殊研究B	墓田	桂	通年	F
217602210	GLS01-711	国際社会文化特殊研究BI	墓田	桂	前期	
217602220	GLS01-712	国際社会文化特殊研究 B II	墓田	桂		後期
217603100	GLS01-713	文化人類学特殊研究 A	嶺崎	寛子	通年	Ę_
217603110	GLS01-714	文化人類学特殊研究 A I	嶺崎	寛子	前期	
217603120	GLS01-715	文化人類学特殊研究 A II	嶺崎	寛子		後期
217603200	GLS01-716	文化人類学特殊研究B	細谷	広美	通年	F
217603210	GLS01-717	文化人類学特殊研究BI	細谷	広美	前期	
217603220	GLS01-718	文化人類学特殊研究BII	細谷	広美		後期
217604100	GLS01-719	歴史特殊研究 A	有富	純也	通年	Ę.
217604110	GLS01-720	歴史特殊研究 A I	有富	純也	前期	
217604120	GLS01-721	歴史特殊研究 A II	有富	純也		後期
217604200	GLS01-722	歴史特殊研究 B	中野	由美子	通年	F
217604210	GLS01-723	歴史特殊研究B I	中野	由美子	前期	
217604220	GLS01-724	歴史特殊研究BⅡ	中野	由美子		後期
217604300	GLS01-725	歴史特殊研究 C	竹内	敬子	通年	Ę.
217604310	GLS01-726	歴史特殊研究CI	竹内	敬子	前期	
217604320	GLS01-727	歴史特殊研究 C Ⅱ	竹内	敬子		後期
217604400	GLS01-728	歴史特殊研究 D	佐々ス	木 紳	通年	Ę
217604410	GLS01-729	歴史特殊研究 D I	佐々ス	木 紳	前期	
217604420	GLS01-730	歴史特殊研究 D II	佐々ス	木 紳		後期
217605100	GLS01-731	社会学特殊研究 A	小林	盾	通年	F
217605110	GLS01-732	社会学特殊研究 A I	小林	盾	前期	
217605120	GLS01-733	社会学特殊研究 A II	小林	盾		後期

<後期課程・社会文化論専攻>

講義コード	ナンバリング	講義名称	担当	4教員	開講期
217605200	GLS01-734	社会学特殊研究 B	渡邉	大輔	通年
217605210	GLS01-735	社会学特殊研究BI	渡邉	大輔	前期
217605220	GLS01-736	社会学特殊研究BII	渡邉	大輔	後期
217605300	GLS01-737	社会学特殊研究C	澁谷	智子	通年
217605310	GLS01-738	社会学特殊研究CI	澁谷	智子	前期
217605320	GLS01-739	社会学特殊研究CⅡ	澁谷	智子	後期
217605400	GLS01-740	社会学特殊研究D	休	講	通年
217605410	GLS01-741	社会学特殊研究 D I	休	講	前期
217605420	GLS01-742	社会学特殊研究 D II	休	講	後期
217605500	GLS01-743	社会学特殊研究E	休	講	通年
217605510	GLS01-744	社会学特殊研究E I	休	講	前期
217605520	GLS01-745	社会学特殊研究E II	休	講	後期
217605600	GLS01-746	社会学特殊研究F	休	講	通年
217605610	GLS01-747	社会学特殊研究F I	休	講	前期
217605620	GLS01-748	社会学特殊研究FⅡ	休	講	後期
217606100	GLS01-749	メディア特殊研究 A	伊藤	昌亮	通年
217606110	GLS01-750	メディア特殊研究AI	伊藤	昌亮	前期
217606120	GLS01-751	メディア特殊研究 A II	伊藤	昌亮	後期
217606200	GLS01-752	メディア特殊研究 B	今田	絵里香	通年
217606210	GLS01-753	メディア特殊研究BI	今田	絵里香	前期
217606220	GLS01-754	メディア特殊研究BII	今田	絵里香	後期
217606300	GLS01-755	メディア特殊研究C	西	兼志	通年
217606310	GLS01-756	メディア特殊研究CI	西	兼志	前期
217606320	GLS01-757	メディア特殊研究CII	西	兼志	後期
217606400	GLS01-758	メディア特殊研究D	休	講	通年
217606410	GLS01-759	メディア特殊研究D I	休	講	前期
217606420	GLS01-760	メディア特殊研究DII	休	講	後期
217611110	GLS01-791	論文演習Ⅲ	今田	絵里香	通年
217611120	GLS01-892	論文演習Ⅳ	今田	絵里香	通年
217611130	GLS01-993	論文演習 V	今田	絵里香	通年
217611210	GLS01-791	論文演習Ⅲ	伊藤	昌亮	通年
217611220	GLS01-892	論文演習Ⅳ	伊藤	昌亮	通年
217611230	GLS01-993	論文演習 V	伊藤	昌亮	通年
217611310	GLS01-791	論文演習Ⅲ	細谷	広美	通年
217611320	GLS01-892	論文演習IV	細谷	広美	通年
217611330	GLS01-993	論文演習 V	細谷	広美	通年
217611410	GLS01-791	論文演習Ⅲ	中野	由美子	通年
217611420	GLS01-892	論文演習Ⅳ	中野	由美子	通年

<後期課程・社会文化論専攻>

講義コード	ナンバリング	講義名称	担当教員	開講期
217611430	GLS01-993	論文演習 V	中野 由美子	通年
217611510	GLS01-791	論文演習Ⅲ	澁谷 智子	通年
217611520	GLS01-892	論文演習Ⅳ	澁谷 智子	通年
217611530	GLS01-993	論文演習 V	澁谷 智子	通年
217611610	GLS01-791	論文演習Ⅲ	墓田 桂	通年
217611620	GLS01-892	論文演習Ⅳ	墓田 桂	通年
217611630	GLS01-993	論文演習 V	墓田 桂	通年
217611710	GLS01-791	論文演習Ⅲ	渡邉 大輔	通年
217611720	GLS01-892	論文演習Ⅳ	渡邉 大輔	通年
217611730	GLS01-993	論文演習 V	渡邉 大輔	通年
217611810	GLS01-791	論文演習Ⅲ	小林 盾	通年
217611820	GLS01-892	論文演習Ⅳ	小林 盾	通年
217611830	GLS01-993	論文演習 V	小林 盾	通年
217611910	GLS01-791	論文演習Ⅲ	川村 陶子	通年
217611920	GLS01-892	論文演習Ⅳ	川村 陶子	通年
217611930	GLS01-993	論文演習 V	川村 陶子	通年